

青森県立美術館

年報

平成30年度

目次

青森県立美術館の沿革

展覧会

- 006 企画展
- 031 コレクション展
- 040 重点事業

学芸

- 046 美術資料収集
- 050 美術資料貸出状況
- 051 作品保存修復

教育普及

- 054 普及プログラム
- 058 スクールプログラム
- 060 サポートスタッフ

パフォーミングアーツ

- 064 演劇
- 068 ダンス
- 073 音楽
- 077 映画

サービス等

- 084 貸館
- 086 図書室
- 087 キッズルーム
- 088 博物館実習
- 089 サポートシップ倶楽部

資料

- 092 広報
- 093 広聴
- 094 入館者数
- 095 運営予算・決算
- 096 組織
- 097 関係規程等
- 100 施設設備概要

青森県立美術館の沿革

| | |
|-------------|---|
| 1990年3月 | 美術館の設置について検討を開始することを表明 |
| 1991年1月 | 美術館、音楽・演劇ホール等の複合文化ゾーンである「総合芸術パーク」の検討開始 |
| 1996年2月 | 総合芸術パークの建設場所を三内丸山遺跡に隣接した移転予定の総合運動公園跡地に決定 総合芸術パークの核となる美術館を先行し整備することが決定 |
| 1999年度 | 美術館設計競技を実施、最優秀者に青木淳氏 |
| 2000年度 | 建築基本設計 |
| 2001年度 | 建築実施設計 |
| 2002年度 | 美術館建築工事着工 |
| 2003年度 | 別棟で建築予定であったアトリエとレジデンスを休止、同じく別棟で建築予定であったレストラン、ミュージアムショップを美術館本体に組み込むなどの見直しを行う |
| 2005年9月20日 | 美術館竣工 |
| 2005年10月17日 | 「青森県立美術館条例」制定 |
| 2006年3月17日 | 第1回「運営諮問会議」 |
| 2006年4月1日 | 青森県立美術館開館準備室設置 |
| 2006年6月13日 | 開館プレス発表開催 |
| 2006年7月13日 | 開館（館長 三村申吾） |
| 2007年7月24日 | 博物館法に基づく博物館相当施設登録（青森県教育委員会告示第11号） |
| 2007年9月13日 | 「県民のための美術館づくり懇話会」設置 |
| 2008年7月19日 | あおり犬屋外連絡通路開通 |
| 2008年7月20日 | 青森県立美術館2周年記念シンポジウム開催 |
| 2009年1月1日 | 新館長 鷹山ひばり 就任 |
| 2010年5月7日 | 入館者150万人達成 |
| 2010年7月8日 | あおり犬えさ皿完成 |
| 2011年7月11日 | 入館者200万人達成 |
| 2011年7月13日 | 開館5周年 |
| 2012年11月14日 | 入館者250万人達成 |
| 2013年11月14日 | 入館者300万人達成 |
| 2015年4月1日 | 新館長 杉本 康雄 就任 |
| 2016年3月 | 入館者350万人達成 |
| 2016年3月19日 | 「青森県立美術館アドバイザー・ボード」設置 |
| 2016年7月13日 | 開館10周年 |
| 2016年12月23日 | 八角堂リニューアル 《miss forest / 森の子》完成 |
| 2018年5月25日 | 入館者400万人達成 |

展覧会

企画展

「シャガール - 三次元の世界」展

絵画の絆「フランスと日本」展

めがねと旅する美術展

コレクション展

コレクション展Ⅰ

コレクション展Ⅱ

コレクション展Ⅲ

コレクション展Ⅳ

重点事業

アグロス・アートプロジェクト 2018 明日の収穫〈刈入れ編〉

アグロス・アートプロジェクト 2017-18 明日の収穫 成果発表展示

凡例

- 1 出品作品の項は、出品番号、作家・作品名、制作年、材質技法、寸法（高さ×縦×横、cm）、所蔵先の順に記した。
- 2 掲載記事は新聞記事を主として記載している。

「シャガールー三次元の世界」展

開催概要

2018年3月10日(土) - 2018年5月6日(日)

休館日: 3月26日(月)、4月9日(月)、23日(月)

開催日数: 55日

主催: 「シャガールー三次元の世界」展実行委員会(東奥日報社、青森朝日放送、公益社団法人青森県観光連盟、青森県立美術館)

特別協力: メレット・メイヤー、国立シャガール美術館、RMN(フランス国立美術館連合)

協力: 日本航空、青い森鉄道株式会社、JR東日本青森商業開発

企画協力: 株式会社キュレイターズ

後援: 在日フランス大使館、アンスティチュ・フランセ日本、NHK青森放送局、青森ケーブルテレビ、エフエム青森、青森県教育委員会

観覧料: 一般 1,500円(1,300円)

高大生 1,000円(800円)

小中学生 無料

※()は一般のみ前売券及び20名以上の団体料金

※心身に障がいのある方と付添者1名は無料

入場者数: 18,722人

関連行事

①記念講演会「シャガールと三次元の世界との出会い

～劇場の仕事を通じて」

(青森県立美術館サポートシップ倶楽部協賛事業)

マルク・シャガールの孫で長年シャガール作品の研究に携わってきた美術史家のベラ・メイヤー氏が、劇場の仕事を中心に、シャガールの三次元的空間への関心について講演を行った。展覧会への理解がより一層深まったという感想が多数寄せられた。講演会録も英語と日本語両方にてHP上で公開している。

日時: 3月10日(土) 14:00 - 15:30

場所: 青森県立美術館 シアター

講師: ベラ・メイヤー(美術史家、「フルール・ベラ」オーナー)

入場料: 無料

入場者数: 138人

②開館前!親子ギャラリートゥアー

(青森県立美術館サポートシップ倶楽部協賛事業)

ワークシートを活用し、親子での会話を楽しみながら、展示作品を鑑賞するツアーを実施。スタッフとの対話形式の鑑賞によって、いつもと異なる新鮮な視点から作品を楽しむことができたという感想が多く寄せられた。

料金: 無料 ※ただし、当日有効のチケットが必要

日時: 4月14日(土)、4月28日(土)、5月5日(土・祝)

各日 9:00 - [約40分間]

参加料: 無料 ※ただし、企画展チケットが必要

参加者: 計31人

③閉館後!ゆったりじっくり鑑賞ツアー

(青森県立美術館サポートシップ倶楽部協賛事業)

閉館後の静かな展示室で担当学芸員の解説を聞きながら、じっくりと作品を鑑賞するツアーを実施。参加者応募開始後、すぐに定員に達した日もあり、キャンセル待ちなども見られたため、需要が多いことが分かった。貸し切りのような形での鑑賞で、参加者の満足度も高かった。

日時: 3月21日(水・祝)、4月14日(土)、4月28日(土)

各日 17:00 - [約1時間]

参加料: 無料 ※ただし、企画展チケットが必要

参加者: 計45人

④「アレコ」特別鑑賞プログラム

(青森県立美術館サポートシップ倶楽部協賛事業)

「アレコ」背景画を舞台用の照明と音楽、ナレーションとともにご覧いただく特別鑑賞プログラム(約15分)を実施。

会期中毎日 ① 10:30 - ② 12:00 - ③ 13:30 -

④ 15:00 -

展覧会カタログ

総ページ数: 250頁

サイズ: 268 × 220mm

編集: 中村水絵(HeHe)

執筆: アンブル・ゴーチエ(美術史家)、

ジョアンヌ・ランコク(国立マルク・シャガール美術館学芸員)、

タマラ・カラダシェーヴァ(美術史家)、

富田章(東京ステーションギャラリー館長)、

深谷克典(名古屋市美術館副館長)、

高橋しげみ(青森県立美術館学芸主幹)

デザイン: 大溝 裕(Glanz)

発行年: 2017年9月

発行: 株式会社キュレイターズ



ポスター



展示風景



マルク・シャガールによるバレエ「アレコ」の背景画は、当館を代表するコレクションとして多くの人々に親しまれている。2017年からはフィラデルフィア美術館収蔵の第3幕も借用して展示しており、アレコホールでシャガールの色彩に囲まれる体験を目当てに訪れる来館者も少なくない。本展は、当館でのシャガールの展覧会としては2006年の開館記念展「シャガール『アレコ』とアメリカ亡命時代」以来、12年ぶり二回目の個展となった。

画家として広く知られるシャガールだが、後半生の活動においては陶器や彫刻などの立体作品も数多く手がけている。本展は初期から後期に至るシャガールの絵画作品の中に三次元的な関心を探るとともに、彫刻や陶器などの立体作品をかつてない規模で展示。シャガール家が所蔵する作品を中心に、国内からも絵画作品を集め、絵画展としても十分な内容を確保しつつ、新たなテーマとして、シャガールにおける三次元の世界の創作を

探求・紹介する展覧会となった。

画家としての印象の強さゆえに、立体作品を手がけていたことはあまり知られておらず、初めてシャガールの立体作品を目にしたという来館者の声が多く聞かれた。また彫刻などの立体作品だけでなく、絵画や版画を合わせて多数展示したことで鑑賞者の満足度も高かった。

この展覧会の開催を通じて、シャガールの三次元的な関心と密接に関連した当館収蔵の「アレコ」背景画に、あらためて光を当てることが可能になり、フィラデルフィア美術館収蔵品を合わせて全4点そろったこの時期に、時宜にかなった形で、本作品のもつ意義を強く印象付けることができた。

なお、本展はシャガール遺族の協力を得た企画会社・株式会社キュレイターズによる巡回展であり、東京ステーションギャラリー [2017.9.16-12.3]、名古屋市美術館 [2017.12.14-2018.2.18]、青森県立美術館の順に巡回した。

出品作品

- サイズについて、平面作品は縦×横、立体作品は高さ×幅×奥行きの順に表記している。
- 所蔵先の表記のないものはすべて個人蔵 (Private Collection) とする。

絵画から彫刻へ —《誕生日》をめぐって

- 001
誕生日
1923
油彩、キャンヴァス
81.0 × 100.3
AOKI ホールディングス
- 002
誕生日
1968 頃
大理石
53.3 × 57.5 × 8.0
- 003
ふたつの頭部と手
1964
大理石
40.0 × 24.5 × 21.0
- 004
町の上で、ヴィテブスク
1915
油彩、厚紙 (キャンヴァスに貼付)
49.2 × 70.6
ポーラ美術館
- 005
二重肖像
1924
油彩、キャンヴァス
130.0 × 100.0
名古屋美術館
- 006
カーネーションを持つベラ
1925
油彩、キャンヴァス
100.4 × 81.0
- 007
のげざる男
1919
油彩、厚紙 (合板に貼付)
57.0 × 47.0
- 008
ダヴィデの詩篇
1970
グワッシュ・墨、紙
36.2 × 27.0

空間への意識 —アヴァンギャルドの影響

- 009
誕生
1911
油彩、キャンヴァス (合板に貼付)
46.0 × 36.0
- 010
座る赤い裸婦
1909
油彩、キャンヴァス
84.0 × 116.0
- 011
ランプのある静物
1910
油彩、キャンヴァス
81.0 × 45.0
宇都宮美術館
- 012
青いアーチの前の人物
1911
グワッシュ、紙
30.0 × 49.5
- 013
カインとアベル
1911
グワッシュ、紙
22.0 × 28.0
- 014
軽業師たち
1911-12
油彩、キャンヴァス
38.3 × 55.0
ポーラ美術館
- 015
通りの農夫たち
1911
グワッシュ、紙
21.4 × 27.2
- 016
家の前の自画像
1914
油彩、厚紙 (キャンヴァスに貼付)
50.7 × 38.0
- 017
櫛を持つ裸婦
1911-12
インク・グワッシュ、紙
33.4 × 23.4
- 019
銃殺
1914
墨・鉛筆、紙
23.3 × 18.5

- 020
マンドリンを弾くダヴィッド
1914
インク、紙
31.8 × 21.9
- 021
構成主義的肖像
1918
鉛筆、紙
23.0 × 14.3

穿たれた形 —陶器における探究

- 022
《青いロバ》のための下絵
鉛筆、紙
17.4 × 13.1
- 023
《青いロバ》のための下絵 (表裏)
1954
木炭・パステル、紙
29.3 × 23.0
- 024
《青いロバ》のための下絵
1954
木炭・パステル、紙
48.5 × 61.4
- 025
青いロバ
954
テラコッタ
33.0 × 22.0 × 22.0
- 026
青いロバ
1954
彩色陶器
31.5 × 19.8 × 24.0
- 027
二羽の鳥
1961
彩色陶器
26.7 × 44.0 × 6.5
- 028
逃避／村の上の雄鶏と雄山羊
1962
グワッシュ・インク、紙
73.7 × 56.2
- 029
把手のついた壺
1953
彩色陶器
16.0 × 26.0 × 23.0

- 030
《彫刻された壺》のための下絵
1952
木炭・パステル、紙
63.5 × 47.8
- 031
彫刻された壺
1952
彩色陶器
36.0 × 29.0 × 27.5
- 032
《散歩》のための下絵
1961
鉛筆、紙
21.2 × 27.5
- 033
散歩
1961
彩色陶器
26.0 × 22.0 × 18.0
- 034
《井戸端の女》のための下絵
1953
木炭・パステル、紙
61.5 × 48.3
- 035
井戸端の女
1953
テラコッタ
24.0 × 17.8 × 40.0
- 036
《飼葉桶の傍の女》のための下絵
1953
木炭・パステル、紙
61.5 × 48.5
- 037
預言者エリヤの馬車
1951
テラコッタ
32.0 × 24.0 × 26.0
- 038
水浴する女
1953
テラコッタ
36.0 × 24.0 × 23.0
- 039
水浴する女
1957-59
ブロンズ
36.5 × 23.0 × 23.0
- 040
横たわる女
1953
テラコッタ
27.0 × 40.0 × 29.9

| | | | |
|--|--|--|---|
| 041 青い婚約者たち 1962 彩色陶器 33.5 × 15.0 × 17.0 | 050 ハダサ病院附属ユダヤ教会堂（エルサレム） のステンドグラス〈ナフタリ一族〉のため の習作 1961-62 墨・グワッシュ、紙 66.0 × 51.5 | 061 《聖母の前のキリスト》のための下絵 1965 水彩・墨・色鉛筆・コラーージュ、紙 28.0 × 17.6 | 070 『聖書』のための挿絵：〈カルメル山上のエリヤ〉 (テリアード版『聖書』第2巻、版画 86) 第4ステート 1931-39 エッチング・ドライポイント、紙 45.6 × 33.2 |
| 042 キメイラ 1954 彩色陶器 31.0 × 19.0 × 19.0 | 051 《過越祭》のための下絵 1968 墨・水彩・木炭・コラーージュ、紙 24.5 × 25.0 | 062 十字架降下 1952 大理石 27.5 × 15.0 × 41.0 | 072 『聖書』のための挿絵：〈カルメル山上のエリヤ〉 (テリアード版『聖書』第2巻、版画 86) 最終ステート 1931-39、1956 (刷版) エッチング・ドライポイント、紙 53.5 × 39.0 |
| 043 彫刻のための下絵 1953 木炭・パステル、紙 21.0 × 13.4 | 053 《ヤコブの夢》のための下絵 1966 墨・パステル・鉛筆・コラーージュ、紙 30.0 × 34.8 | 063 キリスト 1951-52 ロニユの石 52.0 × 23.0 × 14.5 | 073 『聖書』のための挿絵：〈カルメル山上のエリヤ〉 (テリアード版『聖書』第2巻、版画 86) 最終ステートにグワッシュで着彩 1931-39、1956-58 (着色) エッチング・ドライポイント、水彩・グワッ シュ、紙 53.8 × 39.3 |
| 平面と立体の境界 — 聖なる主題 | | | |
| 044 聖書の女 ラケルとレア 1969-70 大理石 133.0 × 87.0 × 5.0 国立マルク・シャガール美術館 | 054 アブラハムの犠牲 1968-71 大理石 40.0 × 69.0 × 46.0 | 064 裸婦 1949 水彩・インク、紙 62.4 × 47.9 | 074 『聖書』のための挿絵：〈カルメル山上のエリヤ〉 (テリアード版『聖書』第2巻、版画 86) 銅版 1931-34 銅版 29.1 × 25.0 国立マルク・シャガール美術館 |
| 045 聖書の女 サラとリベカ 1969-70 大理石 133.0 × 87.0 × 5.0 国立マルク・シャガール美術館 | 055 モーセと十戒 1952 グワッシュ・パステル、紙 76.5 × 58.0 | 065 バテシバ I 1973 ロニユの石 61.0 × 66.5 × 16.5 | 075 『聖書』のための挿絵：〈夢に現れた神に智慧 を与えてくれるよう願うソロモン〉(テリアー ド版『聖書』第2巻、版画77) 下絵 1931-39 鉛筆、紙 45.0 × 28.4 |
| 046 エルサレム 1932-37 油彩・木炭、キャンヴァス 82.0 × 78.0 | 056 モーセ 1952-54 ロニユの石 53.0 × 22.0 × 9.0 国立マルク・シャガール美術館 | 066 バテシバ II 1973 ロニユの石 62.5 × 67.0 × 18.0 | 076 『聖書』のための挿絵：〈夢に現れた神に智慧 を与えてくれるよう願うソロモン〉(テリアー ド版『聖書』第2巻、版画77) 下絵 1931-39 インク・グワッシュ・鉛筆、紙 44.7 × 29.0 |
| 047 エルサレム（嘆きの壁） 1931 油彩、キャンヴァス 100.0 × 81.2 | 057 《竖琴を弾くダヴィデ》のための下絵 1968 グワッシュ・パステル・墨・鉛筆・コラーージュ 29.5 × 25.0 | 067 『聖書』のための挿絵：〈カルメル山上のエリヤ〉 のためのグワッシュによる準備習作（テ リアード版『聖書』第2巻、版画86） 1931 グワッシュ・パステル・鉛筆、紙 35.4 × 26.5 | 077 『聖書』のための挿絵：〈夢に現れた神に智慧 を与えてくれるよう願うソロモン〉(テリアー ド版『聖書』第2巻、版画77) 最終ステート 1931-39、1956 エッチング・ドライポイント、紙 53.5 × 39.0 |
| 048 ハダサ病院附属ユダヤ教会堂（エルサレム） のステンドグラス《アシェルの一族》のため のヴァリアント 1960-62 墨・鉛筆・パステル、紙 101.6 × 72.5 | 058 《ダヴィデとバテシバ》のための下絵 1974 水彩・墨・コラーージュ、紙 20.7 × 17.6 | 068 『聖書』のための挿絵：〈カルメル山上のエリヤ〉 (テリアード版『聖書』第2巻、版画 86) 第1ステート 1931-39 エッチング・ドライポイント、紙 45.2 × 33.2 | 078 『聖書』のための挿絵：〈夢に現れた神に智慧 を与えてくれるよう願うソロモン〉(テリアー ド版『聖書』第2巻、版画77) 最終ステート 1931-39、1956 エッチング・ドライポイント、紙 53.5 × 39.0 |
| 049 ハダサ病院附属ユダヤ教会堂（エルサレム） のステンドグラス《レビ一族》のためのヴァ リアント 1960-62 墨・グワッシュ、和紙 101.5 × 73.3 | 059 ダヴィデ王 1972-73 大理石 43.0 × 32.5 × 9.0 | 069 『聖書』のための挿絵：〈カルメル山上のエリヤ〉 (テリアード版『聖書』第2巻、版画 86) 第2ステート 1931-39 エッチング・ドライポイント、紙 45.0 × 33.2 | |

079
『聖書』のための挿絵：《夢に現れた神に智慧
を与えてくれるよう願うソロモン》(テリアー
ド版『聖書』第2巻、版画77) 最終ステー
トに着色
1931-39、1956-58
エッチング・ドライポイント・グワッシュ、紙
32.2 × 21.0

080
『聖書』のための挿絵：《夢に現れた神に智慧
を与えてくれるよう願うソロモン》(テリアー
ド版『聖書』第2巻、版画77) 銅版
1931-39
銅版
32.7 × 21.4
国立マルク・シャガール美術館

081
燭台
1956
墨・水彩・グワッシュ、色紙
61.0 × 52.3

082
詩篇 142
1956
インク・墨・水彩・グワッシュ、紙
55.7 × 44.7

平面と立体の境界 —素材とヴォリューム

083
青い花瓶の花束
1930頃
油彩、キャンヴァス
28.0 × 23.0
AOKI ホールディングス

084
花束の中のカップル
1930-35頃
油彩、キャンヴァス
23.5 × 16.5
AOKI ホールディングス

085
逆さ世界のヴァイオリン弾き
1929
油彩、キャンヴァス
92.7 × 73.0
吉野石膏株式会社 (山形美術館に寄託)

086
アラムの花
1950-52
水彩・インク・鉛筆、紙
64.7 × 49.7

087
アルルカンの家族(タピスリーのための下絵)
1961
墨・水彩・グワッシュ・パステル、紙
66.0 × 50.3

088
風景(表) / 鳥と恋人たち(裏)
1952
ロニユの石
46.0 × 38.0 × 21.0

089
夜の裸婦
1961
インク・グワッシュ・水彩、紙
83.5 × 59.4

090
燭台と白いバラ
1929
油彩、キャンヴァス
100.0 × 81.0

091
地上の楽園
1969
大理石
23.1 × 35.2 × 10.0

092
村の恋人たち
1968-69頃
大理石
27.8 × 40.4 × 8.8

093
アトリエの窓
1976
油彩、キャンヴァス
92.0 × 73.0
AOKI ホールディングス

094
雄鶏と恋人たち
1968-69
大理石
27.5 × 40.0 × 4.0

095
黄色い家と屋根の上のロバ
1938
油彩、キャンヴァス
31.0 × 27.1
ポーラ美術館

096
ラ・コリヌ(ロバ、魚、月、二羽の鳥)
1966
エルサレムの石
45.0 × 51.0 × 8.0

097
ラ・コリヌ(二羽の鳥とウサギ)
1966
エルサレムの石
46.0 × 51.5 × 8.0

098
女=雄鶏
1952
大理石
29.8 × 26.2 × 6.5 (台座とも)

099
女=雄鶏
1956-57
ブロンズ
29.8 × 26.0 × 6.6 (台座とも)

100
《大地…》『詩集』のための版画 XI
1968
木版画
32.0 × 24.5

101
《大地…》のための原版 A 『詩集』のための
版画 XI
1968
木版
32.5 × 25.0 × 2.0

102
《大地…》のための原版 B 『詩集』のための
版画 XI
1968
木版
33.0 × 25.0 × 2.0

103
《野蛮人のように》『詩集』のための版画 II
1968
木版・エッチング
32.0 × 24.5

104
《野蛮人のように》のための原版 A 『詩集』
のための版画 II p.11
1968
木版
32.6 × 25.2 × 1.5

105
《野蛮人のように》のための原版 B 『詩集』
のための版画 II p.11
1968
木版
32.5 × 25.0 × 2.5

106
《野蛮人のように》のための原版 C 『詩集』
のための版画 II p.11
1968
木版
32.5 × 25.0 × 2.0

107
時の流れに(逆さブーツの mant を着た男)
1970
水彩・墨・コラージュ、版画の試し刷りをし
た紙
33.7 × 26.4

108
ギターを持つ女
1970
色鉛筆・コラージュ、紙
38.2 × 52.0

109
赤い背景の花
1970
油彩、キャンヴァス
124.5 × 113.0
AOKI ホールディングス

110
回想
1979
油彩、キャンヴァス
100.0 × 73.0
AOKI ホールディングス

111
画家と妻
1969
油彩、キャンヴァス
92.0 × 65.0
AOKI ホールディングス

112
サン=ジャン=カップ=フェラ
1949
グワッシュ・墨・パステル、紙
78.0 × 56.6

113
《黒い月》のための下絵
1968-71
水彩・パステル・チョーク・墨・コラージュ、
紙
29.0 × 22.7

114
《紫色の裸婦》のための下絵
1967
グワッシュ・墨・パステル・コラージュ、紙
24.3 × 20.6

115
《紫色の裸婦》のための下絵
1967
グワッシュ・墨・コラージュ、紙
37.7 × 27.7

116
紫色の裸婦
1967
油彩・砂、キャンヴァス
140.0 × 148.0

117
《アルルカン》のための下絵
1968-71
グワッシュ・色鉛筆・インク・コラージュ・
リトグラフ、紙
28.7 × 22.8

118
アルルカン
1968-71
油彩、キャンヴァス
136.0 × 98.0
大成建設株式会社

119
《騎手》のための下絵
1966
グワッシュ・墨・コラージュ、紙
38.0 × 27.7

120
《シバの女王の到着》のための下絵
1971-72
墨・チョーク・コラージュ、紙
28.5 × 20.5

立体への志向 —動物モチーフ—

121
空想の動物
1952
石膏
53.0 × 80.0 × 29.0

122
空想の動物
1959-60
ブロンズ
52.0 × 80.0 × 20.0

123
緑の夜
1952
油彩、キャンヴァス
72.0 × 60.0

124
ラ・バステュー
1953
油彩・色インク、キャンヴァス
81.0 × 100.0

125
山羊に乗る子供
1981-82
ブロンズ
17.5 × 26.0 × 10.5

126
雄鶏
1952
石膏
57.7 × 43.0 × 20.5

127
画家と雄鶏
1953
墨・水彩、和紙
66.2 × 52.0

128
雄鶏
1962
テラコッタ
29.5 × 24.5

129
鳥
1964-66 (オリジナル)
塗装されたブロンズ
37.0 × 24.0 × 19.0

130
鳥=魚
1964-66 (オリジナル)
塗装されたブロンズ
37.0 × 25.5 × 27.0

立体への志向 —肖像、二重肖像

131
二つの顔のある頭部
1975
水彩・墨・グワッシュ・木炭、紙
42.5 × 32.0

132
大きな人物
1962
彩色陶器
47.5 × 39.0 × 23.0

133
二つの顔を持つ紫色の裸婦
1950
水彩・グワッシュ・インク、紙
56.0 × 46.0

134
たそがれ
1938-43
油彩、キャンヴァス
100.0 × 73.0

135
黒い手袋
1923-48
油彩、キャンヴァス
111.0 × 81.5

136
月明かりに照らされる二重の顔
1950
グワッシュ・色鉛筆、紙
65.0 × 50.0

137
恋人たち
1973
ヴァンスの石
36.0 × 12.5 × 26.0

138
自画像
1968-69
大理石
61.0 × 38.5 × 22.4 (台座とも)

139
黄色い顔の自画像
1969
グワッシュ・パステル、紙
63.0 × 54.5

140
二重の横顔
1957
墨・グワッシュ、羊の骨
22.0 × 10.5 × 17.0

141
振り子時計のある自画像
1947
油彩、キャンヴァス
86.0 × 70.5

142
自画像
1952頃
大理石
39.5 × 40.5 × 7.0

立体への志向 —重なりあうかたち

143
女と動物
1953
大理石
38.2 × 20.0 × 22.0

144
緑の目
1944
油彩、キャンヴァス
58.0 × 51.0

145
ヴィテブスクの上に横たわる裸婦
1933
油彩、キャンヴァス
87.0 × 113.0

146
恋人たちと山羊
1952
大理石
21.7 × 38.0 × 12.0

147
雲の中の恋人たち
1945-46
油彩、キャンヴァス
66.0 × 87.0

148
波の上のロバと鳥
1952
大理石
24.5 × 17.0 × 44.5 (台座とも)

149
恋人たちと木
1969
大理石
54.0 × 42.0 × 28.0

150
赤い雄鶏
1975-78
油彩、キャンヴァス
46.0 × 55.0
AOKI ホールディングス

151
雄鶏と女
1952
多色の石
26.4 × 21.0 × 8.0

152
鳥と恋人たち
1952
大理石
33.0 × 32.0 × 8.0 (台座とも)

153
《雄鶏と恋人たち》のための下絵
油彩、キャンヴァス
26.0 × 37.0
AOKI ホールディングス

154
《雄鶏と恋人たち》のための下絵
1950
油彩、キャンヴァス
22.0 × 26.5
AOKI ホールディングス

155
女と魚
1952
大理石
26.5 × 33.0 × 15.5

156
通りの魚
1950
インク・水彩、紙
55.0 × 76.0

157
魚のある静物
1969
グワッシュ・墨・鉛筆、紙
40.0 × 49.5

立体への志向
—垂直性

| | |
|--------------------|--------------------|
| 158 | 168 |
| アダムとイヴ | 鳥の上の女 |
| 1953 | 1951 |
| 大理石 | 彩色陶器 |
| 53.5 × 23.0 × 24.0 | 30.8 × 23.3 × 2.0 |
| 159 | 169 |
| 天蓋の花嫁 | 腕をあげる女 |
| 1949 | 1953 |
| 油彩、キャンヴァス | 彩色陶器 |
| 115.0 × 94.0 | 41.0 × 40.4 × 5.0 |
| AOKI ホールディングス | 170 |
| 160 | 1968-71 |
| キリストと雪の村 | 大理石 |
| 1969 | 62.0 × 32.6 × 16.4 |
| グワッシュ・パステル・鉛筆、紙 | 171 |
| 56.6 × 75.7 | 青い羽根の振り子時計 |
| 161 | 1949 |
| ヤコブの梯子 | 油彩、キャンヴァス |
| 1973 | 92.0 × 79.0 |
| 大理石 | 172 |
| 85.0 × 27.0 × 23.0 | 小舟と魚 |
| 162 | 1952 |
| キリストの磔刑 | 水彩・インク・パステル・鉛筆、紙 |
| 1952-54 | 62.3 × 47.9 |
| 石灰岩 | 173 |
| 78.0 × 37.5 × 19.0 | ヴァヴァ |
| 国立マルク・シャガール美術館 | 1968-71 |
| 163 | 大理石 |
| ダヴィデ王 | 70.0 × 24.0 × 17.5 |
| 1953 | 174 |
| 石灰岩 | ヴァヴァの肖像 |
| 77.5 × 42.0 × 19.5 | 1966 |
| 国立マルク・シャガール美術館 | 油彩、キャンヴァス |
| 164 | 92.7 × 64.8 |
| 橋の上のキリスト | 175 |
| 1951 | 《ヴァヴァの肖像》のための下絵 |
| グワッシュ、紙 | 1953-56 |
| 79.0 × 53.0 | 油彩、キャンヴァス |
| 165 | 28.0 × 23.0 |
| 二人の裸婦と山羊 | AOKI ホールディングス |
| 1951 | |
| 石灰岩 | |
| 40.5 × 16.0 × 10.0 | |
| 166 | |
| 花束を持つ恋人たち | |
| 1951-52 | |
| ロニュの石 | |
| 56.9 × 29.5 × 16.0 | |
| 167 | |
| 聖母子 | |
| 1952 | |
| 石膏 | |
| 69.0 × 37.0 × 27.0 | |

掲載記事

東奥日報社 週刊 JuniJUni 東奥小中学生新聞

2018年4月24日
シャガールの世界 親子でじっくり 「対話
型鑑賞」楽しむ 県立美術館・企画展

河北新報

2018年1月28日
絵画と彫刻 比べてみる 青森県立美術館
「シャガール展」3月10日から

2018年4月19日
「シャガール - 三次元の世界」
学芸主幹 高橋しげみ (寄稿)

河北新報 weekly

2018年4月19日
画家・シャガールの彫刻家の一面にスポット

東奥日報社

2018年2月8日
平面から立体へ 表現追及 来月10日から
県美「シャガール」展

2018年3月9日
美術展ガイド

2018年3月10日
シャガールの立体美 きょう県美企画展開幕

2018年3月17日
天地人

2018年3月22日
「舞台全体を三次元に」メイヤー氏県美で講演
祖父シャガールを語る

2018年4月2日
「シャガール - 三次元の世界」高橋しげみ
上・誕生日 / ふたつの頭部と手

2018年4月3日
「シャガール - 三次元の世界」高橋しげみ
中・青いロバ / 雄鶏

2018年4月4日
「シャガール - 三次元の世界」高橋しげみ
下・「アレコ」の背景画

2018年4月13日
美術展ガイド

2018年4月23日
ギャラリーツアー紹介 (別刷り)

2018年4月28日
シャガール展 1万人 藤本さん(東京)に
記念品

日本経済新聞

2017年10月4日
絵画と対比 力強い彫刻「シャガール 三次元
の世界」展
(東京ステーションギャラリー記事
青森巡回も記載)

函館新聞社

2018年3月8日
シャガールの世界感じて 青森県立美術館

北鹿新聞社

2018年3月8日
イベント散歩 「シャガール - 三次元の世界」
展紹介

毎日新聞

2018年4月13日
シャガールの立体彫刻 絵画との関係浮き彫
り 県立美術館 企画展に172点

陸奥新報

2018年2月7日
シャガールの秀作172点 県美で展覧会
彫刻など立体作品も 来月3日から

2018年3月10日
県美できょう「シャガール展」開幕 「時代、
モチーフ理解を」孫のメイヤーさん来館

絵画の絆「フランスと日本」展

開催概要

2018年5月18日（金）－7月8日（日）

休館日：6月11日（月）

開催日数：51日

主催：絵画の絆フランスと日本展実行委員会（東奥日報社、青森放送、青森県観光連盟、青森県立美術館）

共催：東奥日報文化財団

特別協力：公益財団法人ひろしま美術館

協力：共同通信社、青い森鉄道、JR東日本青森商業開発、弘南バス

後援：NHK青森放送局、青森ケーブルテレビ、青森県教育委員会

特別協賛：青森銀行、みちのく銀行、青い森信用金庫、三八五流通グループ、東北電力

観覧料：一般1,500円（1,300円）、高大生800円（600円）、小中学生無料

※（ ）は前売券及び20名以上の団体料金

※心身に障がいのある方と付添者1名は無料

参加者：①30人 ②30人

※6月16日（土）の回を担当者急病のため中止とし、7月1日に延期。

展覧会カタログ

A4判 192頁

編集：青森県立美術館、共同通信文化事業室

デザイン：桑畑吉伸

発行：絵画の絆「フランスと日本」展実行委員会

入場者数

31,543人

関連企画

(1) 記念講演会 第1回「ひろしま美術館コレクションについて」

日時：5月19日（土）14:00 - 15:30

場所：青森県立美術館 シアター

講師：古谷可由（ひろしま美術館学芸部長）

入場料：無料

入場者数：58人

(2) 記念講演会 第2回「日本とフランス：美意識の東西」

日時：6月9日（土）14:00 - 15:30

場所：青森県立美術館 シアター

講師：高階秀爾（美術史家、大原美術館館長）

入場料：無料

入場者数：200人

(3) 美術館学芸員によるギャラリートーク

日時：①5月26日（土）、②7月1日（日）（※）

各日14:00 - 14:30

場所：青森県立美術館 展示室

入場料：無料



展示風景

本展においては通常、県域でまとまって展覧する機会の少ない近代名画を、作品の特長に基づく独自の切り口から紹介した点に特色がある。その結果、県域を中心とした北東北の美術、歴史ファン層を中心に西洋美術の歴史を体感するような展覧会経験を提供することができた。具体的には「風景」や「歌舞音曲」等のテーマ設定を通じて、美術ファン以外の観客にも作品の特長に自然と気づかせ、楽しみながら西洋美術を学ぶ機会となった。そうしたことの後押しとして、解説パネル、音声ガイド、カタログなど鑑賞教材が充実していたことも特に述べておきたい。また関連企画として開催した講演会には、ひろしま美術館学芸部長の古谷可由氏や、ひろしま美術館のコレクション形成に関わった美術史家の高階秀爾氏に加わっていただくことができ、総じて幅広い世代の方々に、美術館施設や西洋美術史という学問の魅力を紹介することができた。

県立美術館において近代名画を紹介する展覧会はこれまで「印象派展」（2011）、「青森の近代洋画展」（2017）と開催しているが、今回のような作家数と規模で日仏の巨匠と呼ばれる画家の作品を紹介する展覧会の例はなく、県立美術館のコレクションと美術史の流れを比較検討する上でも有意義な展覧会となった。

出品作品

I. 田園への眼差し

A-01
ジャン＝フランソワ・ミレー
羊の毛刈り
1862年
油彩、カンヴァス
59.5 × 73.0
コクヨ株式会社寄託

A-02
カミーユ・コロー
花の輪を持つ農婦
1869年頃
油彩、カンヴァス
55.5 × 46.5

A-03
ギュスターヴ・クールベ
雪の中の鹿のたたかい
1868年頃
油彩、カンヴァス
60.0 × 80.0

A-04
エドガー・ドガ
馬上の散策
1867-68年
油彩、カンヴァス
71.0 × 90.5

A-05
モーリス・ド・ヴラマンク
雪の集落
不詳
油彩、カンヴァス
59.7 × 73.0

A-06
浅井 忠
農夫帰路
1887年
油彩、カンヴァス
135.5 × 98.5

A-07
藤島武二
大王岬に打寄せる怒濤
1932年
油彩、カンヴァス
73.0 × 91.0

A-08
坂本繁二郎
巴里近郊ヴィラ・グルネー
1922年
油彩、カンヴァス
33.3 × 41.1

A-09
坂本繁二郎
繫馬
1934年
油彩、カンヴァス
91.0 × 116.8

A-10
竹内栖鳳
山村秋色
1918年頃
絹本彩色、軸
120.8 × 41.6

A-11
竹内栖鳳
水郷
1935年頃
絹本彩色、軸
115.5 × 41.9

II. 人間像の変貌

B-01
エドゥアール・マネ
バラ色のくつ（ベルト・モリゾ）
1872年
油彩、カンヴァス
46.4 × 32.5

B-02
ポール・セザンヌ
坐る農夫
1897年頃
油彩、カンヴァス
55.0 × 46.0

B-03
バプロ・ピカソ
女の半身像（フェルナンド）
1909年
油彩、カンヴァス
93.0 × 74.0

B-04
アンリ・マティス
ラ・フランス
1939年
油彩、カンヴァス
44.8 × 36.7

B-05
アンリ・マティス
赤い室内の緑衣の女
1947年
油彩、カンヴァス
72.7 × 60.4

B-06
ジョルジュ・ルオー
ピエロ
1937-38年
油彩、カンヴァス
99.8 × 65.1

B-07
ビエール・ボナール
白いコルサージュの少女（レイラ・クロード・アネ嬢）
1930年
油彩、カンヴァス
91.7 × 65.0

B-08
マリー・ローランサン
メゾン・ムブレ
1912年
油彩、板
98.0 × 56.7

B-09
アメデオ・モディリアーニ
男の肖像
1919年
油彩、カンヴァス
99.0 × 65.0

B-10
ジュール・パスキン
緑衣の女
1927年
油彩、カンヴァス
92.0 × 65.0

B-11
キスリング
ルーマニアの女
1929年
油彩、カンヴァス
81.2 × 64.4

B-12
黒田清輝
洋燈と二児童
1891年
油彩、カンヴァス
100.4 × 81.0

B-13
黒田清輝
白き着物を着せる西洋婦人
1892年
油彩、カンヴァス
79.5 × 43.6

B-14
岸田劉生
支那服を着た妹照子像
1921年
油彩、カンヴァス
53.0 × 45.3

B-15
前田寛治
赤い帽子
1925年
油彩、カンヴァス
116.7 × 80.4

B-16
上村松園
花見の図
1907年頃
絹本彩色、軸
149.0 × 50.2

B-17
上村松園
愛童
不詳
絹本彩色、軸
110.6 × 40.8

B-18
鎌木清方
雨後紅梅
不詳
絹本彩色、軸
129.7 × 50.5

III. 楽園の風景

C-01
オーギュスト・ルノワール
パリスの審判
1913-14年頃
油彩、カンヴァス
73.0 × 92.5

C-02
オーギュスト・ルノワール
勝利のヴィーナス
1913年
ブロンズ
59.5 × 32.5 × 24.5

C-03
ポール・ゴーギャン
ボア・ダムールの水車小屋の水浴
1886年
油彩、カンヴァス
60.0 × 73.0

C-04
藤島武二
桃花裸婦
1902年頃
油彩、カンヴァス
91.0 × 61.0

C-05
岡田三郎助
水辺の裸婦
1935年
油彩、カンヴァス
60.5 × 40.9

C-06
満谷国四郎
裸婦
1911-12年
油彩、カンヴァス
64.9 × 91.0

C-07
梅原龍三郎
裸婦
1936年
油彩、カンヴァス
80.6 × 65.0

IV. 光の中へ

D-01
ウジェーヌ・ブーダン
ポルドー風景
1874年
油彩、カンヴァス
48.5 × 74.0

D-02
アルフレッド・シスレー
サン＝マメス
1885年
油彩、カンヴァス
54.5 × 73.0

D-03
カミーユ・ピサロ
ボン・ヌフ
1902年
油彩、カンヴァス
66.0 × 81.2

D-04
オーギュスト・ルノワール
パリ、トリニテ広場
1875年頃
油彩、カンヴァス
65.3 × 54.2

D-05
クロード・モネ
セーヌ河の朝
1897年
油彩、カンヴァス
82.0 × 93.5

D-06
ポール・セザンヌ
曲がった木
1888-90年
油彩、カンヴァス
46.0 × 55.0

D-07
ジョルジュ・スーラ
村はずれ
1883年
油彩、板
15.6 × 24.9

D-08
ポール・シニャック
ポルトリュウ、グールヴロ
1888年
油彩、カンヴァス
46.2 × 55.5

D-09
ポール・シニャック
パリ、ボン＝ヌフ
1931年
油彩、カンヴァス
73.0 × 92.0

D-10
岡 鹿之助
積雪
1935年
油彩、カンヴァス
80.5 × 100.0

D-11
アンリ・ル・シダネル
離れ屋
1927年
油彩、カンヴァス
150.0 × 125.0

D-12
アンリ・ルソー
要塞の眺め
1909年
油彩、カンヴァス
45.8 × 55.0

D-13
モーリス・ユトリロ
モンモランシーの通り
1912年頃
油彩、カンヴァス
58.6 × 79.7

D-14
佐伯祐三
ロカション・ド・ヴォワチュール
1925年
油彩、カンヴァス
65.0 × 80.5

D-15
アルベール・マルケ
ボン＝ヌフとサマリテーヌ
1940年
油彩、カンヴァス
65.0 × 81.0

D-16
キース・ファン・ドンゲン
ヴェネツィアの眺め
1921年
油彩、カンヴァス
91.9 × 69.8

D-17
ラウル・デュフィ
エプソム、ダービーの行進
1930年
油彩、カンヴァス
70.7 × 130.5

V. こころの風景

E-01
竹内栖鳳
河畔群鷺
1904年頃
紙本金地墨画淡彩、二曲一双屏風
各 168.0 × 183.0

E-02
横山大観、下村観山
松鶴
不詳
紙本金地彩色、六曲一双屏風
174.5 × 369.0 (右隻)、
174.0 × 369.0 (左隻)

E-03
村上華岳
水辺竹石図
1927年
絹本墨画、軸
35.4 × 42.0

E-04
村上華岳
巖松図
1933年
絹本墨画、額
27.7 × 24.5

E-05
福田平八郎
鮎
1938年頃
絹本彩色、額
37.0 × 49.5

E-06
福田平八郎
清秋
1955年
紙本彩色、額
39.3 × 59.7

E-07
加山又造
倣北宋水墨山水
1988年
絹本墨画、四曲一双屏風
各 178.5 × 363.0

VI. 卓上の風景

F-01
ジョルジュ・ブラック
果物入れと果物
1935年
油彩、カンヴァス
43.3 × 73.0

F-02
ハイム・スーティン
にしんと白い水差しのある静物
1922-23年頃
油彩、カンヴァス
65.0 × 54.0

F-03
小出楯重
地球儀のある静物
1925年
油彩、カンヴァス
47.0 × 68.3

F-04
村上華岳
皿上果物
不詳
絹本彩色、軸
90.8 × 29.7

VII. リズミカルな姿態

G-01
エドガー・ドガ
浴槽の女
1891年頃
パステル、カルトン
71.5 × 71.0

G-02
エドガー・ドガ
右手で右足をつかむ踊り子
1896-1911年
ブロンズ
51.5 × 31.5 × 27.0

G-03
フェルナン・レジェ
踊り (第1作)
1929年
油彩、カンヴァス
92.2 × 65.2

G-04
甲斐庄楠音
踊る女
1920年頃
絹本彩色、額
56.0 × 56.2

G-05
村上華岳
少婦舞踊図
1918年
絹本彩色、軸
125.2 × 41.6

G-06
藤島武二
音楽六題
1901-06年
水彩、紙

G-06-1
鼓
8.9 × 8.1

G-06-2
琵琶
9.1 × 8.0

G-06-3
笛
9.3 × 8.0

G-06-4
三味線
7.1 × 8.2

G-06-5
ヴァイオリン
8.5 × 8.5

G-06-6
ピアノ
9.3 × 8.3

G-07
菊池契月
妙音弁財天
不詳
絹本彩色、軸
64.3 × 71.4

G-08
南薫造
ピアノの前の少女
1927年
油彩、カンヴァス
80.5 × 100.0

掲載記事

東奥日報社

2018年2月6日

絵画の絆「フランスと日本」展 5月18日から県立美術館

2018年5月10日

県美「絵画の絆「フランスと日本」展」
牧野研一郎「最上の素材」で構成

2018年5月15日

巨匠作品入念に確認 18日開幕へ展示準備進む 県美

2018年5月18日

「フランスと日本」展きょう県美で開幕

2018年5月18日

巨匠の名画 迫る息遣い 内覧会 関係者100人見入る

2018年5月19日

近代画の美 間近に 県美で開幕

2018年5月27日

天地人

2018年5月28日

鑑賞より楽しく、深く 県美音声ガイド貸出好評

2018年5月28日

近代名画がひらく美の世界①
浅井忠「農夫帰路」
奥脇嵩大

2018年5月29日

近代名画がひらく美の世界②
マネ「バラ色のくつ（ベルト・モリゾ）」
奥脇嵩大

2018年5月29日

「作者の思い感じた」三内中3年生147人が鑑賞

2018年5月30日

近代名画がひらく美の世界③
モネ「セーヌ川の朝」
奥脇嵩大

2018年5月31日

近代名画がひらく美の世界④
小出楯重「地球儀のある静物」
奥脇嵩大

2018年6月1日

近代名画がひらく美の世界⑤
ドガ「浴槽の女」
奥脇嵩大

2018年6月2日

来場者5千人突破 杉野さん（東京）に記念品

2018年6月3日

絆 フランスと青森 ①ゴッホのヒマワリ

2018年6月4日

絆 フランスと青森 ②フォーリー神父

2018年6月5日

絆 フランスと青森 ③青森のフランス人

2018年6月5日

名作の中のおもり① 絵画の絆フランスと日本展から どこか懐かしい農村風景

2018年6月6日

絆 フランスと青森 ④津軽弁とフランス語

2018年6月7日

絆 フランスと青森 ⑤パリ・ジャポニスム2018

2018年6月7日

パリへの思いそれぞれ 県美「フランスと日本」関連展

2018年6月9日

家族で感動共有を 青森・中学校長会に観覧券 東北電奇贈

2018年6月11日

私の1枚「セーヌ川の朝」クロード・モネ
西村莉乃さん 黒石市

2018年6月12日

名作の中のおもり② 絵画の絆フランスと日本展から 躍動する姿態といえ

2018年6月12日

私の1枚「浴槽の女」エドガー・ドガ
佐々木孝夫さん悦子さん 三沢市

2018年6月13日

来場者1万人突破 大岡さんに記念品

2018年6月13日

私の1枚「赤い室内の緑衣の女」
アンリ・マティス 久野浩子さん 愛知県

2018年6月14日

私の1枚「パリ、ボンヌヌフ」
ポール・シニャック 大川空汰さん 青森市

2018年6月15日

私の1枚「ボア・ダムールの水車小屋の水浴」
ポール・ゴーギャン 小林麗さん 青森市

2018年6月19日

名作の中のおもり③ 絵画の絆フランスと日本展から 昔も今も変わらぬ「楽園」

2018年6月21日

来場者1万5千人突破 佐井さん（蓬田中2）に記念品

2018年6月25日

解説 日仏近代名画 古谷可由（上）

2018年6月26日

解説 日仏近代名画 古谷可由（中）

2018年6月26日

名作の中のおもり④ 絵画の絆フランスと日本展から 女性像りんとして華やか

2018年6月27日

解説 日仏近代名画 古谷可由（下）

2018年6月28日

来場者2万人突破 中村さん（むつ）に記念品

2018年6月29日

名画の世界 自宅でも 関連グッズ、来場者に人気

2018年7月4日

来場2万5千人突破 棟方さん（青森）に記念品

2018年7月8日

きょう閉幕

2018年7月10日

3万1500人が堪能 51日間にぎわい閉幕

函館新聞社

2018年5月19日

道南ネット 暮らしアクセス 企画
絵画の絆「フランスと日本」展紹介

北鹿新聞社

2018年5月24日

イベント散歩 絵画の絆「フランスと日本」展紹介

朝日新聞社

2018年5月30日

絵画の絆 日仏巨匠作が競演 県立美術館
モネや横山大観など70点

めがねと旅する美術展

開催概要

2018年7月20日（金）－9月2日（日）

開催日数：45日

開館時間：9:00 - 18:00（最終入場 17:30）

休館日：なし

会場：青森県立美術館 企画展示室

協賛：ヤマトグローバルロジスティクスジャパン株式会社

協力：株式会社@カマタ、青い森鉄道株式会社、株式会社JR東日本青森商業開発、津軽鉄道株式会社、株式会社アートボックス、株式会社東京メガネ

後援：NHK青森放送局、青森ケーブルテレビ株式会社、株式会社エフエム青森、青森県教育委員会

キュレーション：トリメガ研究所

総入場者数

16,867人（目標値 20,500人 達成率 82.2%）

有料入場者数

12,160人（目標値 16,000人 達成率 76.0%）

関連事業

①関連企画：めがねと旅する美術展 東京飛地展示

本展の開催に先駆けて、東京飛地展示を行い、本展の情報発信と合わせて青森県立美術館のPRを図った。カマタ_ソーコを会場に展示および関連イベントを開催した。「めがね」というモノ、ことばから類推されるさまざまな視覚表現の軌跡を追求し、会場のある大田区の文化や技術を活用しながら、映像インスタレーション、ライブパフォーマンスなどを多角的に展示した。

会期：2018年7月6日（金）、7日（土）、8日（日）、13日（金）、14日（土）、15日（日）、16日（月・祝）、20日（金）、21日（土）、22日（日）

開館時間：14:00 - 20:00

観覧料：無料

会場：カマタ_ソーコ（東京都大田区萩中3丁目22-7）

機材協力：有限会社関鉄工所、シナノ産業株式会社、エミリーズバルーン株式会社

キュレーション：澤隆志

出品作家：片岡純也 / 岩竹理恵、五島一浩、細馬宏通、メガネ、めぐりあいJAXA

※会期中は以下のイベントを開催した。

7月7日（土）18:00 -
オープニングトーク

7月8日（日）15:00 -

細馬宏通トーク「スローモーションで見る行動観察」

7月15日（日）15:00 -

メガネ「発電ポールダンスライブ」

②トリメガ研究所トークショー「めがねを愛する私たち」

日時：7月21日（土）13:30 - 15:00

場所：青森県立美術館 地下1階ワークショップA

トーカー：川西由里（島根県立石見美術館専門学芸員）、村上敬（静岡県立美術館上席学芸員）、工藤健志（青森県立美術館総括学芸主幹）

入場料：無料

③美術館学芸員によるギャラリー・トーク

日時：①7月29日（日）、②8月5日（日）、③8月11日（土・祝）、④8月12日（日）、⑤8月19日（日）、⑥9月2日（日）

各 14:00 - 14:30

場所：青森県立美術館 展示室

入場料：無料（ただし、当日有効の本展観覧券が必要）

展覧会カタログ

『めがねと旅する美術』

B5判 ソフトカバー 264頁

編集：めがねと旅する美術展実行委員会

執筆：川西由里（島根県立石見美術館）、工藤健志、村上敬（静岡県立美術館）

ブックデザイン：川添英昭

ロゴデザイン：塚原重義

カバーイラスト：東京モノノケ

編集：廣瀬歩（青幻舎）

印刷・製本：株式会社山田写真製版所

発行：株式会社青幻舎

発行日：2018年7月20日



展示風景



撮影：大洲大作

現代は膨大な視覚情報が溢れている時代。それらを「見る」ための器具として欠かせないのが、「めがね」である。視力を補うための装置であると同時に、「レンズ」もまた広義の「めがね」として、マイクロやマクロの世界を可視化したり、写真や映像となって、私たちに新しい世界観を提示してくれる。また、「色めがね」「おめがねにかなう」などの言葉があるように、「めがね」にはものを見る際のフィルターといった意味が付されることもある。本展は、「ロボットと美術」展（2010年度）、「美少女の美術史」展（2014年度）に続く第3弾、最終章として「めがね」をキーワードに、江戸時代から現代までの「みること」に対する人々の飽くなき探求の営みをたどる視覚文化史展である。「なにか越しに見る」ことを「めがね」に喩え、江戸から現代までの視覚文化の諸相を総合的に紹介した。江戸時代後期の日本に一種の視覚革命を起こした、西洋由来の遠近法やレンズを用いた「からくり」に始まり、列車や飛行機といった近代交通機関がもたらした新しい視覚、第二次大戦後の技術革新によって目覚まし

い進化をみせてきたマイクロ／マクロの世界の可視化といった、テクノロジーの発達に伴走してきた表現の軌跡を追った。あわせて、人類に普遍的な欲望である秘められたもの、見えないものを露わにする試みについても考察した。

浮世絵、日本画、洋画、現代アートに加え、地図やアニメーション、理化学研究所やJAXAの協力による人工衛星や電子顕微鏡の映像も展示することで、特定のジャンルに興味をひかれて訪れた来場者が別のジャンルに興味を持つ機会を提供した。また、江戸時代の「覗き眼鏡」から最先端のVRまで、体験型の展示を多くしたことも好評で、幅広い年齢層の人々が来場した。当地域では現代アートを展示する機会が少なかったが、本展では地元出身のアーティストを含め、若手作家から著名作家までバラエティー豊かな作品を展覧することができた。

また読売新聞社が主宰する美術館連絡協議会の「美連協大賞2019」において「奨励賞」を受賞した。

出品作品

| | | | |
|---|--|--|--|
| 1 塚原重義 押絵ト旅スル男 2018 | 9 高橋由一 山形市街図 明治 14-15 (1881-82) 油彩、キャンバス 104.4 × 151.5 山形県庁 | 17 歌川広重 名所江戸百景 水道橋駿河台 安政 4 (1857) 木版、紙 36.3 × 24.6 島根県立美術館 | 25 小糸源太郎 屋根の都 1911 キャンバス、油彩 60.6 × 80.1 東京藝術大学 |
| 2 上田信 浅草凌雲閣 2018 水彩、紙 297 × 210 個人 | 10 岡田半江 洋人富士山遠望図屏風 江戸後期 (19世紀前半) 六曲一双屏風 各 156.5 × 349.0 個人 (静岡県立美術館寄託) | 18 歌川広重 名所江戸百景 両国花火 安政 5 (1858) 木版、紙 36.3 × 24.5 島根県立美術館 | 26 不染鉄 山海図会 (伊豆の追憶) 1925 紙本着色、額装 186 × 210 公益財団法人木下美術館 |
| 3 洛中洛外図屏風 (九博本) 紙本金地着色 六曲一双 九州国立博物館 | 11 司馬江漢 駿州薩陀山富士遠望図 1804 絹本油彩 56.6 × 118.4 静岡県立美術館 | 19 歌川国貞 (二代) 尾張屋二階乃図 慶応 3 (1867) 大判錦絵三枚続 36.3 × 72.5 (イメージサイズ) 個人 | 27 吉田初三郎 島根県観光鳥瞰図 絹本着色 42.0 × 142.0 島根県立古代出雲歴史博物館 |
| 4 歌川豊春 浮絵阿蘭陀国東南湊図 安永~天明 (1772~89) 頃 木版、紙 25.8 × 38.2 島根県立美術館 | 12 司馬江漢 駿河湾富士遠望図 1788 絹本油彩 36.2 × 100.9 静岡県立美術館 | 20 歌川芳盛 (二代) 富士山御絵図 (浅草公園地第六区) 明治 20 (1887) 木版刷物 35.9 × 49.1 東京都江戸東京博物館 | 28 吉田初三郎 日本鳥瞰 中四国大図絵 1921 印刷、紙 27.4 × 106.6 島根県立古代出雲歴史博物館 |
| 5 原在正 《富士山図巻》のうち、第2, 4, 10巻 寛政 8 (1796) 頃 紙本着色 個人 (静岡県立美術館寄託) | 13 黒川翠山 富士山 印画紙 28.1 × 43.9 静岡県立美術館 | 21 歌川重清 東京浅草観世音並公園地煉瓦屋新築繁盛新地 遠景之図 明治 19 (1886) 大判錦絵三枚続 35.6 × 69.0 (イメージサイズ) 個人 | 29 吉田初三郎 島根県鳥瞰図 (昭和5年版) 1930 印刷、紙 17.8 × 76.6 (鳥瞰図部分) 島根県立古代出雲歴史博物館 |
| 6 椿椿山 山海奇賞図巻 文政 13 (1830) 紙本淡彩、一巻 13.5 × 466.5 静岡県立美術館 | 14 黒川翠山 富士山 印画紙 21.8 × 29.5 静岡県立美術館 | 22 歌川国貞 (三代) 凌雲閣機絵双六 明治 23 (1890) 木版双六 73.1 × 24.8 東京都江戸東京博物館 | 30 吉田初三郎 島根県鳥瞰図 (昭和12年版) 1937 印刷、紙 15.3 × 52.9 (鳥瞰図部分) 島根県立古代出雲歴史博物館 |
| 7 歌川広重 東海道五拾三次之内 御油 旅人留女 天保 4 (1833) 頃 木版、紙 25.5 × 38.0 島根県立美術館 | 15 黒川翠山 富士山 印画紙 20.2 × 29.6 静岡県立美術館 | 23 杉崎婦四之助画・発行 大日本凌雲閣之図 十二階直立二百二十尺 明治 23 (1890) 銅版画 54.7 × 37.7 東京都江戸東京博物館 | 31 吉田初三郎 八戸市鳥瞰図 1933 印刷折本 17.7 × 77.6 青森県立美術館 |
| 8 歌川広重 名所江戸百景 月の岬 安政 4 (1857) 木版、紙 36.3 × 24.5 島根県立美術館 | 16 黒川翠山 富士山 印画紙 22.0 × 29.6 静岡県立美術館 | 24 透かし絵の絵はがき 個人 | 32 吉田初三郎 八戸市鳥瞰図 原画 1954 絹本着色 45.0 × 160.0 八戸クリニック街かどミュージアム |

| | | | |
|------------------|-----------------------------|------------------|---------------------------|
| 33 | 41 | 49 | 57 |
| 吉田初三郎 | 松江泰治 | 松江泰治 | 諏訪敦 |
| 青森市鳥瞰図 | JP-02 03 | JP-22 24 | 新宿からの富士 |
| 1932 | 2012 | 2005 | 2001 |
| 印刷折本 | 発色現像方式印画 | 発色現像方式印画 | テンペラ・油彩、キャンバス |
| 19.0 × 88.0 | 50.0 × 61.0 | 50.0 × 61.0 | 116.7 × 90.9 |
| 八戸クリニック街かどミュージアム | 青森県立美術館 | IZU PHOTO MUSEUM | 東京ステーションギャラリー |
| 34 | 42 | 50 | 58 |
| 吉田初三郎 | 松江泰治 | 松江泰治 | 元田久治 |
| 青森市鳥瞰図 | JP-02 04 | JP-22 29 | Indication: Tokyo Tower 3 |
| 1948 | 2012 | 2005 | 2007 |
| 印刷折本 | 発色現像方式印画 | 発色現像方式印画 | リトグラフ、インク、紙 |
| 20.0 × 85.0 | 50.0 × 61.0 | 50.0 × 61.0 | 47 × 45.5 |
| 八戸クリニック街かどミュージアム | 青森県立美術館 | IZU PHOTO MUSEUM | 作家 |
| 35 | 43 | 51 | 59 |
| 吉田初三郎 | 松江泰治 | 松江泰治 | 元田久治 |
| 日本鳥瞰 近畿東海大図絵 | JP-02 24 | JP-32 02 | Foresight: Tokyo Skytree |
| 1937 | 2013 | 2017 | 2017 |
| 印刷折本 | 発色現像方式印画 | 発色現像方式印画 | リトグラフ、インク、紙 |
| 27.1 × 107.5 | 50.0 × 61.0 | 50.0 × 61.0 | 61.0 × 38.5 |
| 八戸クリニック街かどミュージアム | collection of Oki Matsumoto | 作家 | 作家 |
| 36 | 44 | 52 | 60 |
| 吉田初三郎 | 松江泰治 | 松江泰治 | 元田久治 |
| 静岡市を中心とする名所図絵 | JP-02 42 | JP-32 04 | Foresight: Tokyo Tower |
| 1930 | 2013 | 2017 | 2017 |
| 印刷折本 | 発色現像方式印画 | 発色現像方式印画 | リトグラフ、インク、紙 |
| 17.8 × 77 | 50.0 × 61.0 | 50.0 × 61.0 | 69.5 × 90.0 |
| 八戸クリニック街かどミュージアム | collection of Oki Matsumoto | 作家 | 作家 |
| 37 | 45 | 53 | 61 |
| 吉田初三郎 | 松江泰治 | 松江泰治 | 元田久治 |
| 静岡県鳥瞰図 | JP-22 01 | JP-32 05 | Foresight: Shinjuku |
| 1931 or 1934 | 2005 | 2017 | 2017 |
| 印刷折本 | 発色現像方式印画 | 発色現像方式印画 | リトグラフ、インク、紙 |
| 17.6 × 75 | 50.0 × 61.0 | 50.0 × 61.0 | 59.0 × 38.5 |
| 八戸クリニック街かどミュージアム | IZU PHOTO MUSEUM | 作家 | 作家 |
| 38 | 46 | 54 | 62 |
| 吉田初三郎 | 松江泰治 | 松江泰治 | 今和泉隆行 (地理人) |
| 官幣大社 富士山名所図絵 | JP-22 03 | JP-32 07 | 空想地図「中中市」 |
| 1922 | 2005 | 2017 | デジタルデータ |
| 印刷折本 | 発色現像方式印画 | 発色現像方式印画 | 可変 |
| 17.9 × 77.8 | 50.0 × 61.0 | 50.0 × 61.0 | 作家 |
| 八戸クリニック街かどミュージアム | IZU PHOTO MUSEUM | 作家 | |
| 39 | 47 | 55 | 63 |
| 松江泰治 | 松江泰治 | 松江泰治 | 今和泉隆行 (地理人) |
| JP-02 01 | JP-22 08 | JP-32 09 | 中中市企業等ロゴ類 |
| 2012 | 2005 | 2017 | デジタルデータ |
| 発色現像方式印画 | 発色現像方式印画 | 発色現像方式印画 | 可変 |
| 50.0 × 61.0 | 50.0 × 61.0 | 50.0 × 61.0 | 作家 |
| 青森県立美術館 | IZU PHOTO MUSEUM | 作家 | |
| 40 | 48 | 56 | 64 |
| 松江泰治 | 松江泰治 | 松江泰治 | めぐりあい JAXA 実行委員会：五島一浩、澤 |
| JP-02 02 | JP-22 16 | JP-32 16 | 隆志 |
| 2012 | 2005 | 2017 | 陸域観測技術衛星「だいち」の眼—青森 |
| 発色現像方式印画 | 発色現像方式印画 | 発色現像方式印画 | 2018 |
| 50.0 × 61.0 | 50.0 × 61.0 | 50.0 × 61.0 | ビデオ 5分 |
| 青森県立美術館 | IZU PHOTO MUSEUM | 作家 | 作家 |

| | | | | |
|----|--|---|--|--|
| 65 | めぐりあい JAXA 実行委員会：五島一浩、澤隆志 陸域観測技術衛星「だいち」の眼—島根 2018 ビデオ 5分 作家 | 73 山口晃 百貨店圖 日本橋三越 2004 水彩・ペン、紙 84.1 × 59.4 株式会社 三越伊勢丹ホールディングス | 81 小池富久 丸ビルモダンガール散歩コース No.1—No.2 1927 鉛筆、インク、水彩／トレーシングペーパー、紙 38.1 × 29.2 工学院大学図書館 | 88 今純三 『青森風俗断片』より「列車のなか」 1927 インク／トレーシングペーパー 18.6 × 21.9 工学院大学図書館 |
| 66 | めぐりあい JAXA 実行委員会：五島一浩、澤隆志 陸域観測技術衛星「だいち」の眼—静岡 2018 ビデオ 5分 作家 | 74 山口晃 百貨店圖 日本橋 新三越本店 2004 水彩・ペン、紙 59.4 × 84.1 株式会社 三越伊勢丹ホールディングス | 82 小池富久 丸ビルモダンガール散歩コース No.7—No.8—No.9 1927 鉛筆、インク、水彩／トレーシングペーパー、紙 38.1 × 29.2 工学院大学図書館 | 89 今純三 自宅アトリエノ窓外風景 1931 インク／紙 9.0 × 14.2 工学院大学図書館 |
| 67 | めぐりあい JAXA 実行委員会：五島一浩、澤隆志 月周回衛星「かぐや」の眼 2018 ビデオ 24分 作家 | 75 田中智之 渋谷駅解体 2011 2011 ボールペン、紙 42.0 × 59.4 作家 | 83 新井泉男 帝大セツルメント児童服装調査 女子 1926 インク／トレーシングペーパー 19.1 × 26.2 工学院大学図書館 | 90 『重訂解体新書図譜』 銅版、紙 21.5 × 15.2 津和野町郷土館（藩校養老館旧蔵） |
| 68 | 野村康生 Noctis Labyrinthus（夜の迷宮）5点組 2017 アクリル、シリコン、マーカー、グリッター、ウレタン、パネル 各 159.7 × 98.7 作家 | 76 田中智之 渋谷駅解体 1963 2017 ボールペン、紙 42.0 × 59.4 作家 | 84 新井泉男 帝大セツルメント児童服装調査 男子 1926 インク／トレーシングペーパー 18.5 × 22.6 工学院大学図書館 | 91 生頼範義 目・附属器（目のしくみ） 『現代の家庭医学2 病気と治療 I』（学習研究社 昭和44年2月1日）用下絵 1968 ケント紙、水彩・黒ボールペン 37.9 × 53.9 マット：45.3 × 60.4 個人 |
| 69 | 岩崎貴宏 アウト・オブ・ディスオーダー（コスモワールド） 2018 髪の毛、ホコリ、天体望遠鏡 サイズ可変 作家 | 77 田中智之 無限揺動美術館 2017 ボールペン、紙 42.0 × 59.4 作家 | 85 今和次郎 某新婚家庭物品一切しらべ（間取り、Iの室） 1925 インク／トレーシングペーパー、紙 29.3 × 37.5 工学院大学図書館 | 92 生頼範義 平衡器（平衡感覚装置） 『現代の家庭医学2 病気と治療 I』（学習研究社 昭和44年2月2日）用下絵 1968 ケント紙、水彩・黒ボールペン 37.9 × 53.9 マット：45.3 × 60.4 個人 |
| 70 | 岩崎貴宏 コンステレーション（青森） 2018 アクリル、クロマテック、塗料 100 × 120 作家 | 78 田中智之 ミューラー邸 2017 ボールペン、紙 29.7 × 42.0 作家 | 86 今和次郎 某新婚家庭物品一切しらべ（Ⅲの室〈2〉、Ⅲの室〈3〉）※四畳半内 1925 インク／トレーシングペーパー、紙 29.3 × 37.5 工学院大学図書館 | 93 生頼範義 蝸牛コルチ（聴覚器（コルチ器）と神経） 『現代の家庭医学2 病気と治療 I』（学習研究社 昭和44年2月3日）用下絵 1968 ケント紙、水彩・青ボールペン 37.9 × 53.9 マット：45.3 × 60.4 個人 |
| 71 | 源氏物語屏風 江戸時代 紙本金地着色、六曲—双屏風に貼り付け 175.0 × 379.0 海の見える杜美術館 | 79 田中智之 京町の家 2015 ボールペン、紙 29.7 × 42.0 作家 | 87 今和次郎 某新婚家庭物品一切しらべ（Ⅳの室〈1〉）※台所 1925 インク／トレーシングペーパー、紙 29.3 × 37.5 工学院大学図書館 | 94 生頼範義 皮膚（皮膚のしくみ） 『現代の家庭医学2 病気と治療 I』（学習研究社 昭和44年2月4日）用下絵 1968 ケント紙、水彩・黒ボールペン 37.9 × 53.9 マット：45.3 × 60.4 個人 |
| 72 | 山口晃 百貨店圖 日本橋三越 2004 水彩・ペン、紙 59.4 × 84.1 株式会社 三越伊勢丹ホールディングス | 80 小池富久 丸ビルモダンガール散歩コース No.3—No.4 1927 鉛筆、インク、水彩／トレーシングペーパー、紙 38.1 × 29.2 工学院大学図書館 | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 95 生頼範義 (網膜) 『現代の家庭医学2 病氣と治療 I』(学習研究社 昭和44年2月5日) 用下絵 1968 ケント紙、水彩・黒ボールペン 37.9 × 53.9 マット: 45.3 × 60.4 個人 | 102 生頼範義 腺の構造 黒画用紙 54.7 × 39.3 マット: 60.4 × 45.3 個人 103 宮脇敦史 / 理化学研究所 (蛍光タンパク質遺伝子で光らせたマウスの脳)の神経細胞映像 映像 104 前田藤四郎 監的鏡 (楽園) 1928 リノカット・転写シール、紙 19.5 × 27.5 大阪新美術館準備室 | 110 伊藤隆介 ブラックホール 2012 - 2018 CCD カメラ、ビデオ・プロジェクタ、モニター、照明、ミクストメディア サイズ可変 作家 111 松村泰三 peep show (黄金比) 2018 液晶パネル、木材 45.0 × 75.0 作家 112 桑原弘明 星を売る店 2012 ミクストメディア 7.0 × 7.1 × 7.1 個人 113 桑原弘明 一滴の光 2013 ミクストメディア 6.2 × 6.2 × 6.3 個人 114 桑原弘明 innocent 2014 ミクストメディア 6.3 × 5.8 × 5.8 個人 115 桑原弘明 mini scope four elements 風 2014 ミクストメディア D4.0 × H13.0 個人 116 桑原弘明 静けさと眠り 2015 ミクストメディア 5.9 × 6.2 × 8.8 個人 117 桑原弘明 Tableau 2017 ミクストメディア 5.1 × 7.4 × 6.6 個人 | 118 菱川派 吉原遊里図屏風 元禄14年(1701)頃 紙本着色 八曲一隻 117.7 × 359.2 島根県立美術館 119 棟方志功 江戸川乱歩作「屋根裏の散歩者」挿絵 (《幻想板画冊》より) 1956 和紙・木版 13.7 × 13.8 (マット装) 青森県立美術館 120 棟方志功 江戸川乱歩作「押絵と旅する男」挿絵 (《幻想板画冊》より) 1956 和紙・木版 14.2 × 14.0 (マット装) 青森県立美術館 121 棟方志功 江戸川乱歩作「人間椅子」挿絵 (《幻想板画冊》より) 1956 和紙・木版 14.1 × 14.0 (マット装) 青森県立美術館 122 江戸川乱歩 犯罪幻想 (東京創元社 限定本) 1956 書籍 青森県立美術館 123 棟方志功 谷崎潤一郎作『鍵』挿絵 (《鍵板画冊》全59冊より「大鏡の柵」) 1956 木版・画帖 (2冊) 13.1 × 16.7 青森県立美術館 124 棟方志功 谷崎潤一郎作『鍵』挿絵 (《鍵板画冊》全59冊より「腹鏡の柵」) 1956 木版・画帖 (2冊) 13.1 × 16.7 青森県立美術館 125 谷崎潤一郎 鍵 (中央公論社 初版) 1956 青森県立美術館 |
| 96 生頼範義 骨化 (骨の成長) 『現代の家庭医学2 病氣と治療 I』(学習研究社 昭和44年2月6日) 用下絵 1968 ケント紙、水彩・黒ボールペン 37.9 × 53.9 マット: 45.3 × 60.4 個人 | 105 前田藤四郎 空中曲技 1930 リノカット、紙 71.0 × 45.0 大阪新美術館準備室 | 112 桑原弘明 星を売る店 2012 ミクストメディア 7.0 × 7.1 × 7.1 個人 | 120 棟方志功 江戸川乱歩作「押絵と旅する男」挿絵 (《幻想板画冊》より) 1956 和紙・木版 14.2 × 14.0 (マット装) 青森県立美術館 |
| 97 生頼範義口腔 (口腔と咽喉) 『現代の家庭医学2 病氣と治療 I』(学習研究社 昭和44年2月7日) 用下絵 1968 ケント紙、水彩・黒ボールペン 37.9 × 53.9 マット: 45.3 × 60.4 個人 | 106 前田藤四郎 銅版画小品構成 (1) 1930 エッチング・着色、紙 8.0 × 10.5 大阪新美術館準備室 | 113 桑原弘明 一滴の光 2013 ミクストメディア 6.2 × 6.2 × 6.3 個人 | 121 棟方志功 江戸川乱歩作「人間椅子」挿絵 (《幻想板画冊》より) 1956 和紙・木版 14.1 × 14.0 (マット装) 青森県立美術館 |
| 98 生頼範義 嗅覚器 (嗅覚器) 『現代の家庭医学2 病氣と治療 I』(学習研究社 昭和44年2月8日) 用下絵 1968 ケント紙、水彩・黒ボールペン 37.9 × 53.9 マット: 54.4 × 42.2 (半切) 個人 | 107 前田藤四郎 銅版画小品構成 (2) 1930 エッチング、紙 7.5 × 11.5 大阪新美術館準備室 | 114 桑原弘明 innocent 2014 ミクストメディア 6.3 × 5.8 × 5.8 個人 | 122 江戸川乱歩 犯罪幻想 (東京創元社 限定本) 1956 書籍 青森県立美術館 |
| 99 生頼範義 目・附属器 (目のしくみ) 『現代の家庭医学2 病氣と治療 I』(学習研究社 昭和44年2月9日) 用下絵 1968 黒画用紙・色鉛筆 54.6 × 39.6 マット無し 個人 | 108 中村宏 望遠鏡・富士山 (女学生に関する芸術と国家の諸問題) 1967 油彩・麻布、(マネキン・セーラー服・双眼鏡他) 112.0 × 162.0 高松市美術館 | 115 桑原弘明 mini scope four elements 風 2014 ミクストメディア D4.0 × H13.0 個人 | 123 棟方志功 谷崎潤一郎作『鍵』挿絵 (《鍵板画冊》全59冊より「大鏡の柵」) 1956 木版・画帖 (2冊) 13.1 × 16.7 青森県立美術館 |
| 100 生頼範義 口腔 (口腔と咽喉) 『現代の家庭医学2 病氣と治療 I』(学習研究社 昭和44年2月10日) 用下絵 1968 黒画用紙・色鉛筆 39.5 × 54.5 マット無し 個人 | 109 伊藤隆介 ポータブル・デュシャン 2008 ステレオビューワー、ポータブルメディアアレイヤー、ミクストメディア h32.0 × w15.0 × d32.0 作家 | 116 桑原弘明 静けさと眠り 2015 ミクストメディア 5.9 × 6.2 × 8.8 個人 | 124 棟方志功 谷崎潤一郎作『鍵』挿絵 (《鍵板画冊》全59冊より「腹鏡の柵」) 1956 木版・画帖 (2冊) 13.1 × 16.7 青森県立美術館 |
| 101 生頼範義 感覚細胞 黒画用紙 54.8 × 39.7 マット: 60.4 × 45.3 個人 | | 117 桑原弘明 Tableau 2017 ミクストメディア 5.1 × 7.4 × 6.6 個人 | 125 谷崎潤一郎 鍵 (中央公論社 初版) 1956 青森県立美術館 |

| | | | |
|---|---|---|--|
| 126 谷崎潤一郎+棟方志功 癡癡老人日記板画柵屏風 1963 板画有彩色3柵 板画無彩色34柵 5.9×5.3～25.2×34.2 二曲一双屏風 青森県立美術館 | 134 伝円山応挙 浜海高樓之図 宝暦期(1751-64) 紙本着色 27.3×54.3 島根県立美術館 | 143 岸本彩星童人 『子寿里庫叢書巻編 天王寺の蛸・眼鏡』 個人 144 『大阪春秋』平成19年夏号付録「普仏戦争 略記 パノラマ セダンノ戦」 個人 145 「明治三十五年一月開始 各国連合軍北京城総 攻撃大パノラマ」 47.2×63.5 個人 146 「各国連合軍天津城総攻撃」 40.2×53.2 個人 147 ステレオ写真(Looking from Tennoji Pagoda) 個人 148 ステレオ写真(Entrance to Asakusa Temple) 個人 149 大畑稔浩 春の予感 1993 油彩、キャンバス 112.1×145.5 東京ステーションギャラリー 150 萬國實體寫真協會「萬國實體寫真」(巴里 大洪水 其一) 1908 ゼラチン・シルバー・プリントに手彩色 18.0×19.3 東京都写真美術館 151 萬國實體寫真のビューワー 1908 可変 東京都写真美術館 152 カメラ・オブスキュラ 制作年不詳 46.0×32.0×13.0 東京都写真美術館 153 五島一浩 画家の不在 2018 ミクストメディア サイズ可変 作家 | 154 五島一浩 THROW 2010 映像 4分30秒 作家 155 山口勝弘 ヴィトリヌ No.47(完全分析方法による 風景画) 1955 油彩、水彩・紙、ガラス、木 95.5×125.0×10.7 東京国立近代美術館 156 高松次郎 遠近法の箱 1967 シルクスクリーン・紙 50.0×74.0 青森県立美術館 157 高松次郎 遠近法のベンチ 1967 シルクスクリーン・紙 61.0×78.0 青森県立美術館 158 高松次郎 影 1968 ラッカー、金具・板 65.0×54.0×9.8 青森県立美術館 159 飯田昭二 Half and Half 1968 鳥かご、ピンポン球、鏡 19.3×20.0×20.1 静岡県立美術館 160 丹羽勝次 NO HOOKS 1968 合板、ラッカー、綿テープ 138.0×123.0 静岡県立美術館 161 松山賢 写真の絵の具箱(蠟燭カドミウムオレン ジ) 2015 板、油彩 20×20×20 作家 |
| 127 稲垣足穂+中村宏 地を匍う飛行機と飛行する蒸気機関車 仮面 社 1970 青森県立美術館 | 135 伝平賀源内 覗きめがね 安永年間(1772-81)頃 木、皮、レンズ 32.8×47.1×48.1 平木浮世絵財団 | | |
| 128 反射式覗き眼鏡(英国製) 18世紀 木製 (高)68.0-76.0、(レンズ)径10.2、 (鏡)19.5×14.5 町田市立国際版画美術館 | 136 泥絵 不忍池 19世紀 紙本着色 33.0×23.8 平木浮世絵財団 | | |
| 129 泰山鏡(眼鏡絵器具) 1800年(寛政12) 木製 (台)39.0×66.8×66.7、(レンズ)径9.0、 (鏡)17.9×13.6 町田市立国際版画美術館 | 137 泥絵 新吉原 19世紀 紙本着色 33.0×23.6 平木浮世絵財団 | | |
| 130 眼鏡絵(阿蘭陀十景 廃城之図) 18世紀頃 銅板筆彩 30.1×46.0 町田市立国際版画美術館 | 138 泥絵 愛宕山 19世紀 紙本着色 33.0×23.6 平木浮世絵財団 | | |
| 131 眼鏡絵(阿蘭陀十景 王城之閣門) 18世紀頃 銅板筆彩 39.2×46.0 町田市立国際版画美術館 | 139 泥絵 二見ヶ浦 19世紀 紙本着色 33.3×23.8 平木浮世絵財団 | | |
| 132 伝円山応挙 三十三間堂 宝暦期(1751-64) 墨摺筆彩 22.8×28.6 町田市立国際版画美術館 | 140 泥絵 上野山 19世紀 紙本着色 32.9×23.6 平木浮世絵財団 | | |
| 133 伝円山応挙 めがね絵 加茂の競馬図 宝暦期(1751-64) 木版筆彩 20.8×27.2 島根県立美術館 | 141 ステレオ写真 19世紀 厚紙に写真貼付 (上から)8.3×17.0/8.6×17.4/8.7×17.6 津和野町郷土館 | | |
| | 142 自働パノラマ鏡 1910年頃 木に彩色、ガラス、オルゴール、ランプ W51.5×W41.0×121.0 日本カメラ博物館 | | |

| | | | |
|-----------------------------|--|---|----------------------|
| 162 | 170 | 177 | 185 |
| 松山賢 | 森村泰昌 | 山田純嗣 | 門真妙 |
| 写真の絵の絵の具箱 (蠟燭カドミウムイエローディープ) | 批評とその愛人 (4) | 舞妓林泉 ジオラマ | いっしょに見に行きたい |
| 2015 | 1989 | 2017 | 2017 |
| 板、油彩 | カラー写真、額縁 | ジェッソ、木粉粘土、樹脂粘土、木、針金、竹ひご、アルミ箔、発泡スチロール、スタイロフォーム | パネルに綿布、アクリル、ジェッソ |
| 20 × 20 × 20 | 90.0 × 106.0 | 87 × 44 × 40 | 33.3 × 33.3 |
| 作家 | 静岡県立美術館 | 作家蔵 | 個人 |
| 163 | 171 | 178 | 186 |
| 松山賢 | 森村泰昌 | 千葉正也 | 門真妙 |
| 写真の絵の絵の具箱 (蠟燭レモンイエロー) | 批評とその愛人 (5) | タートルズライフ #5 ～地獄巡り 2015 | わたしの気象 |
| 2015 | 1989 | 2015 | 2017 |
| 板、油彩 | カラー写真、額縁 | 油彩・キャンバス | パネルに綿布、アクリル、ジェッソ |
| 20 × 20 × 20 | 90.0 × 106.0 | 130.5 × 162.2 | 33.3 × 33.3 |
| 作家 | 静岡県立美術館 | Taguchi Art Collection | Gelatin Contemporary |
| 164 | 172 | 179 | 187 |
| 新井仁之 / 新井しのぶ | 森村泰昌 | 金氏徹平 | 門真妙 |
| 花の浮遊錯視 | 批評とその愛人 (6) | Teenage Fan Club #84 | ほんとう |
| 2013 | 1989 | 2018 | 2017 |
| インクジェットプリント、紙 | カラー写真、額縁 | プラスチックフィギュア、接着剤 | パネルに綿布、アクリル、ジェッソ |
| 728 × 728 | 90.0 × 106.0 | 作家 | 33.3 × 33.3 |
| 作家 | 静岡県立美術館 | 作家 | Gelatin Contemporary |
| 165 | 173 | 180 | 188 |
| 新井仁之 / 新井しのぶ | 森村泰昌 | 金氏徹平 | 門真妙 |
| スーパーハイブリット画像くつまれ > | 批評とその愛人 (7) | Teenage Fan Club #85 | 傷つけてばかり |
| 2012 | 1989 | 2018 | 2017 |
| インクジェットプリント、紙 | カラー写真、額縁 | プラスチックフィギュア、接着剤 | パネルに綿布、アクリル、ジェッソ |
| 728 × 728 | 90.0 × 106.0 | 作家 | 33.3 × 33.3 |
| 作家 | 静岡県立美術館 | 作家 | 個人 |
| 166 | 174 | 181 | 189 |
| 新井仁之 / 新井しのぶ | 山田純嗣 | 金氏徹平 | 門真妙 |
| めがねと旅する美術の浮遊錯視 | (14-5) 秋冬山水図 | Teenage Fan Club #86 | 少しだけ泣いた |
| 2018 | 2014 | 2018 | 2017 |
| インクジェットプリント、紙 | ポリコートパネルに印画紙、樹脂、ラメ、インタリオ・オン・フォト | プラスチックフィギュア、接着剤 | パネルに綿布、アクリル、ジェッソ |
| 728 × 728 | 各 46 × 29.3 | 作家 | 33.3 × 33.3 |
| 作家 | 池畑操氏 | 作家 | Gelatin Contemporary |
| 167 | 175 | 182 | 190 |
| 森村泰昌 | 山田純嗣 | 金氏徹平 | 石内都 |
| 批評とその愛人 (1) | 秋冬山水図 ジオラマ | Teenage Fan Club #87 | yokohama 互楽荘 #2 |
| 1989 | 2014 | 2018 | 1986-87 |
| カラー写真、額縁 | ジェッソ、木粉粘土、樹脂粘土、木、針金、竹ひご、発泡スチロール、スタイロフォーム、アルミ蒸着フィルム | プラスチックフィギュア、接着剤 | ゼラチン、シルバープリント |
| 90.0 × 106.0 | 秋景：135 × 55 × 32、冬景：98 × 56 × 57 | 作家 | 27.0 × 38.0 |
| 静岡県立美術館 | 作家蔵 | 作家 | 作家 |
| 168 | 176 | 183 | 191 |
| 森村泰昌 | 山田純嗣 | 金巻芳俊 | 石内都 |
| 批評とその愛人 (2) | (17-3) 舞妓舞妓林泉 | 円環カプリス | yokohama 互楽荘 #17 |
| 1989 | 2017 | 2018 | 1986-87 |
| カラー写真、額縁 | ポリコートパネルに印画紙、樹脂、ラメ、インタリオ・オン・フォト | 楠に彩色 | ゼラチン、シルバープリント |
| 90.0 × 106.0 | 200 × 93.5 | H:111 × W:51 × D:51 | 38.0 × 27.0 |
| 静岡県立美術館 | 作家蔵 | 個人 | 作家 |
| 169 | 177 | 184 | 192 |
| 森村泰昌 | 山田純嗣 | 門真妙 | 石内都 |
| 批評とその愛人 (3) | (17-3) 舞妓舞妓林泉 | ねえ、 | yokohama 互楽荘 #19 |
| 1989 | 2017 | 2017 | 1986-87 |
| カラー写真、額縁 | ポリコートパネルに印画紙、樹脂、ラメ、インタリオ・オン・フォト | パネルに綿布、アクリル、ジェッソ | ゼラチン、シルバープリント |
| 90.0 × 106.0 | 200 × 93.5 | 33.3 × 33.3 | 105.5 × 77.0 |
| 静岡県立美術館 | 作家蔵 | 個人 | 作家 |

| | | | |
|-------------------------|------------------------|---------------------------------|---|
| 193 | 202 | 210 | 218 |
| 石内都 | 中村宏 | ゾートローブ (レブリカ) | Mr. |
| yokohama 互楽荘 #22 | 早来迎機・1 | 1989 頃 | ゆうなーとちおとめー |
| 1986-87 | 1988 | 直径 40 × 高さ 40 | 2018 |
| ゼラチン、シルバークラウド | キャンヴァス、アクリル | 東京都写真美術館 | アクリル絵具、綿布、木製パネル |
| 38.0 × 27.0 | 112 × 162 | | h90.0 × w127.5 × d5.3 |
| 作家 | 静岡県立美術館 | | 作家 |
| 194 | 203 | 211 | 219 |
| 石内都 | 中村宏 | 市川平 | Mr. |
| yokohama 互楽荘 #53 | 円環列車 B - 飛行する蒸気機関車 | TOKYO UNIT LIFE (模型) | 優芽-ルビーバイナー |
| 1986-87 | 1969 | 1993 | 2018 |
| ゼラチン、シルバークラウド | キャンバス、油彩 | ミクストメディア | アクリル絵具、綿布、木製パネル |
| 38.0 × 27.0 | 130.3 × 162.1 | 72.0 × 75.0 × 76.0 | h70.0 × w70.5 × d4.8 |
| 作家 | 東京国立近代美術館 | 作家 | 作家 |
| 195 | 204 | 212 | 220 |
| ネグレッティ&ザンブラ | 大洲大作 | 東北芸術工科大学 総合美術コース 松村泰 | 220 |
| クリスタル・パレス | 《遠／近-青森》より 遠 (青森) 五能線、 | 三研究室学生作品 | 家住利男 |
| 1851-52 夕 | 2018 年 1 月 | 3D コラージュ | でっばり |
| ゲレオタイプ | 2018 | 2018 | 1994 |
| 8.3 × 17.2 × 4.0 | 津軽線・五能線・津軽鉄道・青い森鉄道など | モデリングボード、紙 | 熱線反射ガラス、接着、研磨 |
| 東京都写真美術館 | の車窓を撮影した写真、プロジェクター、鉄 | 10 × 15 × 30 | 50 × 50 × 10 |
| 196 | 205 | 213 | 221 |
| ネグレッティ&ザンブラ | 大洲大作 | 中ザワヒデキ | 家住利男 |
| クリスタル・パレス | 《遠／近-青森》より 近 (青森) 津軽線、 | アナグリフの穴 | P031199 |
| 1851-52 | 2017 年 1 月 | 1993 | 1999 |
| ダゲレオタイプ | 2018 | インクジェットプリント、パネル | 熱線反射ガラス、接着、研磨 |
| 8.3 × 17.2 × 4.0 | 津軽線・五能線・津軽鉄道・青い森鉄道など | W160 × D160 × H224 | 100 × 20 × 7 3pieces |
| 東京都写真美術館 | の車窓を撮影した写真、プロジェクター、鉄 | 作家 | 作家 |
| 197 | 206 | 214 | 222 |
| ネグレッティ&ザンブラ | TV アニメーション「名探偵ホームズ」エン | 東京大学大学院情報理工学系研究科知能機械 | 222 |
| クリスタル・パレス | ディング | 情報学専攻：「Unlimited Corridor」制作チーム | 家住利男 |
| 1851-52 | 1984 ~ 1985 | Unlimited Corridor | P.021102 |
| ダゲレオタイプ | (株) トムス・エンタテインメント | 2017 | 2002 |
| 8.3 × 17.2 × 4.0 | | 東京大学大学院情報理工学系研究科広瀬研究 | 熱線反射ガラス、接着、研磨 |
| 東京都写真美術館 | | 室 | 180 × 20 × 7 |
| 198 | 207 | 215 | 223 |
| ネグレッティ&ザンブラ | 円環アナモルフォーズ | 平川紀道 | 223 |
| 《クリスタル・パレス》用木製ステレオビューワー | 1750 頃 | a study for spacecolortime | 家住利男 |
| 1851-52 | 木製版に手彩色 | 2018 | M.080704 |
| 40.0 × 24.0 × 36.0 | 23.4 × 29.7 × 5.0 | コンピュータ、正方形液晶モニタ | 2008 |
| 東京都写真美術館 | 東京都写真美術館 | インスタレーション (サイズ可変) | 熱線反射ガラス、接着、研磨 |
| 199 | 208 | 作家 | 215 × 20 × 10 |
| リュミエール兄 | キノーラ | 216 | 作家 |
| 弟ラ・シオタ駅への列車の到着 | 1897 頃 | 吉開菜央 | |
| 1895 | 29.5 × 15.5 × 10.5 | ほったまるびより | 224 |
| 50 秒 | 東京都写真美術館 | 2015 | 家住利男 |
| 200 | 209 | 映像／約 30 分 | M.141001 |
| リュミエール兄弟 | キノーラ・フリップブック | 作家 | 2014 |
| エルサレム駅からの出発 | 1897 頃 | 217 | 熱線反射ガラス、接着、研磨 |
| 1896 | ゼラチン・シルバークラウド (D.O.P.) | Mr. | 200 × 16 × 12 |
| 50 秒 | 10.8 × 10.8 | 加奈-蒼き花- | 作家 |
| 201 | 東京都写真美術館 | 2018 | 225 |
| 車窓篇 TYPE4 | | アクリル絵具、綿布、木製パネル | 鈴木理策 |
| 1977-1990 | | h120.0 × w155.0 × d5.3 | 16.WM-653 |
| キャンヴァス、油彩 | | 作家 | 2016 |
| 130 × 162 | | | Chromogenic print Edition 1 of 5 Framed |
| 静岡県立美術館 | | | 1200 × 155.0 |
| | | | 作家 |

| | | | | | | |
|-----|-----------------------------|---|------|---|---------------------|------|
| 226 | 鈴木理策 | 17_WM-792 | 2017 | Chromogenic print Edition 1 of 5 Framed | 1200 × 155.0 | 作家 |
| 227 | 米田知子 | フロイトの眼鏡 - ユングのテキストを見る II | 1998 | ゼラチンシルバープリント | 120 × 120 | 森美術館 |
| 228 | 米田知子 | ル・コルビュジェの眼鏡 - L'Habitation Moderne バリ「近代住居」の講演原稿を見る | 2003 | ゼラチンシルバープリント | 120 × 120 | 森美術館 |
| 229 | 米田知子 | 谷崎潤一郎の眼鏡 - 松子夫人への手紙を見る | 1999 | ゼラチンシルバープリント | 120 × 120 | 森美術館 |
| 230 | 入江一郎 | Modernman | 2017 | マネキンにサングラスレンズの破片 | 185.4 × 53.3 × 33.0 | 作家 |
| 231 | 谷口真人 | Untitled | | 木製フレームに鏡、アクリルボードにアクリル 絵具、グリースペンシル | 46.5 × 37.6 × 10.4 | 個人 |
| 232 | 池内啓人 | 現代の作業着 | 2018 | 防毒マスク、保護ゴーグル、イヤーマフ、作 業着、安全靴、プラモデル他 | | 作家 |
| 233 | 池内啓人 | VRゴーグルを着ける人 | 2018 | VRゴーグル、防寒ジャケット、スニーカー、 ハードシェル、プラモデル他 | | 作家 |
| 234 | 山本大貴 | the Third Kind (feat.IKEUCHI Hiroto) | 2017 | パネル・油彩 | 60.6 × 45.5 | 個人 |
| 235 | 岸田めぐみ | in the green | 2017 | メガネ、糸、ワイヤー | 35.0 × 21.5 × 14.0 | 作家 |
| 236 | 岸田めぐみ | 視線の先 | 2018 | メガネ、糸、ワイヤー | 34.0 × 27.0 × 15.0 | 作家 |
| 237 | 岸田めぐみ | green scenery 1 | 2018 | メガネ、糸、ワイヤー | | 作家 |
| 238 | 岸田めぐみ | green scenery 2 | 2018 | メガネ、糸、ワイヤー | | 作家 |
| 239 | 岸田めぐみ | green scenery 3 | 2018 | メガネ、糸、ワイヤー | | 作家 |
| 240 | 象牙製 リベット眼鏡【複製】 | オリジナルは 1350 年代 | | 株式会社東京メガネ | | |
| 241 | 真鍮製 紐付き鼻あて眼鏡 | 18-19 世紀 | | 株式会社東京メガネ | | |
| 242 | 銀メッキ製 スプリングローネット エナメル 装飾 | 1840-50 年代 | | 株式会社東京メガネ | | |
| 243 | ベッ甲製 ロングローネット | 1860-80 年代 | | 株式会社東京メガネ | | |
| 244 | 鉄鋼製 バンスヌ サングラス | 1870-80 年代 | | 株式会社東京メガネ | | |
| 245 | K12 金張り製 バンスヌ | 1910-20 年代 | | 株式会社東京メガネ | | |
| 246 | 鉄製 頭痛おさえ眼鏡 | 1860-70 年代 | | 株式会社東京メガネ | | |
| 247 | 銀製 折り畳み頭痛おさえ眼鏡 | 19 世紀後期 | | 株式会社東京メガネ | | |
| 248 | 朝鮮製 角製 二つ折りテンプル眼鏡 | 19 世紀後期 | | 株式会社東京メガネ | | |
| 249 | 北海道教育大学美術・デザインコース映像研 究室 | 驚き盤 (ハリシオネグラフ) 5 個 | | | | |
| 250 | 北海道教育大学美術・デザインコース映像研 究室 | ソーマトロープ 10 個 | | 東京飛地展示 | | |
| T-1 | メガネ | Energetics of desire 発電ボールダンス | 2009 | ミクストメディア (ボールダンスキット 発 電ユニット ラジカセ 衣装) | D120 × W120 × H250 | 作家 |
| T-2 | 片岡純也 + 岩竹理恵 | Ghost in the Sellotape | 2015 | ミクストメディア (セロテープ、レンズ、LED、 モーター) | D.30 × W.30 × H.120 | 作家 |
| T-3 | 五島一浩 | STEREO SHADOW | 2008 | ミクストメディア (電球、耐熱塗料、赤青メ ガネ、スタンド) | D.40 × W.40 × H.140 | 作家 |
| T-4 | 五島一浩 | SHADOWLAND | 2013 | 3D ビデオ (13 分) | | 作家 |
| T-5 | めぐりあい JAXA 実行委員会 | 月周回衛星「かぐや」の眼 | 2018 | ビデオ (24 分) | | 作家 |
| T-6 | 細馬宏通 | 行動観察研究から | 2018 | ミクストメディア (ビデオ、テキスト) (10 分) | | 作家 |

掲載記事

陸奥新報

2018年5月31日

視覚文化の歩み紹介 7月県美で「めがねと旅する美術展」

2018年7月10日

東京で飛地展示トークイベント 3DやVR体験を 県美で20日から「めがねと旅する美術展」

東奥日報

2018年7月8日

「めがねと旅する」東京で先行展示 県美企画展

2018年7月20日

視覚の歴史たどる「めがねと旅—」展 県美できょう開幕

2018年8月8日

県美「めがね・レンズ」常設展 穂健作家の“視覚”に着目

2018年8月24日

アートの散歩道 視覚文化めぐる旅

新美術新聞

2018年7月21日

めがねと旅する美術展 人間の「夢」と「欲望」の世界

北鹿新聞

2018年7月26日

イベント散歩 めがねと旅する美術展紹介

毎日新聞社

2018年8月29日

視覚文化って面白い！めがねと旅する美術展 青森で来月2日まで

平成 30 年度コレクション展 Permanent Exhibition 2018

通年展示

アレコホール マルク・シャガールによるバレエ「アレコ」の
舞台背景画 Marc Chagall : ALEKO

青森県立美術館の中心には、縦・横 21m、高さ 19m、四層吹き抜けのアレコホールと呼ばれる大空間が設けられており、20世紀を代表する画家、マルク・シャガール（1887 - 1985）によるバレエ「アレコ」の背景画が展示されている。この背景画は、ロシア（現ベラルーシ）のユダヤ人の家庭に生まれたシャガールが、第二次世界大戦中、ナチス・ドイツの迫害から逃れるため亡命していたアメリカで、「バレエ・シアター（現アメリカン・バレエ・シアター）」からの依頼で制作した。大画面の中に「色彩の魔術師」と呼ばれるシャガールの本領が遺憾無く発揮された舞台美術の傑作である。

青森県は、全 4 作品から成るバレエ「アレコ」の舞台背景画のうち、第 1 幕、第 2 幕、第 4 幕を 1994 年に収集した。残る第 3 幕はアメリカのフィラデルフィア美術館の所蔵で、長年同館の西側エントランスに展示されていたが、同館の改修工事に伴い、2017 年から 4 年間の借用が認められた。青森県立美術館での「アレコ」背景画全 4 作品の展示は、2006 年の開館記念で開催された「シャガール『アレコ』とアメリカ亡命時代」展以来である。

アレコ特別鑑賞プログラム

「アレコ」背景画 4 点に舞台用の照明をあて、音楽とともにバレエのステージを彷彿とさせる演出を加えながら、作品制作の背景、バレエのストーリーなどをナレーションで紹介する約 15 分間の鑑賞プログラムを、企画展「シャガールー三次元の世界」展（3 月 10 日ー 5 月 6 日）に合わせて実施。好評のため、10 月より再開。

再開後の実施期間

平成 30 年 10 月 1 日（月）ー 10 月 31 日（水）

平成 30 年 12 月 11 日（火）ー 平成 31 年 3 月 31 日（日）

① 10:30 - ② 12:00 - ③ 13:30 - ④ 15:00 -

※平成 30 年 11 月 1 日（木）ー 12 月 10 日（月）は、展覧会
やコンサート開催による音響等の調整により休止。

展示室 F、G | 奈良美智 NARA Yoshitomo

国内外で活躍する青森県出身の美術作家・奈良美智（1959 - ）は、挑むような目つきの女の子の絵や、ユーモラスでありながらもどこか哀しげな犬の立体作品などで、これまで若い世代を中心に、多くの人の心をとらえてきた。

青森県立美術館では、開館前の 1998 年から、絵画やドローイング等の作品の収集を始めており、現在、170 点を越えるそのコレクションの多くは、奈良が 1988 年から 2000 年まで滞在したドイツで生み出されたものである。

この展示室では、奈良の 90 年代のコレクションを中心に、《Puff Marshie（パフ・マーシー）》（2006 年）や《Broken Heart Bench（ブローケン・ハート・ベンチ）》（2008 年）など、作家からの寄託作品も展示している。

コレクション展 I

2018年3月10日(土) - 5月6日(日)

春の便り Spring has come

雪深く長い冬が終わると、北国に待ち焦がれた春が訪れる。青森県立美術館のコレクションから、花開き、緑芽吹き、水温み、生き物たちが動き出す春の息吹を届けるテーマ展示を行った。また、同時期に開催する企画展「シャガールー三次元の世界」展に合わせ、当館が誇る西洋版画コレクションの名品を特集展示した。

出品作家

石井康治、菊地敦己、工藤甲人、須藤尚義、蔦谷龍岬、成田亨、野澤如洋、橋本花、棟方志功

※「シャガールー三次元の世界」展関連企画

ルドン、ピカソ、マティス、カンディンスキー、クレーの版画：展示室I

※アグロス・アートプロジェクト2017 明日の収穫〈種まき編〉
成果発表展示：展示室H

展示室N | 棟方志功と青森の日本画家

MUNAKATA Shiko and the Japanese-style painters of Aomori
棟方志功は「忘れえぬ人々」(『板極道』所収)のなかで二人の郷土の日本画家の名を挙げている。一人は弘前出身で東京美術学校に学び、大正から昭和前期にかけて文展・帝展で活躍した蔦谷龍岬、もう一人はやはり弘前出身で、明治中期に竹内栖鳳と並び称されるほどに京都画壇で頭角を現し、その後中国や朝鮮半島、さらには欧米を漫遊するなど型破りで奔放な画家として知られた野澤如洋である。棟方は、龍岬については横山大観に次いで好きな画家であるとし、如洋については「一本の筆で、濃淡、疎密、自由自在に万物を捉える天才である」と最大限の賛辞を贈っている。

また、田舎館村生まれの須藤尚義は蔦谷龍岬の画塾鐸鈴社に学び、初期は龍岬譲りの大和絵風の繊細な作品で帝展に入選を果たし、龍岬没後は川端龍子の青龍社に加わり、戦後は中村岳陵に師事して日本美術院展に出品した。

以上3名の青森の日本画家と棟方の作品から、春に因む主題を中心に紹介した。

棟方志功展示室 宙を舞う Soar into the open sky

1929年夏、八甲田山中(青森市)の酸ヶ湯温泉に滞在していた棟方志功は、仙人と称されるほど八甲田山中を良く知る鹿内辰五郎氏の案内で八甲田大岳に登った。その途中、両翼に見事な円い紋を持つ鷹を見たことがきっかけで鷹に神性を感じたという。その時のことを自著『板散華』の中で次のように記している。「日本晴れた真っ青な天空を傘にして、八甲田山の頂上から真上に見仰いだ御鷹の、両翼に伝説の真紅(しんく)の日の丸が判然と見えたと言うて、五十何年前の山男生活中、唯この一度の『拝み』だと言うて、何時までも何時までも瞑目合

掌していた辰五郎の後姿が、霧にぼかされて包まれて仕舞ったことを想いだす。」この出来事以後、鷹は棟方にとって故郷青森を象徴するものとなり、鷹をモチーフにした作品を数多く制作するようになる。

棟方はまた、飛天する女人像をテーマにした作品も多数制作している。天に飛び、様々なポーズをとる女人たちは、若さと健康にあふれた生命の充実感をそなえ、天女となり、女神となり私たちを魅了する。

「宙を舞う」をテーマに、棟方が描いた鷹をはじめとする鳥や、飛天する女人像を描いた作品を展示した。

展示室P | 菊地敦己 ファッションブランドのためのデザイン KIKUCHI Atsuki : Graphic design for fashion brands

菊地敦己は、青森県立美術館のVI(ヴィジュアルアイデンティティ)計画を担当するアートディレクター/グラフィックデザイナーである。美術館全体の体験をイメージとして伝達していくことを意図してデザインされたシンボルマークやロゴタイプ、サイン等は、美術館の建物や周囲の環境と調和しながら独自の景色を作り出し、開館以来多くの来館者に親しまれている。菊地は美術やファッション、建築などの分野のグラフィックデザインを多く手がける他、グラフィックデザインそのものを考察する作品制作や発表も行っている。スタート当初よりブランド計画(ブランディング、アートディレクション)を手がける2つのファッションブランド、「ミナペルホネン」と「サリー・スコット」のために制作されたポスターを中心に紹介した。

展示室Q | 成田亨: 怪獣デザインの美学

NARITA Tohl : Aesthetic of Monster Design

成田亨は、「ウルトラマン」、「ウルトラセブン」という初期ウルトラシリーズのヒーロー、怪獣、宇宙人、メカをデザインし、日本の戦後文化に大きな影響を与えた彫刻家兼特撮美術監督である。

武蔵野美術学校研究科に在籍していた1954年、成田は人手の足りなかった「ゴジラ」の製作に参加、そこで円谷英二と出会い、以降特撮美術の仕事も数多く手がけるようになる。1965年、東宝撮影所で円谷英二と再会し、「怪獣のデザインはすべて自分がやる」という条件のもと「ウルトラQ」の2クールから制作に参加。以降「ウルトラマン」、「ウルトラセブン」までのシリーズに登場するヒーロー、怪獣、宇宙人、メカニック等のデザインを手がける。放映に際し、「これまでにないヒーローの形を」という脚本家・金城哲夫の依頼を受けた成田は、ウルトラマンのデザインを純粋化という「秩序」のもとに構築し、対する怪獣のデザインには変形や合成といった「混沌」の要素を盛り込んでいく。

美術家としての高い感性によってデザインされたヒーロー、怪獣は、モダンアートの成果をはじめ、文化遺産や自然界に存在する動植物を引用して生み出される形のおもしろさが特徴である。誰もが見覚えのあるモチーフを引用しつつ、そこから「フォルムの意外性」を打ち出していくというその一貫した手法から、成田の揺らぐことのない芸術的信念を読みとることができる特

撮番組のデザイン原画を展示した。

展示室 M | 工藤甲人=春の訪れ

KUDO Kojin : The coming of spring

青森県中津軽郡百田村（現、弘前市）の農家に生まれた工藤甲人（本名は儀助）は1934年に上京。翌年から川端画学校日本画科で岡村葵園に学ぶ一方で、当時日本でも美術雑誌や展覧会で盛んに紹介されていたシュールリアリズムに関心を抱き、日本画の革新を目標に福田豊四郎らが結集した新美術人協会展への出品を契機に、福田の研究会に入りその影響を強く受ける。太平洋戦争時には兵士として中国戦線に送られ、1945年に復員後は郷里で農業に従事していたが、師と仰ぐ福田の呼びかけで制作を再開。創造美術やその後継である新制作派協会日本画部に出品し、1951年にはヒエロニムス・ボッシュの作品を想わせる《愉しき仲間》で同協会の新作家賞を受賞するなど、加山又造らとともに同展の有力な新進作家として活躍をはじめ。1962年には弘前から神奈川県平塚市に制作の場を移し、北国の自然のなかで育まれた感性を基に、夢幻的な絵画世界を展開した。今回はその中から、北国の春の訪れを感じさせる作品を展示した。

展示室 L | 石井康治：詩・季・彩 - 春が来た

ISHII Koji : SHI (poem)・KI (seasons)・SAI (colors)

- Spring has come

「色ガラスを用いて自分のイメージを詩のような感じで作りたい。」石井康治は、1991年、今、県立美術館が建つ場所に程近い青森市三内に工房を構える。以降、1996年に急逝するまで、この地で精力的にガラスの素材と技法について研究を重ね、青森の四季と風土を彩り豊かなガラス作品にうつし取っていった。青森の自然に魅せられた石井の制作は、ドローイングやデッサンなどで自然を写生することからはじまり、工房で熱したガラスを中空の棹に巻き取り、息を吹き込んで膨らませ、そこに選り抜いた色ガラスを溶着させ、イメージしたかたちを作りあげていく。光と風が織りなす北国の四季から受けたインスピレーションは、繊細な感性と優れた造形感覚、そして確かな手の技に裏打ちされつつ、自然との対話、ガラスという素材との対話を通して作品に結実していった。

自らの創作テーマを「詩・季・彩」という言葉で語っていた石井の作品は、彼が愛した青森の四季を謳う一篇の詩のように、私たちに語りかけてくる。石井がガラスで描き上げた四季から、光と色彩、そして生命の息吹が一気に溢れ出す北国の春をテーマにした作品を展示した。

展示室 J | 春を彩る：橋本花の世界

Decorate the spring : The world of HASHIMOTO Hana

青森の女性画家の先駆的存在である橋本花は、現在の女子美術大学に学び、在学中に当時最も権威のあった帝展に入選し、同じく帝展入選をめざしていた若き棟方志功らの憧れでもあった。その名のとおりに「花」を得意とし、晩年は浅虫にアトリエをかまえ、身近な自然、中でも親密な共感にみちた花々を描い

た。当時のインタビューで「キャンバスに向かっているときは、自分が花か、花が自分かわからなくなるときがある」と語っているように、対象に深く没入した独自の作品を残している。

豊かな色彩であふれるばかりの生命力を感じさせ、長い冬をのりこえた春のよこびを伝える作品と、戦後、サンパウロ日本文化会館の招きで訪問したブラジルを題材に描いた作品を中心に紹介した。

展示室 I | 「シャガール - 三次元の世界」展関連企画：ルドン、ピカソ、マティス、カンディンスキー、クレーの版画

Western modern prints : REDON, PICASSO, MATISSE, KANDINSKY, KLEE

マルク・シャガールがパリで創作活動を始めた20世紀初頭の西洋では、近代における科学技術の発展や社会の急激な変化とともに、美術の世界でも大きな変革が起こっていた。19世紀後半には印象派が登場し、光や大気の変化とともに刻々と移ろう身近な風景を画面に捉えようと試みる。画家たちは、アカデミックな権威や伝統が定める様式に基づいて事物や物語を描くのではなく、自身の感性によって捉えた世界や、人間の感覚や内面への深い洞察に基づく表現の創造を追求しはじめた。20世紀に入ると、19世紀後半に生まれた画家たちが主役となり、より多彩な美術運動や個性的な作風を生み出していった。青森県立美術館が誇る西洋版画のコレクションから、変革のうねりの中で探求を重ね、独創的な作品世界を創造した巨匠たちの名品を展示した。

展示室 H | アグロス・アートプロジェクト2017 明日の収穫〈種まき編〉 成果発表展示

Agros Art Project 2017 Tomorrow's Harvest : Sowed seeds

※内容は重点事業「アグロス・アートプロジェクト」参照

コレクション展 II

2018年5月12日(土) - 7月8日(日)

絵画の絆「フランスと日本」展関連企画：それぞれのフランス、それぞれのパリ Between France and Japan

19世紀から20世紀にかけて、パリは時代の最先端を行く文化の発信地となり、彼の地で次々と花開く新たな芸術活動は、日本の美術家や文学者にも大きな刺激を与えた。近代以降、日本、そして青森の作家たちは、それぞれの創作活動においてフランス、パリをはじめとする「西洋」とどのように向き合ったか、青森県立美術館のコレクションからその多彩な軌跡を紹介するテーマ展示を行った。

出品作家

今井俊満、工藤信太郎、工藤哲巳、佐野ぬい、蔦谷龍岬、鳥海青児、成田亨、野澤如洋、橋本花、松木満史、棟方志功

展示室 N | 蔦谷龍岬と野澤如洋～官展と在野にあつて

TSUTAYA Ryuko and NOZAWA Joyo : In and Out of Salon

西洋の文化や制度を大幅に取り入れた明治時代、美術の世界でも大きな制度の導入があった。フランスのアカデミーやサロンといった制度に範をとった官展（政府主催の展覧会）の創設である。1907年に設立された文部省美術展覧会は、その後、帝国美術展覧会、ふたたび文部省美術展覧会と名称をかえながら、戦前の美術界の権威であり続けた。棟方志功が上京するにあたり、帝展への入選を切望し、それまでは帰郷しないと誓った逸話は有名である。

棟方が郷土出身の先輩画家として尊敬し、自伝『板極道』に名を記した二人の日本画家は、この戦前の官展に対し対照的な姿勢をとっている。蔦谷龍岬は文部省美術展覧会（文展）の第9回展に《静日》が初入選して以降、一貫して官展系の展覧会を舞台に活躍した。次々と特選を重ね、やがて委員や審査員も歴任するなど将来を嘱望されていたが、1933年、惜しくも48歳の若さでこの世を去る。

逆に、画壇の一部から高く評価され、第一回文展開催にあたっては審査員を打診されたともいわれる野澤如洋は、一貫して官展に背をむけ、在野を貫き、水墨画にこだわって独自の世界を描き続けた。時代の趨勢からいえば異端ともいべき如洋だが、より大きな東洋古来の水墨画の伝統に忠実であったともいえるだろう。

官展と在野でそれぞれの画道を追求した二人の作品を展示した。

棟方志功展示室 | 米欧の旅～美の借りを返す

Travel to the U.S. and Europe (the Return of Beauty)

棟方はヨーロッパに長年の念願が二つあった。一つはゴッホの墓を詣でること。もう一つはシスティーナ礼拝堂でミケランジェロの《最後の審判》に会うこと。

1959年1月、アメリカのロックフェラー財団とジャパン・ソサエティの招きにより初めての渡米を果たした棟方は、各地の

大学で板画の講義をしたり、渡航中の船中で生んだ新作を含む個展を開催したりと精力的に活動した後、ニューヨークの街が夏休みに入った8月に約1か月間のヨーロッパ旅行へと出発した。フランス、オランダ、スイス、イタリア、スペイン各地の美術館などを見学し、念願叶ってパリ郊外のオーベールにあるゴッホの墓を詣でる。ゴッホの地を訪れゴッホの空気と情景を感じたこと、そしてシスティーナ礼拝堂で《最後の審判》を見たことで、「絵描きとしての生涯の負担というものが、ここでさっぱりと払いのけられたような想いがしました」と語り、今まで美というものから借金を受けていて体の中に溜まっていた感覚があった棟方にとって、肩の荷を下ろす出来事となった。雑誌に載ったゴッホの《ひまわり》に感動し、「わだばゴッホになる」と決意した初期の油絵や板画から、一躍世界のムナカタとなったサンパウロ、ヴェネツィア・ビエンナーレへの出品作、そして多くの実りをもたらした米欧の旅で描いた作品を展示した。

展示室 O、P | 工藤哲巳 パリの仏陀

KUDO Tetsumi : Buddha in Paris

1960年代に「反芸術」の旗手として活躍した工藤哲巳は、1962年からパリに拠点を移し、晩年の1987年に東京芸術大学教授となり帰国するまでの20数年間、ヨーロッパの閉塞した社会をショッキングな表現方法で挑発し続けた。

工藤は自らの作品を「社会評論の模型」と呼んだ。1960年代には、過去の栄光にすぎただけで不能化されたヨーロッパ社会を痛烈に批判する「あなたの肖像」シリーズを制作する。現代ヨーロッパ文明が抱える問題点とそこに生きる人々を、「これがあなたたちの姿そのものだ」と批判的、挑発的に表現し、この不能化されたヨーロッパを徹底的に批評するために、あえてショッキングな表現、猥褻な表現を組み合わせる攻撃してみせた。

1970年代に入ってから取り組んだ新たなテーマは「環境汚染」であった。豊かさを追及する一方、自動車の排気ガス、工場からの排煙、廃水など、自らが作り出した環境汚染、自然破壊に苛まれ、自分たちが作り出した文明社会が自分たちを圧迫していることを認識しつつも、自ら克服できずにいる「不能」な人間と社会。工藤は繁栄を誇るかにみえる近代文明を独自の視点から捉え、現代社会における人間の在り方に深い疑問を投げかけ、ショッキングな表現で人々の前に提示し続けた。

深い思索と哲学に裏打ちされ、現在もなお我々に鋭く迫ってくる「警告」を発し続ける作品を展示した。

展示室 Q | 今井俊満 フランスと日本、そしてヒロシマ

IMAÏ Toshimitsu : France, Japan and Hiroshima

1957年、フランスに渡っていた今井俊満は、アンフォルメル運動の主唱者ミシェル・タビエらとともに一時帰国し、日本に「アンフォルメル旋風」を巻き起こす。それは、戦後の日本美術の動向に大きな影響を与えるとともに、日本の若い世代に強烈な刺激を与えた。今井自身もアンフォルメルの旗手として高く評価されたが、「自分をコピーし続ける」ことを否定し、ひ

とつとつに安住することを潔しとせず、生涯を通して常に新たな表現に挑戦し続けた。

アンフォルメルの前衛的な非具象の世界から一転し、日本な「花鳥風月」、「飛花落葉」の世界へ、さらに戦争をテーマにした「ヒロシマ」シリーズへと大きく作風を展開させ、晩年には「コギャル」をとおして生のエネルギーを表現するなど、病に冒されながらもその創作意欲は死の直前まで衰えることはなかった。フランス時代の優品に加え、日本的テーマに回帰した後の「ヒロシマ」シリーズを中心に紹介した。

展示室 M：成田亨 | 怪獣デザインの美学

NARITA Tohi : Aesthetic of Monster Design

成田亨は、「ウルトラマン」、「ウルトラセブン」という初期ウルトラシリーズのヒーロー、怪獣、宇宙人、メカをデザインし、日本の戦後文化に大きな影響を与えた彫刻家兼特撮美術監督である。

武蔵野美術学校研究科に在籍していた1954年、成田は人手の足りなかった「ゴジラ」の製作に参加、そこで円谷英二と出会い、以降特撮美術の仕事も数多く手がけるようになる。1965年、東宝撮影所で円谷英二と再会し、「怪獣のデザインはすべて自分がやる」という条件のもと「ウルトラQ」の2クールから制作に参加。以降「ウルトラマン」、「ウルトラセブン」までのシリーズに登場するヒーロー、怪獣、宇宙人、メカニック等のデザインを手がける。放映に際し、「これまでにないヒーローの形を」という脚本家・金城哲夫の依頼を受けた成田は、ウルトラマンのデザインを純粋化という「秩序」のもとに構築し、対する怪獣のデザインには変形や合成といった「混沌」の要素を盛り込んでいく。

美術家としての高い感性によってデザインされたヒーロー、怪獣は、モダンアートの成果をはじめ、文化遺産や自然界に存在する動植物を引用して生み出される形のおもしろさが特徴である。誰もが見覚えのあるモチーフを引用しつつ、そこから「フォルムの意外性」を打ち出していくというその一貫した手法から、成田の揺らぐことのない芸術的信念を読みとることができる特撮番組のデザイン原画を展示した。

展示室 L、J | フランスに学ぶ・フランスを描く

Stady in France / Paint French Scenery

1 松木満史、工藤信太郎

近代日本の多くの美術家たちが当時の芸術の中心地であったフランスにあこがれ、渡仏してパリに学び、尊敬するフランスの画家達と同じ風景を描いた。

青森において、フランスに学ぶという夢を実現した最初期の画家としてあげられるのがつがる市（旧木造町）出身の松木満史であろう。若き日から白樺派に傾倒し、美術のみならず文学や演劇にも関心が深く、棟方志功の親友でもあった。1938年にはかねてよりあこがれていたフランスへの渡航を果たす。家族の不幸や戦争の激化などにより、1年半で帰国を余儀なくされるが、帰国後の作品には印象派風の明るい光がとりいれられるようになる。

松木のパリへの渡航の際の船中や寄港地などで描かれた淡彩によるスケッチと、渡航前の重く深い色彩による油彩画、そして渡航後の明るい光に満たされた油彩画とあわせて、青森県出身の画家として、松木にさきがけてフランスにわたっていた工藤信太郎の油彩画を展示した。

2 橋本花

棟方志功や松木満史が画家への夢をいだき、上京して奮闘していた頃、女子美術学校（現女子美術大学）の学生でありながら、帝展に入選し、棟方から羨望の目でみられていたのが、青森市出身の女性画家、橋本花であった。戦後、1960年代にブラジルとヨーロッパを歴訪した際に制作したパリの街の風景を題材にした作品を中心に紹介した。

3 鳥海青児

神奈川県平塚市生まれの鳥海青児は、厚塗りの重厚な質感で知られる、日本の代表的な洋画家の一人であり、弘前市出身の前衛美術家の小野忠弘の親しい先輩・友人でもあった。

1930年から33年にわたってヨーロッパに遊学した鳥海は、パリでみたドラクロワ展で、ドラクロワを魅了したアルジェリアに関心を抱き、フランス領であったアルジェリアを訪れ1年半ほど滞在する。この時期に主題とした首都アルジェ市にあるグーベルヌマン広場を描き、熱い空気と広場の喧噪を生々しい絵具の質感で描写した《プラス・デュ・グーベルマン（アルジェ）》を展示した。

モスクを背景にターバンを身につけた人々が行き交う灼熱の風景はパリとは違うもうひとつのフランスの姿を見せてくれる。

展示室 I、H | 佐野ぬい わが心の^{パリ}巴里

SANO Nuī - Paris, mon amour

1932年、佐野ぬいは弘前の菓子店に生まれる。店内にはクラシックが流れるティールームがあり、家業の傍ら同人誌を発行していた父の友人たち、文学者や画家らがよく集っていたという文化的な環境の下で幼少期を過ごした。父はまた、娘に津軽民謡を教える一方、フランス近代詩を暗唱させたという。女学校に入ると、終戦後「怒濤のごとく」上映され始めた欧米映画、中でも1930年代のフランス映画に心酔し、フランスに行きたい、パリの街を描きたいという思いに駆られ、「津軽より、東京の方が巴里に近い。まず東京へ行こう。」と1951年上京し、女子美術大学に入学する。

戦後間もない東京では、海外から新しい潮流が押し寄せ、それに呼応する斬新な芸術活動が次々と生まれていた。佐野は卒業後も大学に残り、画家の道を歩み始める。やがて作品からは、具体的な事物が消え、色彩の対比で画面構成を行う独自の作風を築き上げる。その画面上では様々な色と形が響き合い、ニュアンスに富んだ筆線がときには素早い、ときにはゆっくりとした動きやリズムを奏でる。

佐野が、創作の要として位置づけ、現在まで最も大切にしているのは「青」という色である。作品に現れる「青」には、画家自身がその人生で出会った様々な「青」が投影される。たとえば幼い頃菓子工場で白いクリームや青い洋酒の瓶を眺めていた記憶や、雪上の真っ青な空など、雪国の自然の中で生まれた色

彩への鋭敏な感覚から呼びさまされた「青」が。そして画家自身語っているように、「青」は気分や想いを表す色である。それは「郷愁」の色であり、また「憧憬」の色であるともいわれる。佐野の「青」は少女時代に抱いた想いに始まる、パリへの憧れを映しているのかもしれない。若き日に恋い焦がれたパリの街そのものの姿はないが、その画面から香り立つエスプリは、画家の心の中に宿り続けている「巴里」を源泉として湧き起こってくるように思われる。

未だ見ぬ「青」を求め、今も絵筆を握り続ける佐野ぬいの世界を紹介した。

コレクション展 Ⅲ

2018年7月14日（土）－10月21日（日）

「わだばゴッホになる」と芸術家を目指し、国際的な評価を得るまでに至った「板画家」・棟方志功、ウルトラシリーズなど特撮美術の分野で活躍した成田亨、多くの人に愛されている『11ぴきのねこ』を生んだ絵本作家・馬場のぼる、ベトナム戦争の報道写真でピューリッツァー賞を受賞したカメラマン・澤田教一など、青森県ゆかりの個性的な作家たちによる傑作を展示した。また一部、本展期間内に開催される企画展「めがねと旅する美術展」に関連し、「めがね」というモチーフや「レンズ」を通じた視覚に着目した作品も展示。

棟方志功展示室, 展示室 M, N | 棟方志功: ころろの中の美を描く
「眼病の棟方志功 目を剥(む)きて 猛然と彫(え)るよ 森羅万象」棟方に小説の挿絵を依頼するなど親交のあった谷崎潤一郎は、棟方の左眼が見えなくなったと聞いて心配しこの歌を届けました。棟方志功は幼い頃から近視のうえに視力が弱く、57歳の時には左眼を失明しています。「目が弱いわたくしは、モデルの身体の線も見えて来ないし、モデルも生涯使わないで行こう。ころろの中に美が祭られているのだ。それを描くのだ。」と語り、心の眼で描いた棟方の理想の女性像は“棟方の美人画”として人気を博しました。また棟方は、「わたくしは写生を致しません。」とも語っています。そこには、写生によって自然を自然と同じように描くのではなく、絵の中に改めて生み出そうとする棟方の姿勢を読み取ることができます。合浦公園や八甲田など故郷青森の風景は棟方の心に焼き付けられ、晩年数多く描かれます。写生に頼らず絵としての自然を描き出す、それが棟方の美の表現方法でありました。

展示室 L | 企画展「めがねと旅する美術展」と関連した小企画「棟方志功の眼鏡」を実施。

展示室 J | 馬場のぼるのねこ

青森県三戸町出身の漫画家、馬場のぼるは、絵本『11ぴきのねこ』（こぐま社）シリーズの作者として広く知られています。一冊目の『11ぴきのねこ』は1967（昭和42）年に出版された作品ですが、誕生以来50年を越えた現在もなお、多くの子どもたちに愛され続けているロングセラー絵本となっています。今回の展示では、「ねこ」を主なテーマとしながらも、漫画や絵本の仕事という枠組みから少し離れて、作家が自由に制作した作品の数々を紹介します。それらの作品には、漫画や絵本に登場する同じ「ねこ」や動物でありながらも、作家自身の思い出になぞらえた情景や、作家が特に好んだモチーフが描かれており、馬場のぼるという作家の人間性をより身近に感じることができるのではないのでしょうか。

対象をじっくりと観察することによってその本質をとらえつつ、あたたかい眼差しとユーモアに満ちた作品世界を生涯描き続けた馬場のぼる。その普遍的な魅力の一端を紹介。

展示室 I | 成田亨: 特撮/怪獣

成田亨は、「ウルトラマン」、「ウルトラセブン」という初期ウルトラシリーズのヒーロー、怪獣、宇宙人、メカをデザインし、日本の戦後文化に大きな影響を与えた彫刻家兼特撮美術監督です。武蔵野美術学校研究科に在籍していた1954年、「ゴジラ」の製作に参加、そこで円谷英二と出会い、以降特撮美術の仕事も数多く手がけるようになります。1965年、東宝撮影所で円谷英二と再会し、「怪獣のデザインはすべて自分がやる」という条件のもと「ウルトラQ」の2クールから制作に参加、以降「ウルトラマン」、「ウルトラセブン」までのシリーズに登場するヒーロー、怪獣、宇宙人、メカニック等のデザインを行いました。空間把握にすぐれた彫刻家としての資質は特撮美術の仕事にも活かされましたが、このコーナーでは成田亨が担当した映画「麻雀放浪記」のオープニングで使用されたセットを、当時のスタッフにより完全再現したものもあわせて展示。ただ単に現実を縮小するのではなく、強い遠近法によるセットを組んだり、時には遠景に写真を配置したりと、映像となった時にもっともリアルに見えるようなアイデアを次々に投入していった成田の仕事は現在活躍している特撮美術家たちにも強い影響を与えています。

展示室 H | 澤田教一: 空からの攻撃

1936（昭和11）年に青森市に生まれた澤田教一は、1965年、戦火の絶えないインドシナ半島に赴き、カメラマンとして活躍しました。ベトナム戦争が拡大の一途にあった時期、激戦地での撮影を続けた澤田は、34歳で銃弾に倒れるまでの約5年間に、数々の傑作を生み出します。なかでも、米軍の空爆から逃れようと川を渡る親子を捉えた《安全への逃避》（1965年）を含む写真帳は、報道界の最高栄誉と言われるピューリッツァー賞を受賞しています。米軍により軍用ヘリが幅広く使われたベトナム戦争は、しばしば「ヘリコプター戦争」と呼ばれます。また米軍は、地の利を得ていた「共産ゲリラ」との地上戦で苦戦を強いられる中、絨毯爆撃を可能にするB52戦略爆撃機やナバーム弾を搭載したF-4戦闘機の利用など、空からの攻撃を重視していました。アメリカの通信社UPIに所属するカメラマンとして米軍と行動を共にした澤田の残した写真には、上空からの攻撃あるいは上空からの視野を捉えたものが含まれています。それらの写真を中心に、アマチュア時代に三沢空軍基地を撮影した写真や代表作も合わせて展示。

コレクション展 IV

2018年10月27日(土) - 2019年3月3日(日)

棟方志功展示室, 展示室 J, K, L, M, N, O, P, Q |

【特別企画】昭和十四年『青森県出身の在京藝術家座談會』の
藝術家たち

太宰はおずおずと口を開いた。

「私は小説を書いている太宰治であります。北郡金木町生まれ
で、本名は津島修治……」

途中から急に声が低くなって、語尾が口の中に消えてしまった。
そのとき上座から、棟方志功が大声で叫んだ。

「聞こえません。もういっぺん高くいって下さい」

途端に太宰は、それまで鬱憤を爆発させた。

「うるせえ、黙ってろ！」

太宰はいきり立った表情で、椅子に腰を下ろした。

長部日出雄による棟方志功の伝記『鬼が来たー棟方志功伝』の冒頭で描かれた、棟方志功と太宰治との緊張感溢れるこのやりとりは、実際に行われたある座談会の場でのことです。それは昭和14年9月20日、東京日比谷公園近くの「松本楼」を会場にした、青森県出身の在京藝術家たちによる座談会でした。総合雑誌『月刊東奥』（1939年10月11日発行）へ収録すべく、東奥日報社が主催したこの座談会には、当時、東京を拠点に活動していた、文学、美術、舞踊など、さまざまな分野にわたる青森県ゆかりの31名の藝術家が参加しました。そこには、棟方志功、太宰治をはじめ、秋田雨雀、今純三など錚々たる顔ぶれが並んでいました。

ほぼ自己紹介と郷土の秋の風物話に終始するこの会ですが、参加者たちの胸によほど深く刻まれたのでしょう。棟方志功、太宰治、関野準一郎、今官一、列席した4人は、後にそれぞれの視点からこの座談会の出来事を小説や随筆の中で振り返っています。

時代は日中戦争の最中、ヨーロッパでは既に第二次世界大戦の火蓋が切られていました。軍国主義をいよいよ強める日本において、青森県に生まれた藝術家たちは、東京からどんな思いで故郷を語ったのでしょうか。『青森県出身の在京藝術家座談會』の全出席者の内、当館収蔵品を核に、県内の諸施設や個人のご所蔵者のご協力も得て集めた（※）22名の藝術家たちの作品と言葉から、それぞれの個性と時代を浮かび上がらせました。

出品作家：秋田雨雀、江口隆哉、清水（石橋）富久、中野桂樹、今ヤヨ、太宰治、阿部合成、今純三、橋本花、鳥谷幡山、鳴海完造、小林喜代吉、鳴海要吉、明本京静、関野準一郎、棟方志功、須藤尚義、芳賀まさお、板垣直子、竹森節堂、今官一、田澤八甲

※作品・資料貸与、展示協力者：東奥日報社、今隆一郎、秋田雨雀記念館、弘前市立博物館、青森市教育委員会、藤崎町教育委員会、（社）現代舞踊協会、棟方志功記念館、青森県立

郷土館、青森県近代文学館、青森県県史編さんグループ

展示室 I | 成田亨：鬼と怪獣

「ウルトラ Q」、「ウルトラマン」、「ウルトラセブン」に登場するヒーロー、怪獣、宇宙人、メカニックのデザインを手がけ、その世界観を構築した成田亨。もともと美術家、彫刻家であった成田は、怪獣デザインに芸術家としての持てる力、すなわち成田が同時代の美術や西洋モダンアートから吸収した造形センスを惜しみなく怪獣デザインにつき込み、誰も目にしたことのない意外性を持つ形が次々に生み出され、今も変わらず愛され続けています。形そのものを創出する彫刻家の仕事をそこに認めることができるでしょう。

後年、成田は世界各地に残る神話、伝承上のモンスターを本格的に研究し、イラストの連作を制作しました。おそらくこの仕事をとらえて成田はモンスターの形象に宿る精神の力、物語と分かち難く結びつく形というものに気づいたのではないのでしょうか。成田にとっても、長年にわたる怪獣デザインの仕事を踏まえつつ、「怪獣とは何か」という根本的な問いを考察するきっかけとなったように思います。そして、その末にたどり着いたモチーフが日本のモンスターの象徴的存在である「鬼」でした。忌み嫌われながらも、ある時は聖性を帯びたマレビットとして崇められる鬼。善と悪、明と暗といった対概念を併せ持つ存在であり、そこに「純粹美術」と「特撮美術」の狭間で苦悩した自らの境遇を重ねあわせたのかも知れません。

今回の展示では、酒呑童子の伝説に着想を得た成田彫刻の集大成である《鬼モニュメント》（1991年）をはじめとする鬼の作品と、怪獣のデザイン原画を比較展示。

展示室 H | 追悼 浜田知明

昨年7月17日、版画家浜田知明が100歳で世を去りました。

1917年に熊本に生まれた浜田は、東京美術学校を卒業した1939年に招集を受けて戦地に赴き、終戦後、軍隊生活や戦場での体験をテーマにした銅版画を発表して大きな反響を呼び、日本を代表する銅版画家の一人としてその足跡を残しました。戦後間もない頃、浜田と青森出身の版画家関野準一郎との出会いがありました。復員後1948年に再び上京し、銅版画に取り組もうとしていた浜田が、当時、関野が高円寺の自宅で開催していた銅版画研究所を訪ねてきたのです。

浜田は、美術学校の後輩でもある駒井哲郎に問い合わせたことがきっかけで関野を紹介されてプレス機の発注について相談し、また、自身のプレス機で納得がいく摺りができないと、関野宅を訪ねて試し摺りをしたこともあったと回想しています。関野もその著書『版画を築いた人々』で、浜田は「無口で物静かな人」であったと回想し、また、やはり当時銅版画に取り組んでいた浜口陽三が浜田とともに訪ねてきたこともあったとい

います。浜田はこの頃、1951年から54年にかけて、自身の代表作となる銅版画「初年兵哀歌」シリーズを制作し、54年制作の《初年兵哀歌（歩哨）》は56年のルガノ国際版画ビエンナーレで受賞することになります。

1950年代に入り、日本の作家による版画作品が世界各地の国際展で受賞を重ね、国際的な評価を確立していきました。戦後の物不足の中、手探り状態で試行錯誤を重ねながらも、銅版画に魅せられ、その独自の表現を創造していった作家たちにとって、関野の銅版画研究所はひとつの拠り所であったと思われます。

青森県立美術館のコレクションから、関野の銅版画研究所のことなどを交え、戦後、銅版画に情熱的に取り組み、現代の銅版画の礎を築いた作家たちの作品を展示。

出品作家：浜田知明、関野準一郎、駒井哲郎、浜口陽三、長谷川潔

アグロス・アートプロジェクト 2017-18

明日の収穫

アグロス・アートプロジェクト 2018 明日の収穫〈刈入れ編〉

県立美術館の地域アートプロジェクト事業。美術館敷地内創作ヤードで米づくりやワークショップ等を体験しながら、アーティストとプロジェクト参加者が収穫物をもとに一つの作品づくりを行う。企画をとおして両者が農業と芸術の接点を考え、それをもとに新しい芸術作品のコンセプトや制作計画を立て、その計画に基づきながら収穫物を素材に共同制作を行う事業を展開した。

2017年度に実施した、青森の農業と芸術の関わりを体験するイベントや定期ミーティング、秋の稲刈り作業等をとおして制作計画を策定する「種まき編」を経て、2018年度は米づくりを田植えから刈入れまで経験するとともに、制作計画に基づき作品を制作・展示する「刈入れ編」を実施した。

また2018年度末には事業全体の流れをまとめた記録集を刊行した。

参加アーティスト

- 参加者と作品を制作するアーティスト
大小島 真木（おおこじま・まき／画家）
- 農業の場づくりに参加するアーティスト
齋藤 瑠璃子（さいとう・るりこ／画家、齋藤農園3代目）

参加者募集事業

昨年度試みることができなかった要素である田植えから企画をはじめたこともあり、今年度も参加者を募集。募集期間中は参加を検討中の方を対象に事前説明会も開催した。

募集期間：2018年3月10日（土）－5月28日（月）

説明会：2018年7月29日（土）

登録者数：15名

ワークショップ事業

大小島真木氏の10月の滞在制作を制作のピークとするべく、制作作品を構成する部材などを準備するための制作を主な目的とするワークショップ事業を実施。ワークショップの日は美術館での米の育成も並行して体験した。なお全てのワークショップについては昨年度に引き続き事前登録者以外も参加可能とし、料金無料・申込不要で参加できるものとした。

4月21日（土）

- ① 10:00 - 15:00 制作ワークショップ「植物染め、ろうけつ染めを用いた作品パーツ制作」
 - ② 13:00 - 15:00 事前説明会
- 会場：ワークショップB
参加者数：① 13名 ② 7名

5月6日（日）

- ① 10:00 - 15:00 制作ワークショップ「ろうけつ染めを用いた作品パーツ制作」
 - ② 13:00 - 15:00 事前説明会
- 会場：ワークショップB
参加者数：① 14名 ② 10名

5月26日（土）

- 10:00 - 12:00 田植え
- 会場：ワークショップB、創作ヤード



〈刈入れ編〉ポスター



田植え



農園の様子



ワークショップの様子



ワークショップ制作物の例



第一高等養護学校でのワークショップ



第一高等養護学校でのワークショップの様子2

参加者数：15名（プロジェクト参加者13名+見学者2名）

6月16日（土）

10：00 - 12：00 制作ワークショップ「ろうけつ染めを用いた作品パーツ制作」

13：00 - 15：00 パーツに施す刺しゅうについてのアイデア・ミーティング

会場：ワークショップB

参加者数：13名

7月14日（土）

10：00 - 15：00 制作ワークショップ「ろうけつ染めを用いた作品パーツ制作」

会場：ワークショップB

参加者数：13名

8月18日（土）

10：00 - 15：00 制作ワークショップ「ろうけつ染めを用いた作品パーツ制作」

会場：ワークショップB

参加者数：27名（プロジェクト参加者18名+博物館実習生9名）

9月8日（土）

10：00 - 15：00 制作ワークショップ「刺繍等を用いた作品パーツ制作」

会場：ワークショップB

参加者数：14名

9月14日（金）

13：00 - 14：30 藍のたたき染め体験

※学校での授業の一環として実施

会場：青森県立青森第一高等養護学校

参加者数：42名（生徒35名+教師7名）

10月6日（土）

① 10：00 - 12：00 稲刈り、稲干し

② 13：00 - 15：00 制作ワークショップ

③ 15：00 - 16：00 「大小島真木滞在制作：手の知恵」
事前説明会

会場：ワークショップB、創作ヤード

参加者数：①②12名 ③6名

10月15日（月） - 11月11日（日）

大小島真木滞在制作：手の知恵

・各日10：00 - 12：00、14：00 - 16：00を目途に作家とプロジェクト参加者が制作にあたる。

・10月15日（月） - 19日（金）はアーティスト不在。美術館指導の下、作品の下地制作を行う。

会場：ワークショップB

参加者数：127名（延べ）

*申込期間：9月19日（水） - 10月10日（水）

募集定員：20名程度

対象：どなたでも（小学生以下の方は保護者同伴）

11月3日（土）

13：00 - 14：30 脱穀、精米作業



稲刈り



大小島真木滞在制作の様子



脱穀



大小島真木滞在制作の様子2

会場：ワークショップB、創作ヤード

参加者数：12名

12月8日（土）

10：00 - 12：00 成果発表展示の内容についての意見交換会

会場：ワークショップB

参加者数：8名

2019年1月19日（土）

10：00 - 12：00 成果発表展示オープニングセレモニー準備
物の制作

会場：ワークショップB

参加者数：8名

記録集

総ページ数：76頁

サイズ：149×214mm

編集：奥脇嵩大（青森県立美術館学芸員）

執筆：石倉敏明（芸術人類学者）、奥脇嵩大、榎木野衣（美術
批評家）、豊島重之（演出家）、幅谷真里（東京芸術大学大学院）、
山内明美（歴史社会学者）

デザイン：大西正一

発行年：2019年3月

発行：青森県立美術館

アグロス・アートプロジェクト 2017-18 明日の収穫 〈成果発表展示〉



成果発表展示ポスター

参加アーティストの大小島真木氏がプロジェクト参加者とともに制作した成果作品としての巨大絵画を軸に、農業の場づくりに参加した齋藤瑠璃子の構成による成果作品のための空間、二年間の流れを紹介する記録、集団で制作された今回の成果作品を考える重要なルーツの一つである青森の小学生たちが制作した「子ども版画」作品などで構成した展示を美術館コミュニティギャラリーに展開。2年間の成果を、作品展示をとおして可視化することをとおして、プロジェクト参加者、アーティストと美術館が培ってきた知見や技術の立ち上がりの場を示し、その未来に向けた可能性を青森の大地に還す展覧会となった。

会期：2019年1月26日（土）－3月3日（日）
 ※休館日2月12日（火）、25日（月）
 開館時間：9：30－17：00（入館は16：30まで）
 ※1月26日のみ11：00オープン
 会場：青森県立美術館コミュニティギャラリー
 料金：無料

関連企画

オープニングセレモニー

1月26日（土）11：00－11：15
 ※プロジェクト参加者を対象に実施
 会場：コミュニティギャラリー

参加者数：10名

アーティストトーク「手の知恵」

1月26日（土）13：30－15：00

※参加者無料・申込不要

会場：コミュニティギャラリー

参加者数：32名（プロジェクト参加者15名＋一般参加者17名）

担当学芸員によるギャラリートーク

2月16日（土）14：00－15：00

※参加者無料・申込不要

会場：コミュニティギャラリー

参加者数：18名（プロジェクト参加者12名＋一般参加者6名）

事業総括

本アートプロジェクトの参加者は総じて青森市域に住み、ある程度アートへの理解があってアートを愛好してくださる方々であった。そうした方々にとって今回のプロジェクトの志向や手法は、自身の技術やアートへの関心を広げ、実践する場を提供する意味で、満足度の高い企画であったといえる。しかし自身の仕事や学業を主な理由として、途中で参加が難しくなったプロジェクト参加者などもおり、より多くの方にアート活動に参加してもらう際には、美術館という舞台に集まってもらい企画を展開させていく今回のプロジェクトの手法以上に、地域における何気ない営みの中にアートの種を見出し、生業をクリエイティブに行う後押しをする普及活動（＝「アウトリーチ活動」）を行うことがより効果的である、ということが見えてきた。今後美術館でのアートプロジェクト事業を展開させる際には、館内で進行させる部分とともに、美術館外でのアウトリーチ活動を両輪の輪の如く展開することが、地域全体におけるアートへの関心を向上させると共に、アートや美術館を愛好してくださる層の新規開拓につながる有効な手段として考えることができる。



成果発表展示「入口の様子」



成果発表展示「記録展示の様子」



成果作品〈明日の収穫〉



成果発表展示「子ども版画の展示風景」



オープニングセレモニーの様子



ギャラリートークの様子

学芸

美術資料収集

美術資料貸出状況

作品保存修復

凡例

- 1 「美術資料収集」における作品データは、作家名、作品名、制作年、寸法（高さ×縦×横、cm）、技法、収集区分の順に記した。
- 2 「美術資料貸出状況」における作品データは、作家名、作品の順に記した。

美術資料収集

平成 30 年度収集美術資料

| | | | |
|--|---|---|---|
| 岩井康頼 円環する風景—水と墓標 2000 210.0 × 534.0 パネル・卵黄テンペラ、油彩 青森県立美術館サポートシップ倶楽部より寄贈 | 岩井康頼 化粧地蔵 (6) 1977 19.0 × 19.5 紙、メゾチント | 岩井康頼 童話シリーズ 1979 29.5 × 35.5 紙、エッチング | 岩井康頼 円環する風景—水と墓標 1991 45.2 × 80.0 紙、エッチング・アクアチント |
| 岩井康頼 円環する風景—水と墓標 2002 210.0 × 534.0 パネル・卵黄テンペラ、油彩 | 岩井康頼 化粧地蔵 (7) 1978 29.2 × 19.5 紙、メゾチント | 岩井康頼 童話シリーズ 1980 32.0 × 67.4 紙、エッチング | 岩井康頼 円環する風景—古い地平線 1992 42.5 × 53.0 紙、エッチング・アクアチント |
| 岩井康頼 化粧地蔵 (a) 1977 182.0 × 227.0 キャンバス・油彩 | 岩井康頼 化粧地蔵 (8) 1987 各 7.0 × 12.0 紙、メゾチント | 岩井康頼 童話シリーズ 1988 35.3 × 69.0 紙、エッチング | 岩井康頼 円環する風景—水と墓標 1993 31.5 × 60.0 紙、エッチング・アクアチント |
| 岩井康頼 化粧地蔵 (b) 1978 130.5 × 95.0 キャンバス・油彩 | 岩井康頼 童話シリーズ 1978 20.0 × 14.8 紙、エッチング | 岩井康頼 童話シリーズ 1988 14.0 × 59.3 紙、エッチング | 岩井康頼 円環する風景—水と墓標 1993 27.5 × 43.8 紙、エッチング・アクアチント |
| 岩井康頼 化粧地蔵 (1) 1976 12.0 × 19.0 紙、メゾチント | 岩井康頼 童話シリーズ 1978 18.2 × 23.3 紙、エッチング | 岩井康頼 童話シリーズ 1990 44.8 × 38.6 紙、エッチング | 岩井康頼 円環する風景—水と墓標 1993 33.5 × 50.0 紙、エッチング・アクアチント |
| 岩井康頼 化粧地蔵 (2) 1976 35.8 × 29.0 紙、メゾチント | 岩井康頼 童話シリーズ 1978 16.0 × 19.5 紙、エッチング | 岩井康頼 童話シリーズ 1993 23.0 × 47.6 紙、エッチング | 岩井康頼 円環する風景—水と墓標 1994 45.2 × 80.0 紙、エッチング・アクアチント |
| 岩井康頼 化粧地蔵 (3) 1976 35.8 × 29.0 紙、メゾチント | 岩井康頼 童話シリーズ 1978 13.0 × 21.0 紙、エッチング | 岩井康頼 童話シリーズ 1986 29.0 × 44.5 紙、エッチング・アクアチント | 岩井康頼 円環する風景—水と墓標 1994 41.8 × 43.0 紙、エッチング・アクアチント |
| 岩井康頼 化粧地蔵 (4) 1976 19.5 × 29.2 紙、メゾチント | 岩井康頼 童話シリーズ 1978 16.4 × 29.8 紙、エッチング | 岩井康頼 童話シリーズ 1988 45.2 × 80 紙、エッチング・アクアチント | 岩井康頼 円環する風景—水と墓標 1994 41.0 × 60.0 紙、エッチング・アクアチント |
| 岩井康頼 化粧地蔵 (5) 1977 13.0 × 21.0 紙、メゾチント | 岩井康頼 童話シリーズ 1979 29.5 × 35.5 紙、エッチング | 岩井康頼 童話シリーズ 1990 42.0 × 61.5 紙、エッチング・アクアチント | 岩井康頼 円環する風景—水と墓標 1994 25.5 × 59.0 紙、エッチング・アクアチント |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 岩井康頼 円環する風景—水と墓標 1994 41.5 × 101.0 紙、エッチング・アクアチント | 橋本花 十和田 21.2 × 27.7 キャンバス・油彩 | 小館善四郎 檸檬より習作 60.5 × 45.5 キャンバス・油彩 | 小館善四郎 バラと白磁 41.0 × 27.2 キャンバス・油彩 |
| 岩井康頼 下北・尻屋岬景 2014 25.5 × 80 × 39 流木・鉄・着彩、アクリルボックス | 橋本八百二 フキノトウ 38.0 × 45.0 キャンバス・油彩 | 小館善四郎 冬の少女習作 1953 以前 53.0 × 45.5 キャンバス・油彩 | 小館善四郎 スイトビーとれもん 26.2 × 20.9 キャンバス・油彩 |
| 岩井康頼 下北・尻屋岬景 2016 26.5 × 63 × 39 流木・紙・着彩、アクリルボックス | 橋本八百二 岩手山 25.6 × 36.4 紙・水彩 | 小館善四郎 静物 1956 22.0 × 26.7 キャンバスボード・油彩 | 小館善四郎 老猿 27.2 × 22.0 キャンバス・油彩 |
| 棟方志功 庭（仮題） 1930 38.0 × 44.0 キャンバス・油彩 | 小館善四郎 月見草 72.5 × 53.0 キャンバス・油彩 | 小館善四郎 狐とれもん 1966 頃 60.5 × 90.5 キャンバス・油彩 | 小館善四郎 りんご園 46.0 × 65.1 キャンバス・油彩 |
| 阿部合成 道化 ポリショイサーカスにて 1967 34.0 × 24.0 板・油彩 | 小館善四郎 月見草 1958 33.5 × 45.5 キャンバス・油彩 | 小館善四郎 紅葉 60.5 × 73.0 キャンバス・油彩 | 小館善四郎 花 1962 33.3 × 24.3 板・油彩 |
| 橋本花 リクサンブル公園にて（パリ） 1967 24.3 × 33.4 キャンバス・油彩 | 小館善四郎 ダリヤ 1960 33.5 × 24.5 キャンバス・油彩 | 小館善四郎 らんぷ 116.5 × 80.5 キャンバス・油彩 | 小館善四郎 桃 18.0 × 14.0 板・油彩 |
| 橋本花 バラ 45.4 × 37.8 キャンバス・油彩 | 小館善四郎 少女とれもん 52.5 × 45.5 キャンバス・油彩 | 小館善四郎 読書 87.9 × 113.5 キャンバス・油彩 | 小館善四郎 雪と少女 53.0 × 64.8 キャンバス・油彩 |
| 橋本花 芍薬 1981 41.1 × 31.8 キャンバス・油彩 | 小館善四郎 梟の死 1953 頃？ 40.7 × 26.2 板・油彩 | 小館善四郎 室内 117.0 × 90.7 キャンバス・油彩 | 小館善四郎 庭の秋 1938 46.0 × 38.0 キャンバス・油彩 |
| 橋本花 富士 32.2 × 41.0 キャンバス・油彩 | 小館善四郎 花とれもん 44.0 × 44.0 キャンバス・油彩 | 小館善四郎 雪の夜 130.7 × 97.0 キャンバス・油彩 | 小館善四郎 十和田湖 37.5 × 45.5 キャンバス・油彩 |
| 橋本花 プエノスアイレス港夕陽 1962 30.2 × 39.8 キャンバス・油彩 | 小館善四郎 書架れもん 2002 61.8 × 45.5 キャンバス・油彩 | 小館善四郎 紅葉 23.9 × 22.5 紙・油彩 | 小館善四郎 溪流（奥入瀬） 38.0 × 45.5 キャンバス・油彩 |
| 橋本花 菊 1969 26.0 × 23.0 紙・水彩 色紙 | 小館善四郎 芒とれもん 2000 60.5 × 45.5 キャンバス・油彩 | 小館善四郎 紅葉 27.7 × 13.6 紙・油彩 | 小館善四郎 秋の溪流（奥入瀬） 38.0 × 45.5 キャンバス・油彩 |
| | | | 小館善四郎 書架の前 73.0 × 50.0 キャンバス・油彩 |

| | | | |
|--|--|---|---|
| 小館善四郎 レモン 27.0 × 20.0 紙・リトグラフ、手彩色 | 小館善四郎 コンサート 1956 24.4 × 33.3 板・油彩 | 根市良三 魚圖集 1933 25.0 × 17.3 紙・木版 | 高木志明 雪国の農家ーA 1977 36.0 × 52.7 紙・木版 |
| 小館善四郎 レモン 1985 32.0 × 26.0 紙・リトグラフ | 小館善四郎 黒猫 18.5 × 14.3 板・油彩 | 根市良三 花雨集 1940 21.7 × 15.2 紙・木版 | 杉本幸一郎 小館善四郎像 1934 47.5 × 18.5 × 21.5 ブロンズ |
| 小館善四郎 はまなす 15.8 × 22.8 キャンバス・油彩 | 小館善四郎 菊 1956 30.2 × 29.9 板・油彩 | 阿部合成 サーカスの女 33.0 × 23.8 板・油彩 | ワルワラ・ブブノワ 明暗 1943 24.6 × 33.4 紙・リトグラフ |
| 小館善四郎 少女 52.5 × 45.5 キャンバス・油彩 | 小館善四郎 コップと苺 24.0 × 19.0 キャンバス・油彩 | 尾崎ふさ アネモネ 33.2 × 24.1 キャンバス・油彩 | 原精一 座する裸婦 50.5 × 38.7 紙・リトグラフ |
| 小館善四郎 室内 53.5 × 45.5 キャンバス・油彩 | 小館善四郎 レモン 6.5 × 6.5 紙・銅版 | 松木満史 写生 1959 28.0 × 21.8 キャンバス・油彩 | 岸田劉生 童女と菊花 1920 31.8 × 43.8 紙・木版 |
| 小館善四郎 裸婦習作 53.5 × 45.5 キャンバス・油彩 | 小館善四郎 レモン 8.0 × 9.0 紙・リトグラフ、手彩色 | 棟方寅雄 リュクサンブール公園 24.3 × 27.3 紙(色紙)・墨 | 本田克己 詩人 33.2 × 24.3 キャンバス・油彩 |
| 小館善四郎 裸婦習作 61.0 × 41.2 キャンバス・油彩 | 小館善四郎 椿 12.0 × 14.3 キャンバス・油彩 | 渡辺貞一 十和田の秋 1955 16.6 × 21.2 キャンバスボード・油彩 | 生田宏司 三羽の子鳥 1996 16.3 × 35.7 紙・メゾチント |
| 小館善四郎 少女 41.3 × 32.0 紙・油彩 | 小館善四郎 桃 12.0 × 8.9 キャンバス・油彩 | 渡辺貞一 冬空 1947 21.8 × 23.5 板・油彩 | 生田宏司 さくらんぼとグラス 1994 19.5 × 11.8 紙・メゾチント |
| 小館善四郎 枇杷 27.5 × 22.0 キャンバス・油彩 | 小館善四郎 むくげの花 直径 9.3 ガラス絵 | 渡辺貞一 尻屋燈臺 C 1948 21.5 × 23.6 板・油彩 | 斎藤真一 二つの石段 1992 16.7 × 12.8 板・油彩 |
| 小館善四郎 夫人像 27.5 × 22.0 キャンバス・油彩 | 小館善四郎 レモン 10.0 × 7.7 ガラス絵 | 渡辺貞一 或る風景 20.0 × 26.2 紙・油彩 | 佐田勝 大雪山緑沼 22.8 × 15.8 板・油彩 |
| 小館善四郎 女性像 15.8 × 22.7 キャンバス・油彩 | 小館善四郎関連資料 写真「小館善四郎と太宰治」4点 紙・ゼラチンシルバープリント | 渡辺貞一 裸婦 20.3 × 11.5 紙・油彩、鉛筆 | 平井菊園 婦人立像 74.2 × 48.7 ガラス絵 |
| 小館善四郎 薊 14.0 × 18.0 キャンバス・油彩 | 根市良三 汽船とヨット 13.7 × 19.6 紙・木版 | 下澤木録郎 花卉十二ヶ月 各 18.0 × 13.7 紙・木版 | 木村弦三コレクション |

作者不詳
風俗図
39.5 × 59.5
ガラス絵
木村弦三コレクション

作者不詳
三味線を弾く布袋様
30.0 × 39.8
ガラス絵
木村弦三コレクション

作者不詳
花魁図
39.0 × 27.8
ガラス絵
木村弦三コレクション

作者不詳
婦人図
29.2 × 24.3
ガラス絵
木村弦三コレクション

作者不詳
風景図
75.5 × 7.8
ガラス絵
木村弦三コレクション

作者不詳
草木図
75.5 × 7.8
ガラス絵
木村弦三コレクション

作者不詳
風景図
60.4 × 9.2
ガラス絵
木村弦三コレクション

美術資料貸出状況

めがねと旅する美術展

貸出先

- ・島根県立岩見美術館
- ・静岡県立美術館

展示施設（会期）

- ・島根県立岩見美術館
(2018/9/16 - 11/12)
- ・静岡県立美術館
(2018/11/23 - 19/1/27)

貸出点数：11

作品名

- ・松江泰治「JP-02 01」
- ・松江泰治「JP-02 02」
- ・松江泰治「JP-02 03」
- ・松江泰治「JP-02 04」
- ・棟方志功「屋根裏の散歩者」挿絵
(《幻想板画冊》より)
- ・棟方志功「挿絵と旅する男」挿絵
(《幻想板画冊》より)
- ・棟方志功「人間椅子」挿絵
(《幻想板画冊》より)
- ・棟方志功「鍵」
- ・高松次郎「遠近法の箱」
- ・高松次郎「遠近法のベンチ」
- ・高松次郎「影」

特別展「人間国宝 近藤悠三」

貸出先

- ・福井県陶芸館

展示施設（会期）

- ・福井県陶芸館
(2018/10/6 - 12/2)

貸出点数：57

作品名

- ・近藤悠三「山染附花瓶（浅間噴煙）」
- ・近藤悠三「薊染附花瓶」
- ・近藤悠三「赤地金彩花瓶」
- ・近藤悠三「三葉絵呉須花瓶」
- ・近藤悠三「花瓶 雲悠々去来」
- ・近藤悠三「山噴煙染附金彩壺」
- ・近藤悠三「山染附金彩壺」
- ・近藤悠三「柘榴釉裏紅壺」
- ・近藤悠三「柘榴染附壺」
- ・近藤悠三「松染附花瓶」
- ・近藤悠三「山水染附壺」
- ・近藤悠三「山軸裏紅壺（四国屋島五剣山）」
- ・近藤悠三「葡萄架染附壺」
- ・近藤悠三「竹の子染附面取壺」
- ・近藤悠三「梅染附面取壺」
- ・近藤悠三「梅染附金彩壺」
- ・近藤悠三「壺焼きしめ（ヘルシャ）」
- ・近藤悠三「葡萄染附金彩壺」
- ・近藤悠三「富士軸裏紅壺」
- ・近藤悠三「富士金彩染附赤絵壺」
- ・近藤悠三「山染附金彩香炉」

- ・近藤悠三「三友染附香炉」
- ・近藤悠三「柳白盛給袖外瑠璃皿」

- ・近藤悠三「三友染附皿」
- ・近藤悠三「柘榴染附皿」
- ・近藤悠三「山噴煙染附角皿」
- ・近藤悠三「山染附金彩角皿」
- ・近藤悠三「柘榴染附金彩皿」
- ・近藤悠三「ぶどう染附大皿」
- ・近藤悠三「梅染附金彩大皿」
- ・近藤悠三「鉢（ヘルシャ）」
- ・近藤悠三「山海染附面取大鉢」
- ・近藤悠三「柘榴金彩瓢瓶」
- ・近藤悠三「梅呉須赤金彩瓢瓶」
- ・近藤悠三「梅染附金彩瓢瓶」
- ・近藤悠三「梅赤地金彩瓢瓶」
- ・近藤悠三「松染附瓢瓶」
- ・近藤悠三「山染附水指」
- ・近藤悠三「土瓶」
- ・近藤悠三「油滴天目茶碗 銘 沙」
- ・近藤悠三「天目茶碗 銘 玄測」
- ・近藤悠三「茶碗 雪笹呉須」
- ・近藤悠三「薊金彩湯呑」
- ・近藤悠三「清風金彩湯呑」
- ・近藤悠三「山金彩湯呑」
- ・近藤悠三「柘榴金彩湯呑」
- ・近藤悠三「笹呉須赤絵盃」
- ・近藤悠三「松染附盃」
- ・近藤悠三「竹金彩盃」
- ・近藤悠三「盃 五趣（五客組）柳呉須赤絵金彩」
- ・近藤悠三「盃 五趣（五客組）柘榴呉須赤絵金彩」
- ・近藤悠三「盃 五趣（五客組）梅赤地金彩」
- ・近藤悠三「盃 五趣（五客組）山染附」
- ・近藤悠三「盃 五趣（五客組）清風染附」
- ・近藤悠三「呉須煎茶碗 六客」
- ・近藤悠三「梅・竹・山・柘榴・葡萄染附丸中皿 五枚」
- ・近藤悠三「竹呉須赤絵角皿 五枚」

国画会 90年 孤高の画家 渡辺貞一展

貸出先

- ・美術館「えき」KYOTO

展示施設（会期）

- ・美術館「えき」KYOTO
(2018/10/13 - 11/11)

貸出点数：2

作品名

- ・渡辺貞一「日蝕」
- ・渡辺貞一「やどり木」

子どものための建築と空間展

貸出先

- ・パナソニック汐留ミュージアム

展示施設（会期）

- ・パナソニック汐留ミュージアム
(2019/1/12 - 3/24)

貸出点数：15

作品名

- ・小島一郎「弘前市 桜庭」
- ・小島一郎「津軽地方」
- ・小島一郎「津軽地方南部」
- ・小島一郎「津軽の子」
- ・小島一郎「津軽地方南部」
- ・小島一郎「ままごと」
- ・成田 亨「ビートル2号試作」
- ・成田 亨「ギャング」
- ・成田 亨「ゴモラ決定稿」
- ・成田 亨「ウルトラマンイラスト」
- ・成田 亨「ゼットンイラスト」
- ・成田 亨「ゾフィーイラスト」
- ・成田 亨「ウルトラセブン決定稿B案」
- ・成田 亨「メトロン星人」
- ・成田 亨「タンクボール」

「日本美術に見る動物の姿」展

貸出先

- ・国際交流基金

展示施設（会期）

- ・ナショナル・ギャラリー・オブ・アート
(ワシントン)
(19/6/2 - 8/18)

貸出点数：1

作品名

- ・奈良美智「続いてゆく道に」

※貸出は2019年2月

作品保存修復

保存管理

展示・保管している美術資料の公開と保存を両立させるため、温湿度等の空調や照度の調整、粉塵・有害ガス・虫菌害等の定期的な環境調査の実施などにより展示・収蔵環境を管理している。また、日常的な点検に基づき、必要に応じて収蔵作品等のマット装や表装・額装の改善、保存箱の作成、専門家による調査・保存処置等を行った。さらに、基本データの整理、写真撮影による画像データの記録をおこなった。

教育普及

普及プログラム

スクールプログラム

サポートスタッフ

普及プログラム

1 こどもアトリエ

小学生以下を対象にワークショップの部屋を開放し、画材、粘土などを自由に使って作品制作をする場を提供した。家や学校では余り使うことのない画材を使用できること、また、画材での汚れ等を気にせずに自由に創作ができることを特徴として掲げて実施したが、自由制作が難しいこどもも想定し、当館の収蔵作家（青森県にゆかりのある作家）についての知識の普及も兼ねて、各回、当館の収蔵作家にちなんだテーマも用意した。

日時：5月12日（土）、7月28日（土）、8月11日（土・祝）、9月22日（土）、11月24日（土）

各日 10:00 - 15:00

場所：青森県立美術館 ワークショップB

各回テーマ：5/12 「11ぴきのねこ」スタンプを使った作品づくり

7/28 裏彩色体験

8/11 むげん木版、プラ板版画、裏彩色体験

9/22 コラグラフ（版画制作）、裏彩色体験

11/24 「Miss Forest/ 森の子」をつくろう（紙粘土制作）

参加者数：5/12 20人、7/28 120人、8/11 100人、9/22 51人、11/24 48人



7月28日 こどもアトリエ

2 「じぶん鑑賞」のすすめ

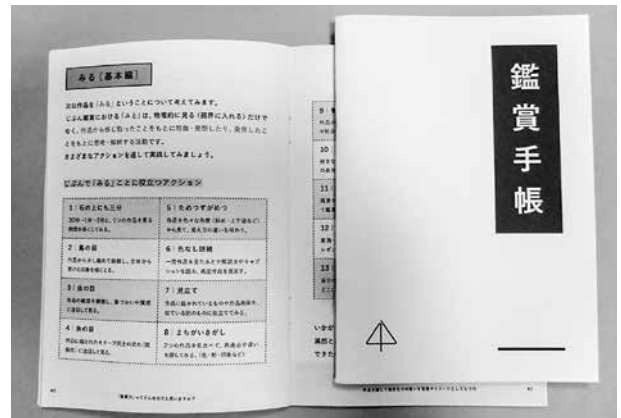
(1) 鑑賞手帳配布

アート鑑賞を深めるポイントや実践的な鑑賞術を学び、鑑賞者自身の「みる力」を培うこと、学術的な作品解釈に依存しない自分なりの作品解釈・考察等により鑑賞者の「みる」という行為を深めることを目的としたプログラムとして、鑑賞の楽しみ方や鑑賞術の紹介といったガイドブック機能と展覧会の感想を書き込めるノート機能を持った手帳「鑑賞手帳」をコレクション

展覧者を対象に配布した。

配布期間：2018年第Ⅱ期～第Ⅳ期コレクション展会期中

配布部数：1,000部



鑑賞手帳

(2) 講演会「アート鑑賞入門+α-『みる』のその先へ」

鑑賞手帳の制作にも協力したアート鑑賞ナビゲーターの藤田令伊氏が、展覧会やアート鑑賞を楽しむコツなど、アート鑑賞を実り多いものにする手法について、基本編から応用編まで紹介した。

日時：10月27日（土）13:00 - 14:30

場所：青森県立美術館 シアター

講師：藤田令伊（合同会社プラスリラックス代表、大正大学文学部 非常勤講師）

参加者数：45人



講演会「アート鑑賞入門+α-『みる』のその先へ」

(3) 鑑賞ワークショップ

エドゥケーターのご案内により、鑑賞手帳や講演会で紹介された手法を、コレクション展の展示作品の鑑賞で実践した。

日時：10月27日（土）15:00 - 16:10

場所：青森県立美術館 常設展示室内
 講師（エドゥケーター）：教育普及スタッフ
 参加者数：16人



鑑賞ワークショップ

3 展覧会関連プログラム

(1) シャガール「三次元の世界」展関連

①記念講演会「シャガールと三次元の世界との出会い 一劇場の仕事を通じて」

マルク・シャガールの孫で長年シャガール作品の研究に携わってきた美術史家のベラ・メイヤー氏が、劇場の仕事を中心に、シャガールの三次元的空間への関心について講演を行った。

日時：3月10日（日）14:00 - 15:30

場所：青森県立美術館 シアター

講師：ベラ・メイヤー（美術史家、「フルール・ベラ」オーナー）

参加者数：138人



記念講演会「シャガールと三次元の世界との出会い 一劇場の仕事を通じて」

②開館前！親子ギャラリーツアー

ワークシートを活用し、親子での会話を楽しみながら、展示作品を鑑賞するツアーを実施した。

日時：4月14日（土）、28日（土）、5月5日（土・祝）

各日 9:00 - （約40分間）

場所：青森県立美術館 展示室

講師：教育普及スタッフ

参加者数：4/14 10人、4/28 16人、5/5 5人 計31人



開館前！親子ギャラリーツアー

③閉館後！ゆったりじっくり鑑賞ツアー

閉館後の展示室で担当学芸員の解説を聞きながら、ゆったり、じっくりと展覧会を鑑賞するツアーを実施した。

日時：3月21日（水・祝）、4月14日（土）、28日（土）

各日 17:00 - （約1時間）

場所：青森県立美術館 展示室

講師：高橋しげみ

参加者数：3/21 15人、4/14 16人、4/28 14人
 計45人



閉館後！ゆったりじっくり鑑賞ツアー

(2) 絵画の絆「フランスと日本」展関連

①記念講演会 第1回「ひろしま美術館コレクションについて」
 ひろしま美術館学芸部長の古谷氏が、同館のコレクションと西洋近代美術の関係について講演を行った。



記念講演会 第1回「ひろしま美術館コレクションについて」

日時：5月19日（土）14:00 - 15:30

場所：青森県立美術館 シアター

講師：古谷可由（ひろしま美術館学芸部長）

参加者数：58人

②記念講演会 第2回「日本とフランス：美意識の東西」

美術史家で大原美術館長の高階秀爾氏が、同館コレクション作品の解説等を交えながら日本とフランスの絵画をつなぐ美意識について講演を行った。

日時：6月9日（土）14:00 - 15:30

場所：青森県立美術館 シアター

講師：高階秀爾（美術史家、大原美術館長）

参加者数：208人



記念講演会 第2回「日本とフランス：美意識の東西」

③学芸員ギャラリートーク

日時：5月26日（土）、7月1日（日）

各日 14:00 - （30分程度）

場所：青森県立美術館 企画展示室

講師：奥脇嵩大

参加者数：5/26 30人、7/1 30人

(3)「めがねと旅する美術」展関連

①トリメガ研究所トークショー

「ロボットと美術」展（2010年）、「美少女の美術史」展（2014年）に続き、本展の企画を担当した「トリメガ研究所」の3名の研究員が「めがねと旅する美術展」のコンセプトや展示作品、



トリメガ研究所トークショー

そして企画から準備の間の苦労話（裏話）などについてトークショーを行った。

日時：7月21日（土）13:30 - 15:00

場所：青森県立美術館 B2F 休憩スペース

出演：川西由里（島根県立石見美術館専門学芸員／研究員番号）、村上敬（静岡県立美術館上席学芸員／研究員番号）、工藤健志（青森県立美術館総括学芸主幹／研究員番号）

参加者数：15人

②JAXA ミニトーク

JAXAの度會英教氏が、JAXAで撮影した映像や画像を体験できる「めぐりあいJAXA」の展示等についてミニトークを行った。

日時：7月21日（土）16:00 - 16:30

場所：青森県立美術館 企画展示室

講師：度會英教（国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構）、澤隆志（キュレーター）

参加者数：30人



JAXA ミニトーク

③学芸員ギャラリートーク

日時：7月29日（日）、8月5日（日）、11日（土・祝）、12日（日）、19日（日）、9月2日（日）

各日 14:00 - 15:00

場所：青森県立美術館 企画展示室

講師：工藤健志

参加者数：7/29 25人、8/5 16人、8/11 16人、8/12 12人、8/19 25人、9/2 30人



学芸員ギャラリートーク

④めがねと旅する美術展×飛内源一郎「回転のぞき絵をつくろう」

「見る」ことをテーマにした企画展「めがねと旅する美術展」の関連企画として、アニメーションや映画の原理を学べる「回転のぞき絵」を制作するワークショップを開催した。

日時：8月18日（土）15:00 - 16:00

場所：青森県立美術館 ワークショップA

講師：飛内源一郎

参加者数：18人



めがねと旅する美術展×飛内源一郎「回転のぞき絵をつくろう」



夏のキッズフェア2018 出展

(2) 依頼等によるワークショップ等の実施
青森県・済州道子どもの美術交流プログラム
(県観光局誘客交流課依頼)

誘客交流課が実施する標記事業において、済州道から本県を訪れた子ども達と本県の子どものみ達が当館を訪問し、県立美術館のオリジナルツアーやおもり犬をテーマにした創作ワークショップ等を実施した。

日時：7月23日（月）10:00 - 17:00

場所：青森県立美術館 ワークショップB、常設展示室

講師：教育普及スタッフ

参加人数：21人



青森県・済州道子どもの美術交流 オリジナルツアー

4 その他

(1) 他機関主催イベント等への出展

夏のキッズフェア2018 出展

絵具のなかでも発色の良い透明色をつかって「色のうつくしさに気がつくような創作体験を行った。

出展タイトル：いろいろみず

内容：①染料系インクを使用してオリジナルの色水を作り窓や外につるして展示する。

②湿らせた紙にインクを垂らし、滲みを利用して画面をつくる。

日時：7月1日（日）10:00 - 15:00

※ 12:00 - 13:00 は昼休憩

場所：青森県総合社会教育センター

講師：教育普及スタッフ

参加者数：① 250人、② 190人 延べ計 440人



夏のキッズフェア2018 出展



青森県・済州道子どもの美術交流 ワークショップ

スクールプログラム

概要

未来の青森県を担う感性豊かな人材を育成するためには、多くの子どもたちに対して、優れた美術作品に出会い本物が持つ素晴らしさを体験し、ふるさと青森の芸術文化や先人を学ぶ機会を提供することで、郷土に対する誇りが持てる鑑賞指導を行うことが極めて重要である。

このため、子どもたちが居住地域や家庭環境の違いの影響を受けずに、級友と語り合いながら発達段階に応じた深さで等しく学ぶ機会を提供する学校教育の場を活用して、児童・生徒、教育関係者を対象に、鑑賞指導、研修会等の多様な事業を行うスクールプログラムを実施した。

学校団体の来館受入れ

多くの子どもたちが優れた美術作品に接し、豊かな感性や能力を伸ばす機会として、学校団体の来館を積極的に受け入れている。特に、作品を見て子どもたちが感じたことや考えたことを大切に、言葉で伝え合うことを通して、主体的に鑑賞する能力を育むことを重視した対話型鑑賞に力を入れている。

メニュー：

鑑賞プログラム（対話型鑑賞コース、自由鑑賞コース）、オリジナルプログラム（学校連携プログラム）



対話型鑑賞

出前講座

学校の要望等に応じ、学校での出前形式による講座（創作体験や職業講話等）を実施することがある。

実績：3校 185人

9月14日（金）青森第一高等養護学校 35名
（創作（※アグロス・アートプロジェクト関係））

9月20日（木）五所川原市立東峰小学校 117名
（創作、アートカード）

11月27日（火）尾上総合高等学校 33名
（職業講話）（全校から任意）



出前講座

| 月 | 学校団体 | | 団体数 | | | | | 計 |
|-----|-------------|-------------|-----|----|---|----|----|---|
| | 展覧会毎 | | 小 | 中 | 高 | 特 | | |
| | 常設展 (人数) | 企画展 (人数) | | | | | | |
| 4月 | 251 | 176 | 4 | 1 | 0 | 0 | 5 | |
| 5月 | 730 | 287 | 6 | 3 | 1 | 0 | 10 | |
| 6月 | 1248 | 595 | 15 | 2 | 3 | 4 | 24 | |
| 7月 | 221 | 96 | 2 | 3 | 1 | 4 | 10 | |
| 8月 | 168 | 177 | 0 | 2 | 0 | 0 | 2 | |
| 9月 | 192 | 0 | 2 | 2 | 1 | 0 | 5 | |
| 10月 | 314 | 0 | 1 | 1 | 2 | 0 | 4 | |
| 11月 | 211 | 22 | 3 | 0 | 0 | 2 | 5 | |
| 12月 | 40 | 0 | 1 | 0 | 0 | 2 | 3 | |
| 1月 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | |
| 2月 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | |
| 3月 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | |
| 合計 | 3,375 | 1,353 | 34 | 14 | 8 | 12 | 68 | |
| | | | 68 | | | | | |

職場体験

美術館の教育普及活動、学校連携、キャリア教育推進等の観点から、各学校の要望を踏まえながら、中学校・高等学校等からの職場体験、見学等を受け入れ、美術館の公共施設・観光施設としての役割や仕事の体験を通じて学ぶ機会を提供した。

受入実績：10校 延べ131人

アートカード

図工・美術の授業及びクラブ活動などの学校教育活動で気軽に使用できる鑑賞教材として、棟方志功、奈良美智、鷹山宇一、豊島弘尚等、本県ゆかりの作家の作品や三内丸山遺跡出土遺物などを50点にまとめた「アートカード」を制作し、平成19年度から県内9施設において学校への貸出しを行っている。

貸出実績：0件

貸出施設一覧

| 施設・機関名 |
|-----------------------------------|
| 青森県立美術館 |
| 青森県総合学校教育センター |
| 青森市教育研修センター |
| つがる市生涯学習交流センター「松の館」(つがる市教育委員会指導課) |
| 五所川原市立図書館 |
| 弘前市教育センター |
| 十和田市現代美術館 |
| むつ市立図書館 |
| 八戸市美術館(新美術館建設推進室) |

教員研修

美術館と連携した鑑賞教育について教員の理解を深めるため、当館のコレクションや鑑賞指導法(アートカードの活用、ギャラリートーク演習等)などをテーマに、県総合学校教育センター、市町村教育委員会図工及び美術等教科研究会との連携講座を実施した。

| 主催 | 月日 | 曜日 | 研修講座の名称 | 会場 | 人数 | 日数 |
|--------------|-------|----|---|-------|----|----|
| 教育委員会 市町村 | 8月2日 | 木 | 青森県総合学校教育センター 初任者研修(小・中学校)教職一般 研修講座 | 県立美術館 | 58 | 1 |
| | 9月4日 | 火 | 青森県総合学校教育センター 図画工作・美術科教育講座〔鑑賞〕 | | 15 | 1 |
| 教育研究団体等 | 9月28日 | 金 | 青森市中学校教育研究会 教科別全日集会 | | 14 | 1 |
| | 1月8日 | 火 | 青森市小学校教育研究会 図工部会 | | 36 | 1 |
| | 1月17日 | 木 | 西北美術教育研究会 小学部 (西北美術展) | | 6 | 1 |
| | | | 計 | 129 | 5 | |

鑑賞サポーターの育成

学校団体鑑賞ツアーで来館した児童・生徒の鑑賞指導にあたる鑑賞サポーター(平成22年度までの「ファシリテーター」を呼称変更。)を配置・養成し、多くの学校団体の受入・指導を行った。
平成30年度3月末現在：20人



鑑賞サポーター研修

サポートスタッフ

概要

青森県立美術館では、県民が美術館の活動に積極的に参加できるよう常に工夫し、「県民とともに活動する」ことを目指している。その取り組みの一つとして、美術館の様々な事業等の運営に参加、協力するボランティアを「サポートスタッフ」として募集し、各種イベント運営や、管理事務の補助、環境安全整備等、幅広いボランティア活動の展開を図っている。

募集・登録

募集期間：2月1日（木）－3月16日（金）

募集人数：50人程度

応募条件：

- ・満18歳以上（2018年4月1日現在）。未成年は保護者の承諾が必要。
- ・美術館活動に関心があり、積極的に学び活動する意欲のあること。
- ・美術館に通勤可能なこと。

登録者数：79人（30年度末現在）

※このうち県美コンシェルジュ活動希望者34人

活動内容

1 研修

第1回研修会 4月14日（土）10:00 - 16:00

内容：平成30年度事業実施概要及び平成30年度活動内容説明
美術館の概要説明
コンシェルジュとは
（コンシェルジュ活動希望者のみ対象）



サポートスタッフ 第2回研修会

第2回研修会 10月30日（火）13:30 - 15:00

10月31日（水）10:00 - 11:30

※参加者はいずれか都合のよい回次に出席

内容：コレクション展第Ⅳ期について（講義、鑑賞）
意見交換

2 サポート活動

(1) 学芸（企画展関連イベント運営補助、サポートシップ倶楽部共催展覧会運営補助）

活動日数：12日

参加人数：42人

(2) 教育普及（スクールプログラム、ワークショップの運営補助、自主企画イベント等）

活動日数：21日

参加人数：126人

(3) 舞台芸術（演劇部公演、定期演奏会の運営補助等）

活動日数：22日

参加人数：161人

(4) 運営管理（資料整理、アンケート調査等）

活動日数：18日

参加人数：176人

(5) 環境安全整備（県立美術館・三内丸山遺跡周辺の草刈等）

活動日数：32日

参加人数：495人

(6) 県美コンシェルジュ活動

活動日数：84日

参加人数：164人

対応客数：11,037人

(7) サポートスタッフ自主企画イベントの実施 - Our place
～アートで繋がるコミュニティ～

アート活動を行っているサポートスタッフの作品展示や、展示作品に関連したおりがみ・スタンプあそび、クリスマスカードづくりなどのワークショップ、コンサートも行う自主企画イベントを開催した。

期日：2018年12月15日（土）－24日（月・祝）

各日 10:00 - 16:00

場所：コミュニティギャラリー A,B,C

内容：おりがみ・スタンプあそび（12/15, 16）

Coloring picture（巨大塗り絵）（12/15）

ワークショップ「技法をつかって絵を描こう」（12/16）

絵本の読み聞かせ（12/16, 23, 24）

クリスマスコンサート（12/22）

クリスマスカードづくり (12/23)

ワークショップ「みんなでツリーの飾りをつくって飾ろう」(12/23, 24)

ワークショップ「羊毛フェルトでリースづくり」(12/23, 24)

ワークショップ「布や木でつくる小さなツリー」(12/24)

期間来場者数：529 人



Our place 会場全景



Our place クリスマスコンサート



Our place 「布や木でつくる小さなツリー」

パフォーミングアーツ

演劇

ダンス

音楽

映画

演劇

演劇人育成による青森の文学の魅力発信事業

1 事業概要

青森県立美術館では、2006年の開館時に掲げたミッション「青森県の芸術風土を世界に向けて発信する」「優れた芸術を体感できる」「子どもの感性と創造力を育む」「県民とともに活動する」を果すため事業を展開している。とりわけ舞台芸術部門においては、既成の美術館の枠組みにとらわれない活動を続け、演劇・音楽・ダンス・映画の各分野において特色ある公演を実施しており、これまで、「津軽」、「戯曲寺山修司論」、「MIYAZAWA」等、県民と青森県立美術館がともに作り上げる演劇、県民参加型演劇を制作してきた。

平成30年度は、平成29年度に創設した青森県立美術館演劇部に対するワークショップを実施することにより、引き続き文学の魅力伝える人材を育成し、その成果発表として、太宰治の戯曲「冬の花火」「春の枯葉」を原作としたオリジナル演劇公演「津軽の旦暮」を開催した。

2 基礎ワークショップ

演劇の基礎を学ぶ全8回のワークショップを実施

日程：

- ・4月14日（土）基礎ワークショップ①
- ・4月21日（土）基礎ワークショップ②
- ・5月6日（日）基礎ワークショップ③
- ・5月12日（土）基礎ワークショップ④
- ・5月27日（日）基礎ワークショップ⑤
- ・11月11日（日）基礎ワークショップ⑥
- ・11月17日（土）基礎ワークショップ⑦
- ・11月25日（日）基礎ワークショップ⑧

講師：長谷川孝治（青森県立美術館舞台芸術総監督）

参加者延べ人数：122人

3 青森県立美術館演劇部公演

(1) 公演概要

公演名：青森県立美術館演劇部公演「津軽の旦暮」

～太宰治の戯曲「冬の花火」「春の枯葉」より～

原作：太宰治「冬の花火」、「春の枯葉」

脚本・演出・音楽：斎藤歩（北海道演劇財団芸術監督）

日時：2018年7月20日（金）19:00開演

7月21日（土）15:00開演

公演時間：65分

会場：青森県立美術館シアター（席数：150席）

観客動員：251人

（内訳）7月20日（金）112人 ※招待32名

7月21日（土）139人 ※招待47名

入場料：前売一般2,500円

前売学生・60歳以上1,500円

ペア4,000円（前売りのみ）

※当日は全て500円増し

出演：石岡博之、石上寧子、後藤和恵、後藤天琉、佐々木樹姫、秀圓、白鳥真生、對馬千紘、奈良和貴、平井正樹、平田彩乃、三浦雪絵、三上由美子、盛桜華、有紀、幸田野花
※部内オーディションにより選抜された者のみ出演。

スタッフ：

舞台監督／野村眞仁

舞台制作／鈴木徳人、本多大公

音響プラン／工藤敢司、寺山紀幸

照明プラン／佐藤牧人

オペレーター／佐藤礼治、福士紗雪

小道具／小野寺圭子、小林早智子、佐々木優、

運営補助／相馬義則

主催：青森県立美術館パフォーミングアーツ推進実行委員会、青森県立美術館

共催：公益財団法人 北海道演劇財団

助成：一般財団法人 地域創造

監修：長谷川孝治（青森県立美術館舞台芸術総監督）

(2) 広報宣伝、営業概要

宣材物作成枚数：

・チラシ（A4版／カラー・白黒）70,000枚

・ポスター（B2版／カラー）100枚

広報：5月下旬から宣材物配布開始

・出演者へのチケット先行販売を実施。

・県内中学校・高等学校の対象生徒へチラシを配布。

・県内の大学・文化施設・商店街等を中心に広報物を配布し掲示を依頼。

・パフォーミングアーツ推進実行委員会顧客へのダイレクトメールの送付。

・青森市内の町内会へチラシを回覧。

・県内JR駅構内の有料広告スペースにポスターを掲示。

・県内市町村広報紙への情報掲載。

・報道機関各社へワークショップ及び公演の様態取材依頼。

・美術館ホームページ、Facebook・twitterに公演告知。

・シアター前にて「太宰治生誕100年特別展」（近代文学館

2010年開催) パネルの展示。

(3) チケット販売／小・中・高校生無料招待

・チケット販売プレイガイド

全 国：ローソンチケット

青森市：成田本店しんまち店

青森県立美術館ミュージアムショップ

弘前市：ヒロロ

弘前市まちなか情報センター

八戸市：ラビア

五所川原市：ELM インフォメーション

・事務局予約：

電話、FAX、Eメールいずれかの方法により、前売チケットの事務局予約を受け付けた。

また、小・中・高校生は各公演先着 60 名まで無料招待を行った。

(4) 稽古

日程：

- ・6月17日(日) 部内オーディション
- ・6月24日(日) 「津軽の旦暮」稽古①
- ・7月1日(日) 「津軽の旦暮」稽古②
- ・7月7日(土) 「津軽の旦暮」稽古③
- ・7月8日(日) 「津軽の旦暮」稽古④
- ・7月9日(月) 「津軽の旦暮」稽古⑤
- ・7月10日(火) 「津軽の旦暮」稽古⑥
- ・7月12日(木) 「津軽の旦暮」稽古⑦
- ・7月13日(金) 「津軽の旦暮」稽古⑧
- ・7月14日(土) 「津軽の旦暮」稽古⑨
- ・7月16日(月) 「津軽の旦暮」稽古⑩
- ・7月17日(火) 「津軽の旦暮」稽古⑪
- ・7月18日(水) 「津軽の旦暮」稽古⑫
- ・7月19日(木) 「津軽の旦暮」リハーサル
- ・7月20日(金) 「津軽の旦暮」本番①
- ・7月21日(土) 「津軽の旦暮」本番②

参加者延べ人数：285人



オーディション



公演



公演開催チラシ (オモチ)



基礎ワークショップ



公演開催チラシ (ウラ)

青森県立美術館 ドラマリーディングクラブ事業

1 ドラマリーディングクラブ

県立美術館に県民が積極的に参加できる環境を舞台芸術企画部門からアプローチする。

「青森県立美術館ドラマリーディングクラブ」は、経験や技術の枠にとらわれない幅広い年齢層の県内在住者を参加対象に、オリジナルの戯曲や詩・小説、その他の文章を用いた朗読形式による公演を実施している。

例年、定期公演や県内小中高等学校での出前公演を開催しているが、美術館主催による各舞台芸術企画公演へのスタッフ参加や出演等の協力も行っている。

設立：

平成 21 年度

参加条件：

- ・青森県立美術館での稽古に参加できること
- ・年齢・経験不問（未成年者は保護者の同意が必要）
- ・年間に最低 1 公演には参加できる
- ・交通費や食費等など、活動に際して個人に係るものは全て自己負担

活動場所：

青森県立美術館施設内を基本とする。

募集期間：

募集定員に達するまで随時募集

定員：

50 名（欠員が出た場合は補充）

参加料：

無料（交通費・食費等の個人に係るものは全て自己負担となる）

選考方法：

書類選考とし、書類受理後に随時面談を行う。

稽古内容・日程：

- ・青森県立美術館パフォーミングアーツ専門スタッフの指導のもと、オリジナルの戯曲や既成の詩・小説、その他の文章を使い、空間を意識しつつ朗読する。
- ・定期公演に向けた稽古を実施する。
- ・青森県立美術館企画サポート公演に向けた稽古を実施する。
- ・その他公演に向けた稽古を実施する。

2 定期公演

(1) 公演概要

青森県立美術館ドラマリーディングクラブ公演

「畜犬談・その他の言葉」

日時：2018 年 6 月 2 日（土）15:00 開演

（14:30 開場・受付開始）

会場：青森県立美術館シアター

席数：180 席（自由席）



公演

構成・演出：長谷川孝治（青森県立美術館舞台芸術総監督）

照明：野村眞仁

映像：齋藤耕平

出演者：金恵美子、須藤哲也、會津悦子、小野寺圭子、福田寿枝、小林早智子、菊地泰子、平井正樹、今ゆき子、白鳥真生、平田彩乃

観客動員：125 名 ※うち招待 38 名

主催：青森県立美術館パフォーミングアーツ推進実行委員会、青森県立美術館

(2) 広報宣伝、営業概要

宣材物作成枚数：

・チラシ：(A4 版/カラー) 10,000 枚

・ポスター：(B2 版/カラー) 100 枚

広報：(2018 年 4 月下旬から宣材物配布開始)

- ・県内 PA 顧客へダイレクトメールの送付。
- ・県内新聞各社・情報誌において公演告知。
- ・県内高等学校・大学、図書館、文化施設等を中心に宣材物を配布し、掲示を依頼。
- ・美術館ホームページ、Facebook に公演告知。
- ・県内読み聞かせ団体へ公演告知。
- ・出演者へチケット先行販売の実施。

(3) チケット販売/小・中・高校生無料招待

チケット販売場所

青森市：成田本店しんまち店

青森県立美術館ミュージアムショップ

弘前市：紀伊屋書店弘前店

ヒロロ

八戸市：ラピア

五所川原市：ELM インフォメーション

事務局予約：

電話、FAX、Eメールいずれかの方法により、前売りチケットの事務局予約を受け付けた。

また、小・中・高校生は各公演先着 60 名まで無料招待を行った。

(4) 来場者サービス

託児サービス：

公演日の開演から終演まで、キッズルームにて無料託児サービスを実施。



公演開催チラシ（オモテ）



公演開催チラシ（ウラ）

ダンス

北海道・北東北連携ダンスプログラム制作事業 ダンスワークショップ

1 事業概要

青森県立美術館でしかできない芸術体験として、北海道を拠点に活躍するアーティストを講師に招き3日間連続のダンスワークショップを開催した。

県内の幅広い世代から参加者を募り、参加者のダンスに対する理解を深めるとともに、参加者相互のダンスを通じた交流を図り、青森県立美術館のダンス事業を担うアーティストを発掘・育成することを目的に実施した。

2 広報宣伝、営業概要

(1) 宣材物作成枚数：

チラシ（A4版／カラー）50,000枚

ポスター（B2版／カラー）100枚

(2) 広報：

- ・2018年7月中旬から宣材物配布開始。
- ・青森市周辺市町村の中学校・高校の対象生徒全員へのチラシの配布。
- ・青森市周辺市町村以外の青森県内中学校・高校へのチラシの配布。
- ・北海道、青森県、岩手県内の大学・文化施設等を中心にポスター・チラシを配布し、掲示を依頼。
- ・PA顧客へダイレクトメールの送付。
- ・新聞各社に対して、事前の告知、当日のワークショップを取材依頼。

3 ワークショップ概要

(1) 出演者募集

ア 募集期間

7月下旬から8月24日（金）まで

イ 応募資格

- ・中学生以上でダンス経験があること
- ・9月15日（土）－17日（月・祝）に青森県立美術館で開催するワークショップに、原則、全日程参加可能であること
- ・高校生以下にあっては、保護者の同意が得られていること

ウ 参加費

無料

（稽古、公演出演に係る出演料・交通費等の支給はない。）

エ 募集人数

15名程度（応募者が多数の場合は、抽選により決定。）

(2) 応募実績

参加者 14名

(3) ワークショップ概要

ア 講師

品田 彩

イ 実施期間

9月15日（土）－17日（月・祝）

ウ 実施内容

- ・9月15日（土）
13:00 - 13:10 オリエンテーション
13:10 - 16:00 ワークショップ
- ・9月16日（日）
10:00 - 15:00 ワークショップ
- ・9月17日（月・祝）
10:00 - 12:00 ワークショップ
12:40 - 13:30 ステージリハーサル
13:30 - 14:20 成果発表
14:20 - 15:00 フィードバック

エ 会場

ワークショップ：スタジオ

成果発表：シアター



ワークショップ 成果発表公演風景

青森県立美術館
AOMORI MUSEUM OF ART

ダンスワークショップ 参加者募集

あなたを大切に思う気持ちから
体からこぼれそうなんです
でもわたしはまだ言葉を覚えていません
だから、
ダンスをしようと思っ
てます……

ワークショップ開催期
2018年9月15日(土)～17日(月・祝)

応募締切
2018年8月24日(金) 必着

※主催：青森県立美術館・アライアンス・アライアンス・アライアンス
www.aomori-museum-of-art.jp

ワークショップチラシ (オモテ)

青森県立美術館 ダンスワークショップ 募集要項

●目的
ダンスを通して表現者としての、そして、学習者としての、表現者としての
「自分らしさ」を表現する。ダンスを通して、表現者としての「自分らしさ」を
表現する。

●参加人数
参加人数は、本ワークショップの開催に必要と見られる人数を基準とし、
定員を超えない範囲で募集いたします。

●ワークショッププログラム
ダンスワークショップのプログラムは、ダンスを通して、表現者としての
「自分らしさ」を表現する。

●参加費
参加費は、本ワークショップの開催に必要と見られる金額を基準とし、
定員を超えない範囲で募集いたします。

●申込方法
申込方法は、本ワークショップの開催に必要と見られる方法を基準とし、
定員を超えない範囲で募集いたします。

●申込期間
申込期間は、本ワークショップの開催に必要と見られる期間を基準とし、
定員を超えない範囲で募集いたします。

●申込締切
申込締切は、本ワークショップの開催に必要と見られる締切日を基準とし、
定員を超えない範囲で募集いたします。

●申込先
申込先は、本ワークショップの開催に必要と見られる申込先を基準とし、
定員を超えない範囲で募集いたします。

●お問い合わせ
お問い合わせは、本ワークショップの開催に必要と見られるお問い合わせ先を基準とし、
定員を超えない範囲で募集いたします。

(ワークショップ講師)

越田 彰 (Aki)

越田 彰 (Aki) は、ダンスを通して、表現者としての「自分らしさ」を表現する。ダンスを通して、表現者としての「自分らしさ」を表現する。越田 彰 (Aki) は、ダンスを通して、表現者としての「自分らしさ」を表現する。越田 彰 (Aki) は、ダンスを通して、表現者としての「自分らしさ」を表現する。

申込書 次頁(毎月15日(土)～17日(月・祝)) 青森県立美術館 ダンスワークショップ 応募用紙(個人用)記入用紙

| | | | | |
|----|----|----|----|------|
| 氏名 | 性別 | 年齢 | 住所 | 電話番号 |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |

※申込書に必要と見られる事項を必ず記入してください。

ワークショップチラシ (ウラ)

青森県立美術館舞台芸術企画 アレコ 2019 「Mariula」

1 事業概要

青森県立美術館はコレクションの中核としてシャガール作のバレエアレコ舞台背景画3作品を所蔵している。さらに、2017年4月からは米国フィラデルフィア美術館が所蔵する1作品の長期貸与が認められ、全4作品を完全展示している。この県立美術館が誇る唯一無二の空間を活かし、青森県立美術館でしか味わうことのできない芸術体験として、アレコ舞台背景画の展示室・アレコホールを会場に、バレエ「アレコ」の原作であるプーシキンの長編詩「ジプシー」を原作とする作品『アレコ 2019 「Mariula」 (マリウーラ)』を公演した。

また、この公演には、県内外のダンサー、一輪車団体、俳優の他、9月に開催したダンスワークショップの参加者からも4名が参加した。

これらにより、青森県の舞台芸術を国内外に向けて発信し、今後のダンス事業を担うアーティストの発掘・育成することを図った。

主催：青森県立美術館パフォーミングアーツ推進実行委員会、
青森県立美術館

2 広報宣伝、営業概要

(1) 宣材物作成枚数：

チラシ (A4版/カラー) 70,000枚

ポスター (B2版/カラー) 150枚

(2) 広報：

- ・2018年12月上旬から宣材物配布開始。
- ・青森市周辺市町村の中学校・高校の全生徒へのチラシの配布。
- ・青森市周辺市町村以外の県内中学校・高校へのチラシの配布。
- ・北海道、青森県、岩手県の大学・文化施設・公共施設等を中心に広報物を配布し、掲示を依頼。
- ・PA顧客へダイレクトメールの送付。
- ・新聞各社に対して、公演告知、練習時および公演の様態を取材依頼。
- ・青森県立美術館サポートシップ倶楽部会員向けチケットを作成し、会員一人あたりチケット2枚まで前売料金から各500円割引を実施。

3 チケット販売

(1) チケット販売場所：

全 国：ローソンチケット

青森市：成田本店しんまち店、サンロード青森、
青森県立美術館ミュージアムショップ

弘前市：ヒロ口

八戸市：ラピア

五所川原市：ELM インフォメーション

(2) 事務局予約：

電話、FAX、Eメールのいずれかの方法により、前売りチケッ

トの事務局予約を受け付けた。

4 各種サービス

(1) 託児サービス：

各公演日の開場から終演まで、キッズルームにて無料託児サービスを実施。

(2) 終演後の送迎サービス：

各公演終演後に青森駅までの無料送迎を実施。

(3) カフェ「4匹の猫」臨時営業：

各公演日は、開場時まで延長営業を実施。

5 公演詳細

公演名：青森県立美術館舞台芸術企画

アレコ 2019 spin-off 「Mariula」

Recollection of 73 seconds

構成・脚本・演出・ナレーション：長谷川 孝治

(青森県立美術館舞台芸術総監督)

日時：2019年2月 9日 (土) 開演 18:00

2月10日 (日) 開演 18:00

会場：青森県立美術館アレコホール (席数：180席)

入場料：前売一般 3,000円

前売学生 2,000円

※当日は全て500円増し

公演時間：73分

観客動員数：計 336名

(内訳) 2月 9日 (土) 観客動員 156人 (86.7%)

2月10日 (日) 観客動員 180人 (100.0%)

出演：

<ダンサー>

沼尾みやこ (DANCE WAG 代表)

品田彩

小笠原悦子、菊地このみ、川村陽 (DANCE WAG)

對馬さくら、渡辺歩夢、小島由藍

[振付] 沼尾みやこ、品田彩、松野莉果、對馬さくら

<一輪車>

豊田児童センター 一輪車クラブ

豊澤賢也、中畑佳翔、田中伶旺、棟方翔也、古山七斗、西谷太希、相馬瑠来、西谷萌、鎌田菜乃、松田繭、藤田紗佳、尾崎麗羽、伴彩水華、新谷真依子

[振付] 豊澤賢也

[振付監修] 木村笑子

[衣装スタッフ] 猪股美幸、鎌田文、西谷智美、西谷佳子、
新谷奈津子

<俳優>

過去のマリウーラ

盛 桜華 (青森県立美術館演劇部)

現在のマリウーラ・ピアノ演奏

福田寿枝 (青森県立美術館ドラマリーディングクラブ)

ゼンフィーラ

平田彩乃 (青森県立美術館演劇部)

プログラム：

「出会い」

ダンスⅠ 品田彩、對馬さくら

〔振付〕品田彩、松野莉果、對馬さくら

「二人の距離」

ダンスⅡ 品田彩

「ジプシーたち」、「アレコとゼンフィーラ」

ダンスⅢ 豊田児童センター輪車クラブ

〔振付〕沼尾みやこ、豊澤賢也

「また別のジプシーたち」

ダンスⅣ DANCE WAG

「知ることの哀しみ」

ダンスⅤ 品田彩

ダンスⅥ DANCE WAG、

豊田児童センター輪車クラブ

〔振付〕沼尾みやこ、豊澤賢也

ダンスⅦ 豊田児童センター輪車クラブ

「輝く時間」

ダンスⅧ 對馬さくら、渡辺歩夢、小島由藍

〔振付〕品田彩

「独りで生きる」

ダンスⅨ DANCE WAG

ダンスⅩ 豊田児童センター輪車クラブ

スタッフ：舞台監督／野村眞仁

舞台監督補助／斎藤耕平

舞台制作／本多大公

照明／佐藤牧人、神照一、加川絵理

音響／工藤敢司、寺山紀幸

写真・映像／斎藤耕平、野村眞仁

主催：青森県立美術館パフォーミングアーツ推進実行委員会、
青森県立美術館

6 出演者・出演団体プロフィール

DANCE WAG

代表 沼尾みやこ、小笠原悦子、菊地このみ、川村陽

1987年3月、JAZZ DANCE STUDIO『DANCE WAG』をオープンさせる。八戸、十和田にてジュニアから一般までを対象にレッスン展開中。WAG LIVEとして構成・振付したホール公演やSHOWを行う他、スタジオパフォーマンスを企画開催する。これまでに青森県立美術館で開催した舞踊劇「アレコ」、県民参加型演劇「MIYAZAWA」、「Dance Aleko 2017」等へ出演。

品田彩

3歳～芝居とジャズダンスを始める（STUDIO SEIBI 札幌）。14歳～上田遥氏、15歳～古賀豊氏に師事。札幌ダンススタジオオ舞人にて習う。17歳～つかこうへい事務所にて、つかこうへい北海道セミナーのダンス講師。当時最年少で紀伊國屋ホールにて主演「売春捜査官」。「二等兵物語～怪盗ムーン」出演など。

松野莉果、對馬さくら、渡辺歩夢、小島由藍

青森県立美術館でしかできない芸術体験として、2018年9月15日～17日に3日間連続するダンスワークショップを開催した（講師：品田彩）。この参加者から4名が本公演に出演。

豊田児童センター輪車クラブ

豊澤賢也、中畑佳翔、田中伶旺、棟方翔也、古山七斗、西谷太希、相馬瑠来、西谷萌、鎌田菜乃、松田繭、藤田紗佳、尾崎麗羽、伴彩水華、新谷真依子

1984年に一輪車を導入し、1986年から本格的活動を開始。1988年全日本一輪車大会において、初出場で団体総合優勝を果たし、通算12回日本一となった。また、国際大会においても5度の団体優勝を果たし、今や一輪車業界において、豊田発祥の表現豊かな演技は広く知られている。現在も、先輩たちが築き上げてきた演技傾向をしっかりと受け継ぎ、活動を続けている。

青森県立美術館演劇部 平田彩乃、盛桜華

「太宰治」文学の魅力を演劇により伝える人材を育成するため、県民から参加者を募集し、オーディションによる選考を経て2017年6月に発足。これまで2回のシアター公演を実施。部員の中から平田彩乃、盛桜華が本公演に出演。

青森県立美術館ドラマリーディングクラブ 福田寿枝

開館以来青森県立美術館が実施してきた、県民参加型演劇等を発展させ、先駆的な舞台芸術を発信するため、2009年に発足。美術館をはじめ学校・社会福祉施設での公演も実施している。クラブ員の中から福田寿枝が本公演に出演。



公演風景



公演開催チラシ (オモテ)



公演開催チラシ (ウラ)

音楽

アレコホール定期演奏会 2018 「Attitude ～ 2 台の弦楽器とピアノで紡ぐ音の絵～」

1 事業概要

毎年好評をいただいている、アレコホールでの演奏会を本年度も開催。『アレコホール定期演奏会 2018 「Attitude ～ 2 台の弦楽器とピアノで紡ぐ音の絵～」』と題し、全3回の公演を実施した。今回の公演では、各回で異なる弦楽器をピックアップし、その弦楽器演奏家2名とピアノ伴奏による演奏会を実施した。各回で異なる弦楽の音色や、同じ楽器でも演奏者によって違う響きがピアノ伴奏とともに紡がれ、まさにその瞬間にだけ表出する《音の絵》として表現した。

日時：－Ⅰ－ 2 台のヴァイオリンとピアノ

2018年5月26日（土）

開演 18:00 開場 17:30 受付開始 17:00

－Ⅱ－ 2 台のチェロとピアノ

2018年9月1日（土）

開演 19:00 開場 18:30 受付開始 18:00

－Ⅲ－ 2 台のヴィオラとピアノ

2018年11月3日（土・祝）

開演 18:00 開場 17:30 受付開始 17:00

会場：アレコホール

席数：200 席（全席自由）

※「Ⅲ」のみ、舞台設置プランの変更により 160 席。

入場料金：前売一般 2,000 円（当日 2,500 円）

ペア 3,000 円（前売販売のみ）

3 枚綴り券 4,200 円

※ 3 枚綴り券は公演日・人数を自由に割り当てて使用可能。

主催：青森県立美術館パフォーミングアーツ推進実行委員会、
青森県立美術館

2 広報宣伝、営業概要

(1) 宣材物作成枚数：

チラシ（A4 版／カラー）70,000 枚

ポスター（B2 版／カラー）200 枚

(2) 広報：

（2018 年 5 月上旬から宣材物配布開始）

- ・PA 顧客へダイレクトメールを送付。
- ・青森県内の小学校・中学校・高等学校へのチラシ配布。
- ・青森県内の大学・文化施設・教育機関・道の駅・音楽教室・

各商店街等を中心に広報物を配布し、掲示を依頼。

- ・青森市発行の広報誌への公演情報の掲載。
- ・県内発行のフリーマガジン「あおり草子」への情報掲載。
- ・青森県立美術館のホームページ・ブログ・Twitter・Facebook 等、ウェブ上での公演情報の発信。
- ・青森県の広報枠を使用した、コンビニエンスストア（ローソン県内全店）へのチラシ設置、AM・FM ラジオ番組での公演情報の発信。
- ・青森県立美術館サポートシップ倶楽部会員向けチラシを作成し、会員 1 名あたりチケット 3 枚まで 500 円割引を実施。

3 チケット販売／小・中・高校生 無料招待

チケット販売場所：

全 国：ローソンチケット

青森市：成田本店しんまち店、

青森県立美術館ミュージアムショップ

弘前市：ヒロ口、弘前大学生協、

紀伊國屋書店弘前店

五所川原市：ELM インフォメーション

つがる市：イオンモールつがる柏インフォメーション

八戸市：三春屋、ラピア

事務局予約：

電話、FAX、Eメールのいずれかの方法により、前売チケットの事務局予約を受け付けた。

小・中・高校生 無料招待：

小・中・高校生を各公演先着 60 名まで無料招待とした。

4 各種サービス

託児サービス：

各公演の開場から終演まで、キッズルームにて無料託児サービスを実施。

終演後の送迎サービス：

各公演終演後に青森駅までの無料送迎を実施。

カフェ「4 匹の猫」臨時営業：

各公演日は、開場時間まで延長営業を実施。

5 各公演詳細

(1) 出演者（演奏者）：

－Ⅰ－

菊池 恭江（ヴァイオリン）

大槻 英末（ヴァイオリン）

浅野 清（ピアノ）

－Ⅱ－

藤沢 俊樹 (チェロ)
村上 智美 (チェロ)
村田 恵理 (ピアノ)

－Ⅲ－

梯 孝則 (ヴィオラ)
三戸 誠 (ヴィオラ)
佐藤 慎悟 (ピアノ)

(2) 演奏曲目：

－Ⅰ－

フェデリコ・モンポウ
前奏曲 第7番 “星でできたシュロの葉”
アリストン弾きの男
演奏：浅野清

ヴォルフガング・アマデウス・モーツァルト
ヴァイオリン・ソナタ 第18番 ト長調 K301
演奏：大槻英未、浅野清

ドミートリイ・シヨスタコーヴィッチ
2台のヴァイオリンとピアノのための「5つの小品」
演奏：菊池恭江、大槻英未、浅野清

フリッツ・クライスラー
美しきロスマリン
愛の悲しみ
愛の喜び
演奏：菊池恭江、浅野清

休憩 (20分)

モーリツ・モシュコフスキー
2台のヴァイオリンとピアノのための組曲 ト短調 作品71
演奏：菊池恭江、大槻英未、浅野清

フランシス・プーランク
間奏曲 第2番 変ニ長調
ユモレスク
演奏：浅野清

パブロ・デ・サラサーテ
ナヴァラ 作品33
演奏：菊池恭江、大槻英未、浅野清

【アンコール】

ヴィットーリオ・モンティ
チャルダッシュ
演奏：菊池恭江、大槻英未、浅野清

－Ⅱ－

フランツ・ヨーゼフ・ハイドン
バリトン二重奏曲 ト長調 Hob. XII :4

演奏：藤沢俊樹、村上智美

ボフスラフ・マルティヌー
ロッシーニの主題による変奏曲
演奏：村上智美、村田恵理

ガスパール・カサド
無伴奏チェロ組曲
第1曲 Prelude - Fantasia
演奏：藤沢俊樹

アントニオ・ヴィヴァルディ
2台のチェロのための協奏曲 ト短調 RV531
演奏：藤沢俊樹、村上智美、村田恵理

休憩 (20分)

ダーヴィト・ポツパー
2台のチェロのための組曲 作品16
第1曲 Andante grazioso
第4曲 Largo espressivo
演奏：藤沢俊樹、村上智美

クロード・ドビュッシー
アラベスク 第1番 ホ長調
水の反映
演奏：村田恵理

ジョージ・フリデリック・ヘンデル
2台のチェロとピアノのためのソナタ ト短調 作品2-8
演奏：藤沢俊樹、村上智美、村田恵理

【アンコール】

ジャン・バリエール
2台のチェロのためのソナタ
第1楽章
演奏：藤沢俊樹、村上智美、村田恵理

フランツ・シューベルト
セレナーデ
演奏：藤沢俊樹、村上智美、村田恵理

－Ⅲ－

ジョージ・フリデリック・ヘンデル
オラトリオ「ソロモン」より『シバの女王の到着』
演奏：梯孝則、三戸誠、佐藤慎悟

ヨハン・パッヘルベル
カノン
演奏：梯孝則、三戸誠、佐藤慎悟

カール・シュターミッツ
二重奏曲 第1番 八長調
演奏：梯孝則、三戸誠

ジェレミー・コーエン
タンゴ8
演奏：梯孝則、三戸誠

休憩 (20分)

アントン・ルビンシュタイン
ソナタ ヘ短調 Op.49より
第2楽章 Andante
演奏：三戸誠、佐藤慎悟

ヨハン・セバスチャン・バッハ
ブランデンブルグ協奏曲 第6番 変ロ長調 BWV 1051
演奏：梯孝則、三戸誠、佐藤慎悟

【アンコール】

ドミートリイ・ショスタコーヴィチ
ジャズ組曲 第2番より「ワルツ」
演奏：梯孝則、三戸誠、佐藤慎悟

(3) 観客動員 573人 (102%)

| 回 | 有料 | 招待 | 合計 |
|----------|-----|-----|-----|
| －Ⅰ－ 5/26 | 90 | 97 | 187 |
| －Ⅱ－ 9/1 | 120 | 110 | 230 |
| －Ⅲ－ 11/3 | 91 | 65 | 156 |
| 計 | 301 | 272 | 573 |

6 演奏家プロフィール

－Ⅰ－

菊池 恭江

桐朋学園大学音楽学部演奏科卒業。卒業年秋、桐朋学園渡欧合奏団員としてヨーロッパ13ヶ国70日間の演奏旅行を行う。1971年、リサイタルを皮切りに演奏活動を積極的に行い、数々のオーケストラと共演。1988年、アウレオ弦楽四重奏団結成。1997年より15年間、えぞこヴァイオリンアカデミー・弦楽団の指導を行う。2007年、菊池恭江と弟子たちによる弦楽合奏団である仙台音楽弦団結成。宮城県芸術選奨新人賞、宮城県芸術選奨、宮城県教育文化功労者等を受賞。宮城学院女子大学音楽科元教授。

現在、コンパニオン・ドウ・ミュージクを再開し会員として参加。宮城県芸術協会会員。宮城県芸術協会音楽コンクール・ヴァイオリン部門実行委員長。

大槻 英未

5歳よりヴァイオリンを始める。桐朋女子高等学校音楽科を経て桐朋学園音楽学部卒業。パリ国立地方音楽院(CNR)最上級課程にて研鑽を積む。第3回バッハホールコンクール最優秀賞受賞、ヤマハフレッシュコンサートにてソロリサイタルを開く。2002～2004年イヴリー・ギトリスのマスタークラス受講。ポンサンテスプリ音楽祭(フランス)、シリー音楽祭(ベルギー)、銀座山野楽器主催コンサート等出演。現在、ソロ・室内楽・オーケストラ等での活動の他、後進の指導も行う。菊池恭江、故久

保田良作、加藤知子、リュック・エリーの各氏に師事。

浅野 清

1975年、国立音楽大学卒業。同年L.バースタインとC.エッセンバッハの推薦によりニューヨークのジュリアード音楽院に入学、J.ラタイナーのもとで主に古典派楽曲を学び修士課程を修了。その後ニューヨーク大学にてE.リストに師事。1981年、ドイツのマンハイム音楽大学演奏科を首席で卒業。カイゼルスラウテルン市立音楽学校専任講師、マンハイム音楽大学非常勤講師を務める。帰国後は、二度にわたるベートーヴェン「32のソナタ」全曲演奏(1989～1990、2006～2007)や、「フリッツ・ヴンダーリッヒ没後25年追悼演奏会」(ドイツ)で招待演奏をするなどソロリサイタルを中心に国内外で演奏活動を行っている。平成6年度青森県芸術文化奨励賞受賞。弘前大学名誉教授。

－Ⅱ－

藤沢 俊樹

9歳よりチェロを青木十良氏に師事。東京藝術大学附属高校を卒業後、東京藝術大学、読売日本交響楽団を経てフリーのチェリストとなり、サントリーホールをはじめ、各地でリサイタルを開催。また、レコーディングやステージ、テレビや映画等の商業音楽等幅広いジャンルで演奏活動を行う。1979年には当時珍しかったチェロ合奏団として「東京チェロアンサンブル」を立ち上げ現在は「バスバー」として主宰している。古典音楽協会、日本室内楽アカデミー他に在籍する傍らレコーディング、ステージ等、幅広いジャンルで活躍し『もののけ姫』『宇宙戦艦ヤマト』など多くのヒット作の制作にも関わっている。また、チェロアンサンブルとフラメンコのコラボ、チェロアンサンブルとブラスバンドの共演等手がけてきている。

現在は国際文化振興芸術家協会、東京バロックアンサンブルに在籍し、独奏、室内楽を中心に各地で活躍する傍ら、後進の指導も積極的に行っている。ソティエ(弘前)、アスク音楽院にて講師として指導する。ドレミ出版より『ウェルナーチェロ教本Ⅰ、Ⅱ巻』と『チェロ名曲31選』を出版している。

村上 智美

北海道札幌市出身。桐朋学園大学演奏学科卒業。桐朋学園大学研究科修了。フランス国立ストラスブール地方音楽院特別学科ディプロム取得。在学中より劇団かしの樹、音楽院選抜コンサート、ストラスブール・オーケストラ(フランス)やザールブリュッケン(ドイツ)のメンバーらとの室内楽コンサート、アルザスマュージシャンとのツアーなど多岐にわたって活動。また、在学中よりオーケストラへの客演や後進の指導にもあたる。帰国後は、札幌と釧路で音楽教室を開講し、定期的に釧路、札幌、東京でソロリサイタルを自主開催。また、北海道の遠隔地の学校や施設を訪問演奏する「ぼぷらコンサート基金」に携わっている。これまでにチェロを上原与四郎、金木博幸、故・青木十良、Alexander Somov、室内楽を故・ゴールドベルク山根美代子の各氏に師事。

第1回札幌ジュニアコンクール奨励賞、第36回フランスエピナルコンクール第2位受賞。

村田 恵理

東京藝術大学音楽学部器楽科ピアノ専攻卒業。英国国立音楽院大学院課程ディプロマコース卒業。第8回若手県ピアノ音楽コンクール銀賞、第26回イタリア・セニガリア国際青少年ピアノコンクール第4位入賞。第8回東京音楽コンクールピアノ部門入選。2006年、マンチェスター・ピアノ国際音楽祭（イギリス）にてソロリサイタル。帰国後はソロリサイタルを中心に、室内楽やデュオリサイタルの自主企画公演を定期的に開催。その他、オーケストラとの協演、声楽・器楽等の伴奏も多数手がける。青森県立美術館主催の演奏会出演も多く、2011年7月～2012年3月にかけては、開館5周年記念において全5回にわたる連続ソロリサイタルを、2016年7月には、開館10周年記念「5台ピアノコンサート～北十字星からの贈りもの～」を行う。現在、自宅にてピアノ教室を主宰し後進の指導にも力を注ぐとともに、NHK文化センター弘前教室と青森教室にて、演奏とお話を交えた講座「ピアノ音楽紀行」を開講している。これまでに石郷勝彦、友田恭子、北川暁子、小林仁、クリストファー・エルトン、キャサリン・ストットの各氏に師事。また、2015年より古楽器演奏における第一人者である渡邊順生氏に師事し、フォルテピアノ（歴史的鍵盤楽器）を学ぶ。弘前市在住。

— III —

梯 孝則

国立音楽大学器楽学科ヴィオラ専攻卒業。東京都交響楽団を経て、NHK交響楽団奏者として30年近く活躍する。N響定年退職後も古典音楽協会、アンカサスII、N響団友オーケストラのメンバー、室内楽奏者として活躍している。国際的に活躍するピアニストの梯剛之氏は長男。

三戸 誠

青森県青森市出身。国立音楽大学附属音楽高等学校音楽科、同大学を経て、同大学院音楽研究科器楽専攻（ヴィオラコース）修了。1992年“ISME（国際音楽教育学会）”韓国・ソウル大会にてリサイタルを催す。1998年よりデュオ・リサイタルを毎年開催。1999年、アメリカ・メイン州“Arcadia International String Festival”に室内楽・オーケストラのコーチとして参加。2001年、フランス・クールシュヴェル“Music Alp”に参加。2006年“ISME”マレーシア・クアラルンプール大会にてデュオ・リサイタルを催す。また“Sentuhan International Music Festival”でトルコのAnatolian Sun Quartetとセッションを行い、好評を博す。2009年憲法映画『太陽と月と 私たちの憲法と人々の情熱』、2017年ドキュメンタリー映画『グローバルヘルス実現のために』の音楽を担当する。2015年、第10回リサイタルを催す。ヴィオラを渡部啓三、ミルトン・トーマス、室内楽を岩崎淑、中村泉の各氏に師事。現在、国立音楽大学、洗足学園音楽大学／大学院、玉川大学、明治学院大学、茨城大学大学院、早稲田大学エクステンションセンター各講師。日本

演奏連盟会員。

佐藤 慎悟

青森県八戸市出身。昭和音楽大学ピアノ演奏家コース特待生入学後、第11回日本クラシック音楽コンクール全国大会2位（1、3位なし）などを受賞し同大学を首席卒業。2004年～2009年まで渡伊。国立ローマ・サンタチェチリア音楽院アカデミアに入学後、数々の国際コンクールで第1位受賞。ローマを拠点にフランスなどで研鑽を積み、アーツアカデミーピアノ演奏家コースを満場一致で首席修了。帰国後、ソロ活動以外に室内楽、合唱団や楽器、声楽のソリストとの共演に力を注いでいる。2014年には八戸ジュニアオーケストラと、2015年には八戸市民フィルハーモニー交響楽団との共演でソリストを務める。現在、自宅でピアノ教室を主宰。青森県ピアノ研究会八戸支部長。八戸文化幼稚園ピアノ講師。



公演開催チラシ（オモテ）



公演開催チラシ（ウラ）

映画

「特集・わたしの中の樹木希林」

1 事業概要

近年の映画事業では高倉健、北野武、相米慎二、たむらまさきなどの関連作品を上映し、各作品や各映画人の再評価を試みると同時に、「映画を劇場で観る」ことの価値を改めて提示してきた。

平成30年度は、10月5日（金）－8日（月・祝）の4日間に渡り「特集・わたしの中の樹木希林」と題し、女優・樹木希林氏の出演作品を特集上映した。

多くのテレビドラマやコマーシャルでお茶の間の人気を集めてきた樹木希林氏は、その独特な個性を映画界でも遺憾なく発揮し、大林宣彦・鈴木清順・市川崑・岡本喜八・森田芳光・是枝裕和をはじめとした多くの名監督の作品に出演した。抜群のコメディセンスと時に放つ冷徹さを合わせ持ちつつも、誰の心の中にも存在する“いつか出会ってきたような誰か”を思わせるような女性像を人なつこく人間味にあふれた演技で表現し、2008年には紫綬褒章、2014年には旭日小授章を受章しました。今回の上映会では、これまであまり特集される機会が少なかった“助演者”という立場からも作品にスポットを当てる形で、人気・実力とも国民的女優である樹木希林さんの功績を辿った。

上映作品は、『神様のくれた赤ん坊』『夢の女』『39－刑法第三十九条－』『東京タワー オカンとボクと、時々、オトン』『歩いてても 歩いてても』の助演5作品と、ナレーションとして参加したドキュメンタリー『ずっと、いっしょ。』『人生フルーツ』の2作品に、2015年の主演作品『あん』を加えた計8作品。また、10月6日（土）には、映画『あん』を監督した河瀬直美監督さんを迎えての《ゲストトーク》も開催した。

公演名：青森県立美術館 映画上映

「特集・わたしの中の樹木希林」

会場：青森県立美術館シアター

席数：180席（全席自由）

開催日：2018年10月5日（金）－8日（月・祝）

計4日間

主催：青森県立美術館パフォーミングアーツ推進実行委員会、
青森県立美術館

共催：青森県立美術館サポートシップ倶楽部

助成：芸術文化振興基金

2 広報宣伝、営業概要

(1) 宣材物作成枚数

チラシ（B5版／カラー）30,000枚

ポスター（B2版／カラー）200枚

(2) 広報

（2018年9月中旬から宣材物配布開始）

- ・PA顧客へダイレクトメールの送付。
- ・県外含む各映画館、各映画上映会での上映会広報物の掲示・配布。（一部映画館では有料スペースへの掲示も実施）
- ・県内の高校・大学宛てに広報物を発送。
- ・青森県内の文化施設・教育機関・道の駅・各商店等を中心に広報物を配布し、掲示・周知を依頼。
- ・青森県の広報枠を使用した、AM・FMラジオ番組での開催情報の発信。
- ・FMラジオ番組出演（青函2局ネット）による開催情報の発信。
- ・新聞紙面（6社）での公演記事の掲載。
- ・共同通信社からの公演記事の発信。
- ・県内8市町村の広報誌へ上映会情報の掲載。
- ・一般週刊雑誌（1誌）への情報掲載。
- ・八戸市のタウン情報誌（無料発行）への上映会情報の掲載。
- ・青森県立美術館のホームページ・ブログ・Twitter・Facebook等、ウェブ上での公演情報の発信。
- ・青森駅でのポスターの有料掲示。
- ・青森県立美術館サポートシップ倶楽部会員向けチラシを作成し、会員1人あたりチケット5枚まで前売料金から各500円割引を実施。
- ・青森市内一部地区において、上映会チラシの新聞折り込みを実施。

3 入場料金／チケット販売

1日券：

（10/5・7・8上映）前売1,200円

（10/6上映）前売1,400円

※当日は各200円増し

※日時指定で当日の全作品鑑賞可

（10/6はゲストトークも鑑賞可）

1日券販売プレイガイド：

全 国：ローソンチケット

青森市：成田本店しんまち店

青森県立美術館ミュージアムショップ

弘前市：ヒロロ

五所川原市：ELM インフォメーション
 つがる市：イオンモールつがる柏インフォメーション
 ラスト1本割引：

500円均一
 ※前売・当日料金同額
 ※日時指定で各日の最終回上映のみ鑑賞可
 (10/6はゲストトーク鑑賞不可)
 ※事務局予約・当日受付のみで販売

通し券：

前売のみ 2,000円
 ※当日販売なし
 ※上映会期間中の全上映を鑑賞可
 (10/6はゲストトークも鑑賞可)

事務局予約：

電話、FAX、Eメールのいずれかの方法により、前売チケットの事務局予約を受け付けた。

4 公演詳細

上映作品(全8作品)：

『神様のくれた赤ん坊』

(1979年・前田陽一監督・35ミリフィルム上映)

『夢の女』

(1993年・坂東玉三郎監督・35ミリフィルム上映)

『39 - 刑法第三十九条 -』

(1999年・森田芳光監督・35ミリフィルム上映)

『東京タワー オカンとボクと、時々、オトン』

(2007年・松岡錠司監督・35ミリフィルム上映)

『歩いても 歩いても』

(2007年・是枝裕和監督・35ミリフィルム上映)

『ずっと、いっしょ。』

(2014年・豪田トモ監督・ブルーレイ上映)

『あん』

(2015年・河瀬直美監督・ブルーレイ上映)

『人生フルーツ』

(2016年・伏原健之監督・ブルーレイ上映)

ゲストトーク：

出演：河瀬直美(映画監督)

開催スケジュール：

2018年10月5日(金)

10:45 上映 『夢の女』

13:30 上映 『神様のくれた赤ん坊』

15:20 上映 『39 - 刑法第三十九条 -』

17:55 上映 『ずっと、いっしょ。』

2018年10月6日(土)

10:00 上映 『歩いても 歩いても』

12:50 上映 『あん』

14:45 開始 【ゲストトーク】

16:05 上映 『人生フルーツ』

17:55 上映 『東京タワー オカンとボクと、時々、オトン』

2018年10月7日(日)

10:00 上映 『ずっと、いっしょ。』

12:55 上映 『歩いても 歩いても』

15:05 上映 『東京タワー オカンとボクと、時々、オトン』

17:45 上映 『夢の女』

2018年10月8日(月・祝)

10:00 上映 『神様のくれた赤ん坊』

12:30 上映 『人生フルーツ』

14:20 上映 『あん』

16:35 上映 『39 - 刑法第三十九条 -』

※各日初回上映の10分前開場

観客動員数：1,624人(全16上映)

【内訳】 (カッコ内は上数字に含まれる招待者数)

| 作品名 | 上映① | 上映② | 計 |
|------------------------|-------------|-------------|---------------|
| 『神様のくれた赤ん坊』 | 132 (6) | 94 (3) | 226 (9) |
| 『夢の女』 | 114 (4) | 50 (1) | 164 (5) |
| 『39 - 刑法第三十九条 -』 | 94 (2) | 88 (2) | 182 (4) |
| 『東京タワー オカンとボクと、時々、オトン』 | 44 (2) | 98 (2) | 142 (4) |
| 『歩いても 歩いても』 | 79 (4) | 100 (5) | 179 (9) |
| 『ずっと、いっしょ。』 | 53 (1) | 57 (2) | 110 (3) |
| 『あん』 | 135 (10) | 127 (4) | 262 (14) |
| 『人生フルーツ』 | 91 (5) | 118 (3) | 209 (8) |
| 【ゲストトーク】 | 150 (14) | - | 150 (14) |
| 計 | 892 (48) | 732 (22) | 1,624 (70) |



ゲストトーク

青森県立美術館 映画上映
特集
あなたは、わたしの“誰か”に似ている—
わたしの中の樹木希林

「神様めくれたあんなに」
「母の死」
「第1回 藤田三九夫—」
「東京タワー オカンとボクと、時々、オトン」
「いいとも 歩いて」
「ずっといらしてよ」
「あん」
「人生劇場」

2015
10/5-8 (金) 12:00開演
会場 青森県立美術館シアター
出演者 樹木希林 ほか

ゲストトーク
10/6 (土) 14:15開演
出演者 樹木希林、伊藤高悟
司会者 斎藤誠、津田寛治、川原和久



公演開催チラシ (オモテ)

「神様めくれたあんなに」
「母の死」
「第1回 藤田三九夫—」
「東京タワー オカンとボクと、時々、オトン」
「いいとも 歩いて」
「ずっといらしてよ」
「あん」
「人生劇場」

2015
10/5-8 (金) 12:00開演
会場 青森県立美術館シアター
出演者 樹木希林 ほか

ゲストトーク
10/6 (土) 14:15開演
出演者 樹木希林、伊藤高悟
司会者 斎藤誠、津田寛治、川原和久

樹木希林(きばやし きまきりん) 1957年12月24日生まれ、東京都江戸川区生まれ。女優、声優。代表作に『東京タワー』、『母の死』、『あん』、『人生劇場』など。2015年、第90回日本アカデミー賞最優秀主演女優賞を受賞。

10/5(金) 12:00開演
10/6(土) 12:00開演
10/7(日) 12:00開演
10/8(月) 12:00開演

10/6(土) 14:15開演
ゲストトーク

出演者: 樹木希林、伊藤高悟
司会者: 斎藤誠、津田寛治、川原和久

10/5(金) 12:00開演
10/6(土) 12:00開演
10/7(日) 12:00開演
10/8(月) 12:00開演

10/6(土) 14:15開演
ゲストトーク

出演者: 樹木希林、伊藤高悟
司会者: 斎藤誠、津田寛治、川原和久

10/5(金) 12:00開演
10/6(土) 12:00開演
10/7(日) 12:00開演
10/8(月) 12:00開演

10/6(土) 14:15開演
ゲストトーク

出演者: 樹木希林、伊藤高悟
司会者: 斎藤誠、津田寛治、川原和久

10/5(金) 12:00開演
10/6(土) 12:00開演
10/7(日) 12:00開演
10/8(月) 12:00開演

10/6(土) 14:15開演
ゲストトーク

出演者: 樹木希林、伊藤高悟
司会者: 斎藤誠、津田寛治、川原和久

公演開催チラシ (ウラ)

「特集 “わたしの家族、家族のわたし”」

1 事業概要

10月19日（金）から21日（日）の3日間に「特集 “わたしの家族、家族のわたし”」と題し、珠玉の“家族”映画4作品の特集上映を実施した。

この上映会は、先だって開催する「特集・わたしの中の樹木希林」と関連させ、樹木希林さんが多くの映画で人間味あふれた“家族”を演じ、私たちが常に魅了してきたことから、普遍的な家族や夫婦の姿を描いた名作4作品を全作35ミリフィルムで上映した。

上映作品は、無人島という過酷な環境で暮らす夫婦の姿を一切の台詞を排し描いた新藤兼人監督の渾身作『裸の島』をはじめ、戦後の復興の時を迎える中を生きる市井の家族や夫婦の悲喜を情感豊かに描いた『煙突の見える場所』『この広い空のどこかに』『名もなく貧しく美しく』の計4作品。

なお、本上映会は文化庁と国立映画アーカイブが、広く国民に優れた映画鑑賞の機会を提供するため日本各地の公立文化施設と連携・協力し、所蔵映画フィルムの巡回上映を全国の会場で実施している「優秀映画鑑賞推進事業」の一環としての上映となる。

公演名：青森県立美術館 映画上映
「特集 “わたしの家族、家族のわたし”」

会場：シアター

席数：180席（全席自由）

開催日：2018年10月19日（金）－21日（日）

計3日間

主催：青森県立美術館パフォーミングアーツ推進実行委員会、
青森県立美術館、文化庁、国立映画アーカイブ

特別協賛：木下グループ

協力：株式会社オーエムシー

2 広報宣伝、営業概要

(1) 宣材物作成枚数

チラシ（B5版／白黒）20,000枚

ポスター（B2版／白黒）100枚

(2) 広報

（2018年9月中旬から宣材物配布開始）

- ・PA顧客へダイレクトメールの送付。
- ・県外含む各映画館、各映画上映会での上映会広報物の掲示・配布。
- ・県内の大学宛てに広報物を発送。
- ・青森県内の文化施設・教育機関・道の駅・各商店等を中心に広報物を配布し、掲示・周知を依頼。
- ・青森県の広報枠を使用した、コンビニエンスストア（ローソン県内全店）へのチラシの掲示。
- ・青森県の広報枠を使用した、AM・FMラジオ、商業施設等での開催情報の発信。

- ・新聞紙面（1社）での公演記事の掲載。
- ・県内13市町村の広報誌へ上映会情報の掲載。
- ・八戸市のタウン情報誌（無料発行）への上映会情報の掲載。
- ・青森県立美術館のホームページ・ブログ・Twitter・Facebook等、ウェブ上での公演情報の発信。
- ・青森駅でのポスターの有料掲示。
- ・青森県立美術館サポートシップ倶楽部会員向けチラシを作成し、会員1人あたりチケット3枚まで前売料金から各500円割引を実施。
- ・青森市内一部地区において、上映会チラシの新聞折り込みを実施。

3 入場料金・チケット販売

(1) 1日券

(10/19) 前売 800円

(10/20) 前売 1,000円

(10/21) 前売 1,000円

※当日は各200円増し

※日時指定で当日の全作品鑑賞可

【1日券 販売プレイガイド】

青森市：成田本店しんまち店

青森県立美術館ミュージアムショップ

弘前市：ヒロロ

五所川原市：ELM インフォメーション

つがる市：イオンモールつがる柏インフォメーション

(2) ラスト1本割引

500円均一

※前売・当日料金同額

※日時指定で各日の最終回上映のみ鑑賞可

※事務局予約・当日受付のみで販売

(3) 通し券

前売のみ 1,500円

※当日販売なし

※上映会期間中の全上映を鑑賞可

(4) 「わたしの中の樹木希林」通し券で無料

映画上映「特集・わたしの中の樹木希林」の通し券をご購入された方は、無料で鑑賞可能。

【予約受付】

青森県立美術館パフォーミングアーツ推進実行委員会事務局
（青森県立美術館内）

電話：017-783-5243（平日9:00 - 17:00）

FAX：017-783-5244

Eメール：eiga@aomori-museum.jp

4 公演詳細

(1) 上映作品

- 『煙突の見える場所』(1953年・五所平之助監督)
 - 『この広い空のどこかに』(1954年・小林正樹監督)
 - 『裸の島』(1960年・新藤兼人監督)
 - 『名もなく貧しく美しく』(1961年・松山善三監督)
- 計4作品(全作品35ミリフィルム上映)

(2) 開催スケジュール

- 2018年10月19日(金)
- 10:00 上映 『煙突の見える場所』
 - 12:45 上映 『名もなく貧しく美しく』

- 2018年10月20日(土)
- 10:00 上映 『裸の島』
 - 12:35 上映 『この広い空のどこかに』
 - 14:40 上映 『煙突の見える場所』

- 2018年10月21日(日)
- 10:00 上映 『名もなく貧しく美しく』
 - 13:00 上映 『裸の島』
 - 14:55 上映 『この広い空のどこかに』

※各日初回上映の10分前開場

(3) 観客動員数：369人(全8上映)

【内訳】 (カッコ内は上数字に含まれる招待者数)

| 作品名 | 上映① | 上映② | 計 |
|--------------|-------------|------------|-------------|
| 『煙突の見える場所』 | 35 (3) | 52 (1) | 87 (4) |
| 『この広い空のどこかに』 | 60 (1) | 35 (2) | 95 (3) |
| 『裸の島』 | 52 (2) | 46 (2) | 98 (4) |
| 『名もなく貧しく美しく』 | 40 (5) | 49 (3) | 89 (8) |
| 計 | 187 (11) | 182 (8) | 369 (19) |

青森県立美術館 映画上映 特集

わたしの家族、家族のわたし

『裸の島』 『この広い空のどこかに』 『名もなく貧しく美しく』

2018年
10月19日(金)・20日(土)・21日(日)

青森県立美術館シアター 35ミリフィルム上映

(青森県青森市安田字芝野185)

www.gomori-museum.jp

公演開催チラシ (オモテ)

どうでもよくて、放っておけない。“家族”映画、珠玉の4作品。

観客動員数
10月19日(金) 10:00 10月20日(土) 10:00 10月21日(日) 10:00

裸の島
10月20日(土) 12:35 10月21日(日) 14:55

名もなく貧しく美しく
10月19日(金) 12:45 10月21日(日) 10:00

【内訳】 (カッコ内は上数字に含まれる招待者数)

【予約受付】 0192-793-5244

公演開催チラシ (ウラ)

サービス等

貸館

図書室

キッズルーム

博物館実習

サポートシップ倶楽部

貸館

使用施設について

(1) 使用目的

展覧会や作品の創作活動、映像、演劇及び音楽などの芸術活動の発表、練習の場として本県の芸術振興に資する使用であること。

(2) 使用料

① 展示施設を使用する場合

■ コミュニティギャラリー

| 室名 (面積) | 使用料 (入場料等を徴収しない場合) | | |
|-------------|--------------------|---------------|------------|
| | 9:30 - 12:00 | 13:00 - 17:00 | 左記以外の時間帯 |
| A (148.76㎡) | 2,180 円 | 3,480 円 | 1 時間 870 円 |
| B (60.47㎡) | 900 円 | 1,440 円 | 1 時間 360 円 |
| C (131.30㎡) | 1,930 円 | 3,080 円 | 1 時間 770 円 |

- ※ 1 入場料等を徴収する場合は、上記使用料の2倍とします。
- ※ 2 コミュニティギャラリーの1室が使用されている場合、他のコミュニティギャラリーが使用できない場合があります。

■ 企画展示室

| 室名 (面積) | 使用料 (入場料等を徴収しない場合) | | |
|--------------|--------------------|---------------|--------------|
| | 9:30 - 12:00 | 13:00 - 17:00 | 左記以外の時間帯 |
| A (182.70㎡) | 2,550 円 | 4,080 円 | 1 時間 1,020 円 |
| B (140.39㎡) | 2,050 円 | 3,280 円 | 1 時間 820 円 |
| C (389.51㎡) | 5,650 円 | 9,040 円 | 1 時間 2,260 円 |
| D (228.06㎡) | 3,330 円 | 5,320 円 | 1 時間 1,330 円 |
| E (105.91㎡) | 1,530 円 | 2,440 円 | 1 時間 610 円 |
| 映像室 (70.38㎡) | 1,030 円 | 1,640 円 | 1 時間 410 円 |

- ※ 1 入場料等を徴収する場合は、上記使用料の2倍とします。
- ※ 2 企画展示室の使用については、原則として県立美術館との共催事業に限ります。

② シアター等を使用する場合

| 室名 (面積) | 使用料 (入場料等を徴収しない場合) |
|------------------------|--------------------|
| シアター (220 席) (348.20㎡) | 1 時間 2,460 円 |
| 映写室 (36.36㎡) | 1 時間 260 円 |
| アナウンスブース (6.35㎡) | 1 時間 50 円 |
| ワークショップ A (124.38㎡) | 1 時間 920 円 |
| ワークショップ B (185.28㎡) | 1 時間 1,330 円 |
| 暗室 (22.45㎡) | 1 時間 160 円 |
| スタジオ (100.98㎡) | 1 時間 740 円 |
| 映像編集室 (24.77㎡) | 1 時間 180 円 |
| スタジオ映写室 (28.88㎡) | 1 時間 210 円 |

- ※ 1 入場料等を徴収する場合は、上記使用料の2倍とします。
- ※ 2 暗室は、ワークショップ A を利用する場合又はワークショップ A が利用されていない場合に使用できます。
- ※ 3 映写室、アナウンスブースは、シアターを利用する場合、使用できます。
- ※ 4 映像編集室、スタジオ映写室は、スタジオを利用する場合、使用できます。
- ※ 5 シアター借用時は映写室も併せて借用いただけます。

(3) 使用期間

① 展示施設

- ・コミュニティギャラリーは、原則として、月曜日始まり、日曜日終わりの1週間単位での使用期間とし、同一の利用者について引き続き5週間を超えることはできません。
- ・企画展示室については、原則として、1週間単位での使用期間とし、同一の利用者について引き続き5週間を超えることはできません。

② シアター等

- ・1時間単位での使用期間とし、同一の利用者について原則として引き続き10日を超えることはできません。

* 美術館のすべての施設において

- ・美術館の休館日は、原則として使用できません。(準備、撤去作業の場合は除く。)
- ・毎年度日数を定めて開催している展覧会や上記使用期間では開催目的が達成されない場合において必要と認められるときは、使用期間を変更できるものとします。

(4) 使用時間

- ① 美術館の施設使用時間は、美術館の開館時間〔9時30分から17時まで(6月～9月は、9時から18時まで)〕とします。なお、施設使用上やむを得ない理由があると認められる場合には、閉館後、1時間単位で21時まで延長することができます。開館時間前の使用については、御相談ください。
- ② 施設使用時間には、展覧会等の準備の時間及び撤収の時間も含まれます。(延長した場合であっても21時には撤収が完了していなければなりません。)
- ③ 展示施設は、9時30分から12時、13時から17時の使用区分とし、それ以外は1時間単位での使用とします。
- ④ シアター等は、1時間単位での使用とします。

■コミュニティギャラリー、企画展示室、シアター、スタジオほか

(単位：人)

| 使用期間 | 使用者 | 催事名 | 使用施設 | 入場者数 |
|-------------|---------------------|---|---|--------|
| 4/1-5/9 | 青森朝日放送株式会社 | シンプルな正体 ディック・ブルーナのデザイン展 | コミュニティギャラリー ABC | 4,459 |
| 5/20-5/21 | 株式会社バディーズ | 青森スタイリストアワード 2018 | コミュニティギャラリー ABC、 スタジオ、シアター、映写室、 ワークショップ A | 100 |
| 5/24-5/27 | 奥崎 文一 | フォトグループ 3g 写真展 | コミュニティギャラリー C | 160 |
| 6/4-7/31 | 青森放送株式会社 | 誕生 15 周年記念 くまのがっこう展 | コミュニティギャラリー ABC、 ワークショップ A | 19,138 |
| 8/17-9/3 | アウトプット展実行委員会 | アウトプット展 2018 | コミュニティギャラリー ABC | 2,310 |
| 9/4-9/9 | 横山隆雄 | 横山隆雄彫刻展 | コミュニティギャラリー A | 145 |
| 9/8 | 三上裕美 | 写真撮影会 (コスプレ撮影会) | コミュニティギャラリー B | 2 |
| 9/13-9/17 | 柳谷暁彦 | 柳谷暁彦作品展 「DESOLATION ROW」 | コミュニティギャラリー B | 150 |
| 9/28-9/30 | ひろさき芸術舞踏実行委員会 | DREAMER7 期生公演 THE CAT 100 万回生きたねこ | シアター、映写室 | 146 |
| 10/1-10/3 | 一般社団法人青森県文化振興会議 | 第 59 回青森県美術展覧会「県展 2018」審査 | コミュニティギャラリー ABC | 50 |
| 10/6-10/7 | 社会福祉法人平館福祉会 | エコル作品展 | コミュニティギャラリー A | 50 |
| 10/10-10/15 | 青森県高等学校文化連盟 | 第 39 回青森県高等学校総合文化祭 美術部門 | コミュニティギャラリー ABC、 シアター、スタジオ | 906 |
| 10/19-10/21 | MOA 美術館青森児童作品展実行委員会 | 第 30 回 MOA 美術館青森児童作品展 | コミュニティギャラリー ABC | 1,500 |
| 10/26-10/28 | 津軽裂織サクリ会 村上あさ子 | 津軽裂織教室作品展—風を感じて— | コミュニティギャラリー B | 177 |
| 10/26-10/28 | 青森県農林水産部林政課 | 青い森キコリ写真展 | コミュニティギャラリー C | 200 |
| 10/29-12/12 | 青森朝日放送株式会社 | 新海誠展「ほしのこえ」から「君の名は。」まで | 企画展示室 ABCDE、映像室 | 12,168 |
| 10/31-11/12 | 一般社団法人青森県文化振興会議 | 第 59 回青森県美術展覧会「県展 2018」 | コミュニティギャラリー ABC | 2,879 |
| 11/16-11/18 | おめめとおてて実行委員会 | 「おめめとおてて展～おめめちゃんとおててくんのごんぼ ホリデー～」in 青森 | コミュニティギャラリー ABC | 520 |
| 11/17 | 公益社団法人青森青年会議所 | ぼくらのムービーアカデミア | シアター、映写室 | 82 |
| 11/22-11/25 | 伊藤寛 | 津軽三十六分の三十景と鉛筆色鉛筆教室展 | コミュニティギャラリー A | 300 |
| 2/17 | 青森ブランド推進委員会 | 青森ブランドフォーラム | シアター、映写室、ワークショッ プ AB | 86 |
| 2/18-2/24 | 社会福祉法人あーと | あおもりインクルージョンフォーラム 2019 | ワークショップ AB | 220 |
| 3/29-3/31 | JAGDA 青森地区 | グラフィックデザイナーの 1 年展 | コミュニティギャラリー ABC | 500 |

合計 46,248 人

図書室

概要

図書室は、館の美術情報センターとしての機能を担い、その機能のうち美術に関する図書資料情報を収集、整理、保存、提供することで美術の普及を図ることを目的として、一般開放している。

具体的には、美術に関する専門ライブラリとして、来館者に対し、当館所蔵作品・作家に関するものをはじめ、美術に関する知識を深める図書資料情報の提供、閲覧、美術及び図書資料に関する相談受付（レファレンス）、他美術館等の展覧会情報の提供等を行っている。

設備：図書閲覧席 20席

開館日・開室時間：美術館開館日の10:00 - 16:00

図書資料の収集方針

「青森県立美術館作品収蔵基本方針」に準じ、1) 近・現代の青森県出身作家及びゆかりのある作家に関するもの、2) 青森県以外の近・現代の美術状況に対応するために必要な優れた美術作品に関するもの、3) 今に生きる県民の心の原点に関わり、未来に資するもの、4) 1 - 3を理解するために必要なもの、を購入および寄贈により収集した。

蔵書数（平成30年度3月末現在）

- ・美術図書 5,394冊
 - ・デザイン・建築関係図書 462冊
 - ・写真関係図書 502冊
 - ・絵本・イラスト関係図書 1,162冊
 - ・民俗・歴史関係図書 534冊
 - ・音楽・映画・舞台関係図書 998冊
 - ・展覧会カタログ 13,958冊
 - ・その他（自然科学、文学など） 2,457冊
 - ・雑誌（約60タイトル） 11,427冊
- ※継続購入は17タイトル
- 計 36,894冊

サービス

図書資料閲覧

美術に関する映像ソフトの鑑賞

美術に関する図書資料に係る相談受付（レファレンス）

当館に関する情報の掲載誌の閲覧

実績

開室日数：329日

利用者数：4,474人

レファレンス利用件数：16件

平成30年度図書室利用実績

| | 開室日数(日) | 入室者数(人) | | レファレンス | |
|-----|---------|---------|------|--------|------|
| | 月計 | 月計 | 1日平均 | 月計 | 1日平均 |
| 4月 | 29 | 280 | 9.7 | 1 | 0.03 |
| 5月 | 26 | 738 | 28.4 | 5 | 0.19 |
| 6月 | 29 | 580 | 20.0 | 3 | 0.10 |
| 7月 | 26 | 513 | 19.7 | 1 | 0.04 |
| 8月 | 31 | 638 | 20.6 | 1 | 0.03 |
| 9月 | 28 | 341 | 12.2 | 3 | 0.11 |
| 10月 | 25 | 355 | 14.2 | 0 | 0.00 |
| 11月 | 29 | 251 | 8.7 | 0 | 0.00 |
| 12月 | 26 | 169 | 6.5 | 1 | 0.04 |
| 1月 | 29 | 179 | 6.2 | 0 | 0.00 |
| 2月 | 26 | 164 | 6.3 | 0 | 0.00 |
| 3月 | 25 | 266 | 10.6 | 1 | 0.04 |
| 計 | 329 | 4,474 | 13.6 | 16 | 0.05 |

事業

1 美術館事業への支援・事業との連携

当館で行う常設展示及び企画展示と連携し、開催期間中、所蔵図書資料のうち展示に関連する資料を展示用書架にて紹介した。また、当館キッズルームで行ったおはなし会に所蔵絵本を活用した。

2 他の美術館・関係団体等との連携

「新着カタログコーナー」にて、新しく受け入れた他美術館の展覧会カタログを継続的に紹介した。

キッズルーム

概要

絵本やお絵かき、積み木などを親子で楽しむことを通じて、子どもたちの美術への関心を高めることを目的として、地下1階「キッズルーム」を、来館者の多い土日祝日と企画展開催時の平日に無料で開放している。

「キッズルーム」は、約600冊の絵本をはじめとして、スイスのnaef（ネフ）社製やおもり木製玩具研究会「わらはんど」製作の色や形の美しい積み木やお絵かきを自由に楽しめる空間となっている。

利用実績

開室時間：土日祝日及び企画展開催時の平日 10:00 - 15:00

平成30年度キッズルーム利用実績

| | 開室日数(日) | | 入室者数(人) | | 月計 | 平均 |
|-----|---------|-------|---------|-------|------|----|
| | 月計 | 子ども | おとな | 月計 | | |
| 4月 | 29 | 156 | 188 | 344 | 11.9 | |
| 5月 | 22 | 117 | 148 | 265 | 12.0 | |
| 6月 | 29 | 230 | 248 | 478 | 16.5 | |
| 7月 | 23 | 265 | 295 | 560 | 24.3 | |
| 8月 | 31 | 256 | 292 | 548 | 17.7 | |
| 9月 | 12 | 58 | 66 | 124 | 10.3 | |
| 10月 | 9 | 59 | 78 | 137 | 15.2 | |
| 11月 | 9 | 100 | 107 | 207 | 23.0 | |
| 12月 | 9 | 51 | 58 | 109 | 12.1 | |
| 1月 | 10 | 35 | 38 | 73 | 7.3 | |
| 2月 | 9 | 25 | 33 | 58 | 6.4 | |
| 3月 | 11 | 50 | 62 | 112 | 10.2 | |
| 計 | 203 | 1,402 | 1,613 | 3,015 | 14.9 | |

博物館実習

概要

博物館法施行規則第1条に定められた学芸員資格取得に関する博物館実習を実施した。

実施内容：美術館における諸活動（展示・収蔵・教育普及等）

期間：2018年8月16日（木）－8月20日（月）

実習指導：青森県立美術館職員他

実習生：9名

弘前大学（3名）、秋田公立美術大学（3名）、長岡造形大学（1名）、群馬県立女子大学（1名）、明治大学（1名）

プログラム

平成30年度 博物館（美術館）学芸員実習日程

第1日目 8月16日（木）

- ・オリエンテーション
- ・青森県立美術館の概要について
- ・学芸員の仕事について
- ・美術館のコレクション形成について
- ・美術館におけるパフォーミングアーツ活動
- ・実習日誌作成

第2日目 8月17日（金）

- ・作品の保存・管理について
- ・作品の取扱いおよび調書作成
（日本画、油彩画、立体、紙作品）
- ・来館者対応と美術館のホスピタリティについて
- ・展示室での監視ポジションの紹介とふるまい方研究
- ・監視員ヘルプについてみる
- ・報告会
- ・実習日誌作成

第3日目 8月18日（土）

- ・アートプロジェクトを体験しよう
- ・美術館の教育普及活動について
- ・美術館の施設およびサイン計画について
- ・実習日誌作成

第4日目 8月19日（日）

- ・展覧会の企画と実施1
- ・展覧会の企画と実施2
- ・[演習] 展覧会を企画してみよう1
－テーマ設定、作品リストの完成
- ・[演習] 展覧会を企画してみよう2
－普及活動の検討（展覧会関連イベント見学を含む）
- ・実習日誌作成

第5日目 8月20日（月）

- ・[演習] 展覧会を企画してみよう3
－展示プラン作成
- ・[演習] 展覧会を企画してみよう4
－展示上の留意点
- ・[演習] 企画した展覧会を発表してみよう（発表＋講評）
- ・実習日誌作成

サポートシップ倶楽部

概要

青森県立美術館の活動に協力するとともに広く県民の美術その他の芸術文化の向上に寄与するために平成27年度（平成28年3月）に発足した任意団体。

会員の区分と年会費

一般会員

成人会員：3,000円、学生会員（高校生以上）：2,000円、
法人会員：30,000円

特別会員（総会出席）

法人会員：一口100,000円

会員数（平成31年3月31日現在）

一般会員：成人会員144名、学生会員1名、法人会員5団体
特別会員：20法人（67口）

特典

会員への情報提供

一般会員

常設展観覧料無料観覧（法人会員は3名まで同時観覧可能）
企画展観覧料無料招待券配布のほか、いつでも団体料金で観覧可
ミュージアムショップ割引
カフェ割引
等

特別会員

企画展内覧会・レセプション招待
等

特別会員一覧

（公表を承諾した会員 50音順 平成31年3月31日現在）
青森朝日放送株式会社
株式会社青森銀行
学校法人青森田中学園
株式会社青森テレビ
青森トヨタ自動車株式会社
青森放送株式会社
上北農産加工株式会社
株式会社城ヶ倉観光
津軽海峡フェリー株式会社

株式会社東奥日報社

東北化学薬品株式会社

トヨタL&F青森株式会社

トヨタ小野グループサービス株式会社

株式会社トヨタレンタリース

ネットトヨタ青森株式会社

株式会社弘前公益社

株式会社みちのく銀行

吉田産業協同組合

平成30年度事業報告

1 美術館活動への支援事業

(1) 美術品購入及び寄贈

岩井康頼作品1点を購入し、青森県立美術館へ寄贈した。

(2) 美術資料の充実

美術品寄付のための積み立て。

(3) 美術館ファンの拡大

一般会員の会員特典（観覧料無料）をアピールし、観覧者数の増加を図った。延べ観覧者数602名。

2 県民の美術その他の芸術文化の向上に寄与するための事業

(1) 企画展関連の講演会・ワークショップ等への協賛等

① 「絵画の絆フランスと日本展」関連事業への協賛

○ 「記念講演会『日本とフランス：美意識の東西』」

平成30年6月9日（土）14:00 - 15:30 /

青森県立美術館シアター

講師 高階秀爾（美術史家、大原美術館館長）

② 「青森県立美術館コレクション展」関連事業への協賛

○ 「アレコホールにおけるシャガール『アレコ』全4作品
完全展示に係る鑑賞内容の充実化」

平成30年7月1日（日）～平成31年3月31日（日） /

青森県立美術館アレコホール

「アレコ特別鑑賞プログラム」と称し、バレエの舞台背景画である「アレコ」に舞台用の照明をあて、音楽とともにドラマティックに演出を加えながら、作品制作の背景、ストーリー、バレエについてなどをナレーションで紹介する約15分のプログラムを1日4回実施する事業への協賛。

③ 「めがねと旅する美術展」関連事業への協賛

○ 「『めがねと旅する美術展』東京飛地展示@カマタ__ソーコ」

平成30年7月6日（金）～7月22日（日）

14:00 - 20:00 / カマタ__ソーコ（東京都大田区）

同展の首都圏における情報発信の強化を目的とした、東京都大田区のカマタ__ソーコでの同展関連展示及びPRイベント実施への協賛。

④「青森県立美術館映画上映」事業の共催

○「特集・わたしの中の樹木希林」

平成30年10月5日（金）－10月8日（月・祝）／
青森県立美術館シアター

上映作品 「神様のくれた赤ん坊」「夢の女」「39- 刑法第三十九条」「東京タワー オカンとボクと、時々、オトン」「歩いてても歩いてても」「ずっと、いっしょ。」「あん」「人生フルーツ」

(2) 視察研修（参加者17名）

「十和田市現代美術館 & 青森県立三沢航空科学館と南部裂織の里をたずねて」

平成30年11月3日（土・祝） 8:30 - 17:30

- ①今年度開館10周年を迎えた十和田市現代美術館で常設展のほか開館10周年記念展「毛利悠子 ただし抵抗はあるものとする」を職員の解説とともに観覧。
- ②今年度開館15周年を迎えた青森県立三沢航空科学館をボランティアの解説とともに観覧。
- ③南部裂織の伝承と普及の拠点である匠工房「南部裂織の里」を裂織職人の解説とともに見学。

3 理事会及び総会の開催について

(1) 第1回理事会

- ①日時 平成30年5月29日（火） 10:30 - 10:50
- ②場所 青森国際ホテル5階 芙蓉の間
- ③議事 第1号議案 平成29年度事業報告の件
第2号議案 平成29年度収支決算の件
第3号議案 平成30年度事業計画（案）の件
第4号議案 平成30年度収支予算（案）の件
第5号議案 役員の任期満了に伴う改選の件

(2) 第1回総会

- ①日時 平成30年5月29日（火） 11:30 - 11:50
- ②場所 青森国際ホテル5階 芙蓉の間
- ③議事 第1号議案 平成29年度事業報告の件
第2号議案 平成29年度収支決算の件
第3号議案 平成30年度事業計画（案）の件
第4号議案 平成30年度収支予算（案）の件
第5号議案 役員の任期満了に伴う改選の件

(3) 第2回理事会

- ①日時 平成30年11月22日（木） 10:25 - 10:45
- ②場所 ラ・プラス青い森4階 ラ・メール
- ③議事 報告事項 平成30年度事業中間報告について

資料

広報

広聴

入館者数

運営予算・決算

組織

関係規程等

施設設備概要

広報

県の広報媒体を活用した広報活動や、Twitter・Facebook等のソーシャルメディアネットワークによる活動を展開した。

(1) 県広報による実績

- ・青森放送（RAB ラジオ）「県広報タイム」
- ・エフエム青森「あおもり・ふぁん」
- ・東奥日報、デーリー東北、陸奥新報「広報あおもりけん」
- ・県民だよりあおもり
- ・広報広聴課公式 Facebook「県政トピックス」

(2) ソーシャルメディアネットワーク

- ・Twitter
アカウント：aomori_museum_of_art@aomorikenbi
- ・Facebook
アカウント：https://www.facebook.com/aomori.museum
- ・instagram
アカウント：aomorikenbi

(3) ホームページ

URL：http://www.aomori-museum.jp（PC版）
http://www.aomori-museum.jp/ja_mobile（モバイル版）
年間アクセス数（2018.4 - 2019.3）：468,883件

(4) 雑誌等掲載実績（主なもの、順不同）

- ・美術手帖
 - ・rakra
 - ・まっぷる
 - ・るるぶ
 - ・ことりっぷ
 - ・大人の休日倶楽部
 - ・美術の窓
 - ・ピース函館
 - ・和楽
 - ・GLITTER
 - ・Discover Japan
 - ・Precious
 - ・おとなの週末
 - ・芸術新潮
 - ・ノジュール
- ほか多数

広聴

青森県立美術館アドバイザー・ボード

青森県立美術館のより良い運営を推進するため、青森県立美術館の運営に関して専門的及び県民の立場から必要な助言等を行う第三者委員会を設置。

アドバイザー（順不同）

座長 建島 哲（全国美術館会議会長）
三上 満良（宮城県美術館副館長）
山田 泰子（八戸市新美術館建設推進室室長）
蜷川 有紀（美術家・女優）
三澤 一実（武蔵野美術大学教授）
大嶋 憲通（株式会社リンクステーション代表取締役社長）
花田 玲子（県民代表）
松下 三恵（県民代表）

会議開催状況

第1回

開催日：2016年3月19日（土）

会場：青森県立美術館

第2回

開催日：2017年2月9日（木）

会場：青森県立美術館

第3回

開催日：2018年3月12日（月）

会場：青森県立美術館

第4回

開催日：2019年2月28日（木）

会場：青森県立美術館

入館者数

(単位：人)

| | | 18年度 | 19年度 | 20年度 | 21年度 | 22年度 | 23年度 | 24年度 | 25年度 | 26年度 | 27年度 | 28年度 | 29年度 ① | 30年度 ② | 増減 (②-①) |
|----------------|-----------------------|---------|---------|---------|----------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|-----------|-----------|-------------|
| 常設展 | 一般観覧者 | 193,501 | 89,229 | 109,609 | 190,672 | 233,192 | 141,904 | 177,266 | 179,793 | 73,541 | 137,198 | 92,714 | 125,342 | 134,453 | 9,111 |
| | スクールプログラム | 12,685 | 6,968 | 6,668 | 9,098 | 11,574 | 6,777 | 5,798 | 3,712 | 3,845 | 3,530 | 3,295 | 2,448 | 2,612 | 164 |
| | 常設展計 | 206,186 | 96,197 | 116,277 | 199,770 | 244,766 | 148,681 | 183,064 | 183,505 | 77,386 | 140,728 | 96,009 | 127,790 | 137,065 | 9,275 |
| 企画展 | シャガール展 | 192,918 | | | | | | | | | | | | | |
| | 縄文と現代展 | 14,894 | | | | | | | | | | | | | |
| | 工藤甲人展 | 1,680 | 10,950 | | | | | | | | | | | | |
| | 旅順博物館展 | | 30,065 | | | | | | | | | | | | |
| | 舞台芸術の世界展 | | 6,282 | | | | | | | | | | | | |
| | 棟方志功・崔榮林展 | | 4,156 | | | | | | | | | | | | |
| | 寺山修司展 | | | 9,533 | | | | | | | | | | | |
| | 大ナボレオン展 | | | 46,609 | | | | | | | | | | | |
| | 小島一郎展 | | | 8,660 | | | | | | | | | | | |
| | ウィーン展 | | | | 36,884 | | | | | | | | | | |
| | (特別展 太宰治と美術展) | | | | (23,191) | | | | | | | | | | |
| | 馬場のぼる展 | | | | 25,464 | | | | | | | | | | |
| | ラブラブショー | | | | 5,160 | | | | | | | | | | |
| | ローマ展 | | | | | 45,622 | | | | | | | | | |
| | ロボット展 | | | | | 25,076 | | | | | | | | | |
| | 芸術の青森展 | | | | | 3,530 | | | | | | | | | |
| | 印象派展 | | | | | | | 105,758 | | | | | | | |
| | 今和次郎展 | | | | | | | 4,807 | | | | | | | |
| | フィンランド展 | | | | | | | | 31,876 | | | | | | |
| | Art and Air 展 | | | | | | | | 18,267 | | | | | | |
| | 奈良美智展 | | | | | | | | 80,275 | | | | | | |
| | 種差展 | | | | | | | | | 16,807 | | | | | |
| | 横尾忠則展 | | | | | | | | | 10,516 | | | | | |
| | 日本の民家展 | | | | | | | | | 5,115 | | | | | |
| | 工藤哲巳展 | | | | | | | | | | 5,056 | | | | |
| | 美少女展 | | | | | | | | | | 33,866 | | | | |
| | 関野準一郎展 | | | | | | | | | | 8,158 | | | | |
| | 成田亨展 | | | | | | | | | | | 18,257 | | | |
| | 化け物展 | | | | | | | | | | | 32,984 | | | |
| | 「青森EARTH2015 みちの奥へ」展示 | | | | | | | | | | | 3,022 | | | |
| | 棟方志功展 | | | | | | | | | | | | 17,427 | | |
| | 日展 | | | | | | | | | | | | 19,094 | | |
| | 青森EARTH2016 根と路 | | | | | | | | | | | | 11,190 | | |
| 澤田教一展 | | | | | | | | | | | | 10,195 | | | |
| ラブラブショー2展 | | | | | | | | | | | | | 10,962 | | |
| 遙かなるルネサンス展 | | | | | | | | | | | | | 40,188 | | |
| 近代洋画展 | | | | | | | | | | | | | 6,762 | | |
| シャガール-三次元の世界展 | | | | | | | | | | | | | 4,057 | 14,665 | |
| フランスと日本展 | | | | | | | | | | | | | | 31,543 | |
| めぐりと旅する美術展 | | | | | | | | | | | | | | 16,867 | |
| 企画展計 | | 209,492 | 51,453 | 64,802 | 67,508 | 74,228 | 110,565 | 130,418 | 32,438 | 47,080 | 54,263 | 57,906 | 61,969 | 63,075 | 1,106 |
| 教育普及 | スクールプログラム | 18,775 | 9,905 | 9,242 | 7,087 | 7,272 | 7,368 | 6,310 | 5,792 | 3,974 | 4,065 | 4,158 | 2,687 | 3,762 | 1,075 |
| | 普及プログラム | 2,300 | 2,148 | 2,873 | 886 | 718 | 11,763 | 2,565 | 2,744 | 1,575 | 557 | 96 | 851 | 1,692 | 841 |
| | お出かけ講座 | 1,196 | 1,587 | 1,122 | 1,119 | 537 | 1,250 | 1,022 | 1,245 | 383 | | | | | 0 |
| | 展示関係プログラム | | | 625 | 1,526 | 7,546 | 930 | 909 | 1,738 | 932 | 757 | 1,688 | 482 | 549 | 67 |
| | その他 | 500 | | 464 | 266 | 399 | 387 | 351 | 136 | 440 | 393 | 411 | 1,161 | 285 | △ 876 |
| 教育普及計 | | 22,771 | 13,640 | 14,326 | 10,884 | 16,472 | 21,698 | 11,157 | 11,655 | 7,304 | 5,772 | 6,353 | 5,181 | 6,288 | 1,107 |
| パフォーミング アーツ | 演劇 | 2,170 | 1,821 | 1,516 | 1,333 | 1,085 | 2,962 | 3,468 | 5,255 | 2,258 | 2,140 | 2,163 | 3,054 | 835 | △ 2,219 |
| | ダンス | | | 1,419 | 1,089 | 520 | | | 339 | 699 | 662 | 490 | 632 | 602 | △ 30 |
| | 音楽 | 1,559 | 471 | 1,583 | 1,959 | 970 | 979 | 1,133 | 810 | 469 | 479 | 469 | 428 | 573 | 145 |
| | 映画 | 975 | 1,954 | 1,584 | 685 | | | | 240 | 991 | 503 | 1,024 | 818 | 1,993 | 1,175 |
| パフォーミングアーツ計 | 4,704 | 4,246 | 6,102 | 5,066 | 2,575 | 3,941 | 4,601 | 6,644 | 4,417 | 3,784 | 4,146 | 4,932 | 4,003 | △ 929 | |
| 貸館 | | 10,268 | 26,481 | 194,807 | 104,625 | 144,520 | 20,735 | 33,410 | 126,284 | 26,192 | 71,045 | 58,931 | 28,185 | 47,790 | 19,605 |
| 図書館 | | 2,552 | 7,727 | 12,910 | 10,012 | 7,864 | 6,561 | 10,688 | 6,818 | 4,662 | 4,307 | 6,557 | 3,467 | 4,474 | 1,007 |
| キッズルーム | | | 2,850 | 3,690 | 3,127 | 3,555 | 20,501 | 15,889 | 4,267 | 2,602 | 3,118 | 3,545 | 2,738 | 3,015 | 277 |
| 合計 | | 455,973 | 202,594 | 412,914 | 400,992 | 493,980 | 332,682 | 389,227 | 371,611 | 169,643 | 283,017 | 233,447 | 234,262 | 265,710 | 31,448 |

※ キッズルームは平成19年4月28日からオープン

※ 特別展太宰治と美術展入館者数は常設展入館者数に含む

運営予算・決算

平成 30 年度 一般会計予算額

(単位：千円)

| 事業名 | 収入 | 科目 | 支出 | 細目 | 説明 |
|------|-----------|----------|-----------|----------|---|
| 美術館費 | 46,225 | 使用料及び手数料 | 171,192 | 職員費 | 人件費 |
| | 12,425 | 国庫支出金 | 903,989 | 美術館運営管理費 | 管理運営費、調査研究費、美術資料収集費、美術資料保存管理費、展示費、教育普及費、情報事業費、パフォーミングアーツ事業費 他 |
| | 108 | 財産収入 | 14,782 | 公園管理費 | 三内丸山遺跡等管理費 (4月1日より教育庁に移管)、青森県総合運動公園管理費 |
| | 41,011 | 繰入金 | | | |
| | 83,873 | 諸収入 | | | |
| | 430,000 | 県債 | | | |
| | 476,321 | 一般財源 | | | |
| 合計 | 1,089,963 | | 1,089,963 | | |

平成 30 年度 一般会計決算額

(単位：千円)

| 事業名 | 収入 | 科目 | 支出 | 細目 | 説明 |
|------|---------|----------|---------|----------|---|
| 美術館費 | 45,538 | 使用料及び手数料 | 164,235 | 職員費 | 人件費 |
| | 0 | 国庫支出金 | 441,951 | 美術館運営管理費 | 管理運営費、調査研究費、美術資料収集費、美術資料保存管理費、展示費、教育普及費、情報事業費、パフォーミングアーツ事業費 他 |
| | 109 | 財産収入 | 984 | 公園管理費 | 青森県総合運動公園管理費 |
| | 68,753 | 繰入金 | | | |
| | 55,001 | 諸収入 | | | |
| | 22,000 | 県債 | | | |
| | 415,769 | 一般財源 | | | |
| 合計 | 607,170 | | 607,170 | | |

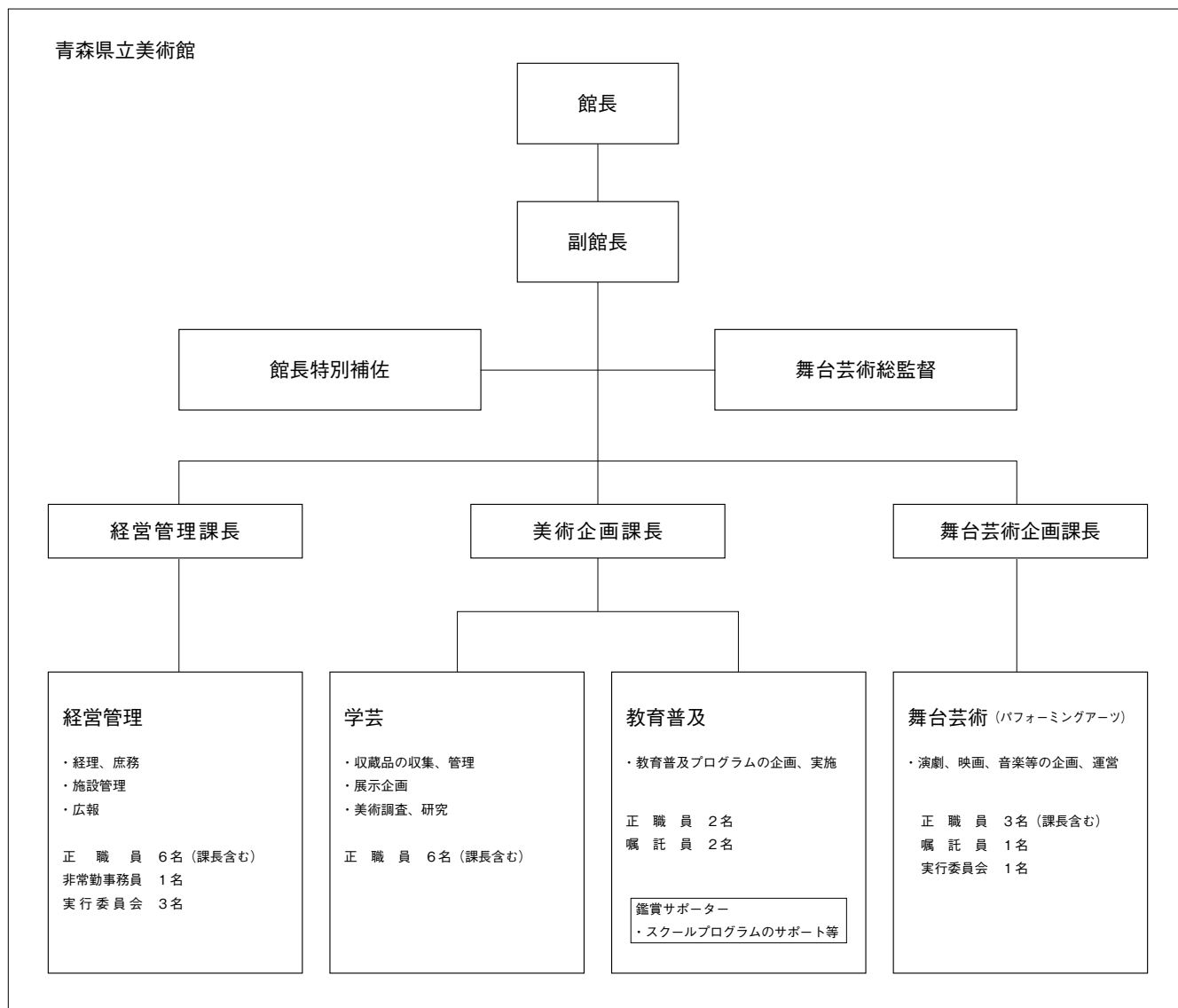
組織

□ 県立美術館の運営は、アドバイザー・ボードからの助言を得ながら行っている。

□ 館長、県職員（非常勤含む）20人、嘱託員3人の計24人が美術館運営にあっている。

このほか、企画展実行委員会職員3名、パフォーミングアーツ実行委員会職員1名が配置されている。

(平成30年4月1日現在)



関係規程等

青森県立美術館条例

(設置)

第一条 美術その他の芸術の鑑賞及び学習の機会並びに創作活動の場の提供を行うことにより、県民の芸術に関する活動への参画を支援し、もって文化の振興を図るため、青森市に青森県立美術館（以下「美術館」という。）を設置する。

(業務)

第二条 美術館は、次に掲げる業務を行う。

- 一 美術品その他の芸術に関する資料（以下「美術品等」という。）の収集、保管及び展示に関すること。
- 二 美術品等の利用に関し必要な説明、助言及び指導に関すること。
- 三 美術品等に関する専門的、技術的な調査研究に関すること。
- 四 美術品等に関する案内書、解説書、目録、図録、年報、調査研究の報告書等の作成及び配布に関すること。
- 五 美術その他の芸術に関する講演会、講習会、映写会、研究会、公演会等の開催に関すること。
- 六 美術その他の芸術に関する情報の収集及び提供に関すること。
- 七 美術その他の芸術に関する創作活動の場の提供に関すること。
- 八 その他県民の芸術に関する活動への参画を支援するために必要な業務

(使用の承認)

第三条 別表第二号又は第三号に掲げる場合において、美術館の施設を使用しようとする者は、知事の承認を受けなければならない。

(使用料)

第四条 美術館の施設を使用する者（以下「使用者」という。）は、別表に定める使用料を納入しなければならない。

2 知事は、特別の理由があると認めるときは、前項の使用料の全部又は一部を免除することができる。

(使用の制限等)

第五条 知事は、使用者が次の各号のいずれかに該当する場合は、当該使用者の美術館の使用を拒み、その使用の承認を取り消し、又はその使用を制限することができる。

- 一 他の使用者に迷惑をかけ、又はそのおそれがあるとき。
- 二 美術館の施設、設備等をき損し、若しくは汚損し、又はそれらのおそれがあるとき。
- 三 この条例又はこの条例に基づく規則に違反したとき。

2 知事は、前項に規定する場合のほか、美術館の管理運営上支障があると認めるときは、美術館の使用を制限することができる。

(委任)

第六条 この条例に定めるもののほか、美術館の管理に関し必要な事項は、規則で定める。

附則 この条例は、規則で定める日から施行する。

別表（第三条、第四条関係）

一 美術品等の観覧のための使用の場合

| 区分 | 金額（一回につき） |
|--------|--------------------------|
| 常設展の観覧 | 一人につき 千円を超えない範囲内で知事が定める額 |
| 企画展の観覧 | 知事がその都度定める額 |

二 展示施設の使用の場合

イ 入場料その他これに類する料金を徴収しないで使用する場合

| 区分 | 九時三十分から 十二時まで | 十三時から 十七時まで | 九時三十分以前、 十二時から十三時 まで及び十七時以降 |
|--------------|------------------|----------------|-----------------------------------|
| コミュニティギャラリーA | 二千百三十円 | 三千四百円 | 八百五十円 |
| コミュニティギャラリーB | 八百八十円 | 千四百円 | 三百五十円 |
| コミュニティギャラリーC | 千八百八十円 | 三千円 | 七百五十円 |
| 展示室A | 二千五百円 | 四千円 | 千円 |
| 展示室B | 二千円 | 三千二百円 | 八百円 |
| 展示室C | 五千五百円 | 八千八百円 | 二千二百円 |
| 展示室D | 三千二百五十円 | 五千二百円 | 千三百円 |
| 展示室E | 千五百円 | 二千四百円 | 六百円 |
| 映像室 | 千円 | 千六百円 | 四百円 |

ロ 入場料その他これに類する料金を徴収して使用する場合は、この場合の使用料の額の二倍に相当する額

三 シアター等の使用の場合

イ 入場料その他これに類する料金を徴収しないで使用する場合

| 区分 | 金額（一時間につき） |
|----------|------------|
| シアター | 二千四百円 |
| 映写室 | 二百六十円 |
| アナウンスブース | 五十円 |
| ワークショップA | 九百円 |
| ワークショップB | 千三百円 |
| 暗室 | 百六十円 |
| スタジオ | 七百二十円 |
| 映像編集室 | 百八十円 |
| スタジオ映写室 | 二百十円 |

ロ 入場料その他これに類する料金を徴収して使用する場合は、この場合の使用料の額の二倍に相当する額

四 食堂施設又は売店施設の使用の場合

知事が定める額

青森県告示第 五百二十五 号

青森県立美術館条例（平成十七年十月青森県条例第六十九号）別表第四号の規定により、青森県立美術館の食堂施設及び売店施設の使用料の額を次のとおり定める。

平成十八年七月十二日

青森県知事 三村申吾

| 区分 | 金額（一年につき） |
|------|-----------|
| 食堂施設 | 八十三万四千八百円 |
| 売店施設 | 六十六万五千六百円 |

備考 使用期間が一年に満たないとき、又は使用期間に一年に満たない端数があるときは、その全期間又は端数部分について日割で計算する。

青森県立美術館規則

（趣旨）

第一条 この規則は、青森県立美術館条例（平成十七年十月青森県条例第六十九号。以下「条例」という。）第六条の規定に基づき、青森県立美術館（以下「美術館」という。）の管理に関し必要な事項を定めるものとする。

（開館時間）

第二条 美術館の開館時間は、午前九時三十分から午後五時まで（六月一日から九月三十日までの期間にあっては、午前九時から午後六時まで）とする。

2 美術館の副館長（以下「副館長」という。）は、必要があると認めるときは、前項の開館時間を変更することができる。

第三条 美術館の休館日は、次のとおりとする。

一 毎月第二月曜日及び第四月曜日（その日が国民の祝日に関する法律（昭和二十三年法律第七十八号）に規定する休日）に当たるときは、その翌日

二 十二月二十七日から同月三十一日までの日

2 副館長は、必要があると認めるときは、前項の休館日に開館し、又は同項の休館日以外の日に休館することができる。

（使用料の承認の手続）

第四条 条例第三条の規定による使用料の承認（以下「使用料の承認」という。）を受けようとする者は、使用申込書を知事に提出しなければならない。

2 知事は、使用料の承認をしたときは、当該使用料の承認を受けた者に使用承認書を交付するものとする。

（使用料の免除の申請）

第五条 条例第四条第二項の規定による使用料の免除を受けようとする者は、免除申請書を知事に提出しなければならない。

（使用料の取消し等）

第六条 副館長は、美術館の施設を使用する者（以下「使用者」という。）が不正な手段により使用料の承認を受けたと認めるときは、その使用料の承認を取り消し、又はその使用を制限することができる。

（原状回復等）

第七条 使用者は、故意又は重大な過失により美術館の施設、設備、美術品その他の芸術に関する資料等をき損し、又は汚損したときは、原状に復し、又は現品若しくはそれに相当する代価をもって弁償しなければならない。

附則

この規則は、平成十八年七月十三日から施行する。

附則

この規則は、平成二十七年四月一日から施行する。

青森県立美術館管理規程

（趣旨）

第1条 この規程は、青森県立美術館条例（平成17年10月青森県条例第69号。以下「条例」という。）及び青森県立美術館規則（平成18年7月青森県規則第72号。以下「規則」という。）に定めるもののほか、青森県立美術館（以下「美術館」という。）の管理に関し必要な事項を定めるものとする。

（観覧券の交付）

第2条 条例別表第1号に定める使用料を納入した者に対し、観覧券を交付するものとする。

（使用料の承認）

第3条 規則第4条第1項に規定する使用申込書の様式は、第1号様式とする。

2 規則第4条第2項に規定する使用承認書の様式は、第2号様式とする。

3 規則第4条に規定する使用承認の手続きに関し必要な事項は、副館長が別に定める。

（使用料の納付）

第4条 使用料の許可を受けた者は、納入通知書により指定する日までに使用料を納入しなければならない。

（使用料の還付）

第5条 納付された使用料は、還付しない。ただし、天災その他利用者の責めによらない理由により美術館を使用できなくなった場合は、この限りではない。

2 前項ただし書きにより使用料の還付を受けようとする者は、使用料還付請求書（第3号様式）を副館長に提出しなければならない。

（使用料等の免除）

第6条 副館長は、条例別表第1号に規定する常設展の観覧が次の各号のいずれかに該当するときは、規則第5条の規定により使用料の全部又は一部を免除するものとし、その免除の額は、当該各号に定める額とする。

一 教育課程に基づく学習活動として観覧する小学校、中学校、中等教育学校前期課程及び特別支援学校の児童、生徒及び引率する教職員が観覧するとき 使用料の全部の額

二 児童福祉法（昭和22年法律第164号）第7条に規定する児童福祉施設に入所している少年及び引率する当該施設の職員が観覧するとき 使用料の全部の額

三 身体障害者福祉法（昭和24年法律第283号）第15条

第4項の規定による身体障害者手帳の交付を受けている者及びその付添人が観覧するとき（ただし、免除する付添人は、当該障害者一人につき一人までとする。）使用料の全部の額

四 精神保健及び精神障害者福祉に関する法律（昭和25年法律123号）第45条第2項の規定による精神障害者保健福祉手帳の交付を受けている者、療育手帳の交付を受けている知的障害者及びこれらの付添人が観覧するとき（ただし、免除する付添人は、当該障害者一人につき一人までとする。）使用料の全部の額

五 前各号に掲げるもののほか、副館長が特別の理由があると認めるとき 使用料の全部の額又は一部の額

2 前項第1号、第2号及び第5号に規定する常設展の使用料の免除を受けようとする者は、常設展の観覧使用料免除申請書（第4号様式）を副館長に提出しなければならない。

3 副館長は、条例別表第2号又は第3号に掲げる施設の使用が美術館の目的にふさわしい資料展示、講習会、研究会等のためであり、かつ、次の各号のいずれかに該当するときは使用料の全部又は一部を免除するものとし、その免除の額は、当該各号に定める額とする。

一 学校教育法（昭和22年法律26号）第1条に規定する学校が教育課程に基づく学習活動として使用するとき 使用料の全部の額

二 児童福祉法（昭和22年法律第164号）第7条に規定する児童福祉施設に入所している少年を対象とする事業に使用するとき 使用料の全部の額

三 身体障害者福祉法（昭和24年法律第283号）第15条第4項の規定による身体障害者手帳の交付を受けている者及びその付添人を対象とする事業に使用するとき 使用料の全部の額

四 精神保健及び精神障害者福祉に関する法律（昭和25年法律123号）第45条第2項の規定による精神障害者保健福祉手帳の交付を受けている者及び療育手帳の交付を受けている知的障害者とこれらの付添人を対象とする事業に使用するとき 使用料の全部の額

五 美術館を構成員とする実行委員会等が主催して使用するとき 副館長が事案に即して相当と認める額又は使用料の全額

六 芸術の振興を目的として活動している団体が主体となつて、美術館と共催し使用するとき 使用料の2分の1に相当する額を基本として副館長が事案に即して相当と認める額

七 前各号に掲げる場合のほか、副館長が特別の理由があると認めるとき 副館長が定める額

4 前項に規定する施設の使用料の免除を受けようとする者は、施設使用料免除申請書（第5号様式）を副館長に提出しなければならない。

（美術品等の貸出）

第7条 副館長は、別に定めるところにより美術館の資料を貸し出すことができる。

（美術品等の寄託又は寄贈）

第8条 副館長は、別に定めるところにより美術資料の寄託又

は寄贈を受けることができる。

（美術資料の特別観覧）

第9条 副館長は、美術館に収蔵されている美術資料について学術研究等のために必要があると認めるときは、当該美術資料の模写、模造、撮影等（以下「特別観覧」という。）をさせることができる。

2 前項に規定する特別観覧をしようとする者は、特別観覧承認申請書（第6号様式）を副館長に提出しなければならない。

附則

この規定は、平成18年7月13日から施行する。

この規程は、平成19年6月25日から施行する。

この規定は、平成21年1月19日から施行する。

この規程は、平成27年4月1日から施行する。

青森県立美術館アドバイザー・ボード設置要綱

（設 置）

第1 青森県立美術館（以下「美術館」という。）のより良い運営を推進するため、青森県立美術館アドバイザー・ボード（以下「アドバイザー・ボード」という。）を設置する。

（所 掌）

第2 アドバイザー・ボードは、美術館の運営に関して必要な助言等を行う。

（構 成）

第3 アドバイザー・ボードは、8名以内のアドバイザーをもって組織する。

2 アドバイザーは、学識経験を有する者その他適当と認められる者から知事が委嘱する。

3 アドバイザー・ボードに座長を置き、アドバイザーの互選により選出する。

4 アドバイザーに欠員を生じた場合の補欠のアドバイザーの任期は、前任者の残任期間とする。

（任 期）

第4 アドバイザーの任期は、2年とする。ただし、再任を妨げない。

（会 議）

第5 アドバイザー・ボードは、青森県立美術館長が招集する。

2 アドバイザー・ボードの議長は、座長が務める。

3 座長に事故があるときは、座長が指示するアドバイザーがその職務を代理する。

（庶 務）

第6 アドバイザー・ボードの庶務は、美術館において処理する。

（その他）

第7 この要綱に定めるもののほか、アドバイザー・ボードの運営に関し必要な事項は、美術館が別に定める。

附 則

この要綱は、平成27年8月20日から施行する。

施設設備概要

建設概要

| | |
|-------|--|
| 施設名称 | 青森県立美術館 |
| 所在地 | 青森市大字安田字近野 185 |
| 主用途 | 美術館 |
| 事業主体 | 青森県 |
| 設計管理 | 青木淳建築計画事務所 構造：金箱構造設計事務所 設備：森村設計 音響：永田音響設計 土系素材：I N A X |
| 施工 | 竹中・西松・奥村・北斗特定建設工事共同企業体 強電：きんでん・五十嵐・野呂特定建設工事共同企業体 弱電：奈良・高田特定建設工事共同企業体 空調：高砂・青木・佐藤設備特定建設工事共同企業体 衛生：芝管・五戸特定建設工事共同企業体 昇降機：三菱電機株式会社 |
| 面積 | 敷地面積：129,536.37㎡ 建築面積：7,223.07㎡ 延床面積：21,222.19㎡ 地下2階：4,736.15㎡ 地下1階：3,965.11㎡ 1階：5,339.02㎡ 2階：2,403.81㎡ 3階（機械エリア）：4,778.10㎡ 建ぺい率：5.58% 容積率：16.38% |
| 階数 | 地下2階 地上3階 |
| 寸法 | 最高高：16,160 mm 軒高：15,150 mm 階高：地下2階 2,300 - 19,000 mm 地下1階 2,500 - 7,500 mm 1階 2,700 - 11,000 mm 2階 2,500 - 4,000 mm 主なスパン：3,000 mm × 3,000 mm |
| 地域・地区 | 都市計画区域内 市街化区域 |
| 構造 | 鉄骨鉄筋コンクリート造（地下1・2階） 鉄骨造（地上1-3階） 杭・基礎：杭基礎（PHC-ST 杭）600φ・700φ、 （PHC 杭）600φ |

| | |
|-------|--|
| 空調設備 | A H U ・定風量単一ダクト方式、一部F C U、空冷パッケージ方式 熱源：冷温水発生機（320USRt、280USRt）、加湿用蒸気ボイラ、空冷チラー（87USRt） |
| 照明設備 | スポットライト及び蛍光灯（調光設備・紫外線カット付） |
| 消火設備 | 屋内消火栓、スプリンクラー、不活性ガス（窒素）消火、加圧式粉末 ABC 消火器 設備項目：自火報・防排煙設備、屋内消火栓設備、スプリンクラー設備（開放型、予作動型）、窒素ガス消火設備（一部展示室、収蔵庫、熱源機械室） |
| 排煙設備 | 機械排煙設備（3系統） |
| 防犯設備 | 開館時、常時警備員巡回。展覧会開催中は会場内に監視員を置く。展示室内には監視カメラを設置し、監視室にて監視。 |
| 衛生設備 | 給水：受水槽（42 t）+加圧給水ポンプユニット方式 給湯：局所式（電気温水器）、ガス湯沸器（厨房） 排水：ポンプアップ排水 |
| 電気設備 | 受電方式：高圧電力3φ3W 6,600V 1回線受電（業務用電力+融雪電力） 設備容量：2,650 kVA 契約電力：660 kW 予備電源：非常用発電設備 500 kVA、直流電源設備（非常照明用） 設備項目：受変電設備、自家発電設備、幹線設備、動力設備、電灯設備、展示調光設備、避雷設備、外構設備、電話設備、情報設備、インターホン設備、誘導支援設備、テレビ共同受信設備、監視カメラ設備、機械警備設備、放送設備、中央監視設備、外構設備、演出照明設備（シアター、スタジオ）、演出音響設備、映写設備（シアター） |
| 昇降機 | 荷物用エレベータ1台 乗用エレベータ8台 |
| 設計期間 | 1999年12月-2002年3月 |
| 施工期間 | 2002年12月-2005年9月 |
| 外部仕上げ | 屋根：ウレタン塗膜防水 外壁：煉瓦+アクリルシリコン塗装 外構：コンクリート舗装ほうき目仕上げ |
| 内部仕上げ | 展示室（白） |

床：カラーモルタル金こて押え t = 20 mm + 防塵
防汚塗装

壁：合板 t = 15 mm × 2 + プラスターボード t = 12
mm + 全面寒冷紗バテ処理 + EP

天井：合板 t = 12 mm + プラスターボード t = 9 mm
+ EP

展示室（土）

床：タタキ t = 50 mm

壁：版築 t = 200 mm

天井：合板 t = 12 mm + プラスターボード t = 9 mm
+ EP

コミュニティホール

床：クリフローリング t = 15 mm

壁：プラスターボード 12 mm × 2 + スタッコ

天井：人工木材ローズウッド練り付け

シアター

床：フェルト t = 8 mm + カーペット t = 7 mm

壁：プラスターボード t = 15 mm + グラスウール
ボード + エキスパンダメタル t = 6 mm（樹
脂コーティング処理）

天井：グラスウール + プラスターボード t = 15 mm
+ エキスパンダメタル t = 6 mm（樹脂コー
ティング処理）

オフィス

床：システム根太ユニット 600 mm × 600 mm +
コンパネ t = 12 mm + クリフローリング t =
15 mm

壁：プラスターボード t = 12 mm × 2 + EP

天井：プラスターボード t = 12 mm + 吸音板 t = 12
mm + EP

アクセス

- J R 新青森駅から車で約 10 分
- 青森駅から車で約 20 分
- 青森空港から車で約 20 分
- 東北縦貫自動車道青森 I.C. から車で約 5 分
- (八戸方面から) 青森自動車道青森中央 I.C. から車で約 10 分
- 市営バス 青森駅前 6 番バス停から三内丸山遺跡行き
「県立美術館前」下車 (所要時間約 20 分)
- ルートバスねぶたん号新青森駅東口バス停から乗車
「県立美術館前」下車 (所要時間約 10 分)



青森県立美術館年報

平成 30 年度

編集・発行：青森県立美術館
青森市安田字近野 185 038-0021
017-783-3000

表紙デザイン：菊地敦己

印刷：青森オフセット印刷株式会社

発行日：2020 年 1 月